

KalpalataとAvadanamalaの研究(4) : Narakapurvika, Pretibhutamaharddhikaなど

岡野, 潔
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/1470421>

出版情報 : 南アジア古典学. 8, pp.161-264, 2013-07. 九州大学文学部インド哲学史研究室
バージョン :
権利関係 :



Kalpalatā と Avadānamālā の研究 (4)

— Nārapūrvika, Pretībhūtamaharddhikā など —

岡 野 潔

南アジア古典学 第8号 別刷

South Asian Classical Studies, No. 8, pp. 161-264

Kyushu University, Fukuoka, JAPAN

2013年7月 発行

Kalpalatā と Avadānamālā の研究 (4) — Nārapūrvika, Pretībhūtamahārddhikā など —

九州大学 岡野 潔

略号

Avś = Avadānaśataka

Kalpalatā = Bodhisattvāvadānakalpalatā

S17 = the chapter 17 of the Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

SMRAM = Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

TJAM = Tathāgatajanmāvadānamālā (= Padya-lalitavistara)

本論文は三部から成る。第一部ではクシェーメンドラ作『菩薩のアヴァダーナの如意鬘』(Bodhisattvāvadānakalpalatā)の第82章 Nārapūrvikāvadāna『まず先に地獄に生まれ[後に天に生まれ]る者のアヴァダーナ』の校訂と翻訳を行う。

第二部では前号の第二部に引き続き、餓鬼の説話を取り上げる。Avadānaśataka(梵文『撰集百緣経』)の韻文再話文献である中世ネパールのアヴァダーナ・マーラー文献 Subhāṣitamahāratnāvadānamālā(『善説・偉大な宝珠アヴァダーナ集成』)の中の第17章 Pretībhūtamahārddhikāvadāna『大神通餓鬼女アヴァダーナ』の校定と部分訳を行う。またこの餓鬼女の章は Avadānaśataka 第46章 Uttaraḥ を源泉資料としているので、それも訳しつつ、比較を行う。

以上の第一部と第二部は、これまで『南アジア古典学』の拙稿の第一部と第二部で行ってきた仕事の継続であって、前号と同じ二つのテキストのそれぞれ別の章を扱っているが、今回は新たに第三部を加え、ネパール撰述仏典の別の梵文テキストの研究を発表することにした。それは梵文の avadānamālā 文献の一種である Tathāgatajanmāvadānamālā(『如来出生アヴァダーナ集成』)という作品である。聞き慣れない作品名であるが、それはこれまで学界で Padya-Lalitavistara という通称で研究者に呼ばれてきた作品の、正式名称である。その作品の第8章 Bodhisattvajānmaparivarta『菩薩誕生品』の校定・和訳を行う。

第一部の Kalpalatā 第82章の梵文・蔵文の校定と翻訳においては、今回もドイツの Michael HAHN 教授と出本充代博士から多数の修正意見をいただくことが出来た。いつもながらの両先生の御親切に深く感謝する。

また前号（第7号）の出版後に、前号の拙稿の第80章19偈（272頁）について、辛嶋静志博士から訂正意見をいただいた。8歳の沙弥であるチュンダ（純頭）が六神通を得ていたと出曜経巻九（T4 658b）は伝えるが、しかし六神通を有するということは、必ず阿羅漢に達していたことを意味するはず、という尤もなご意見であって、沙弥たることと阿羅漢たることは矛盾していないのに、その両立を避けようとして別の読みを考えた私の判断の誤りに気づくことができた。高慢なスバドラが衝撃を受けたのはチュンダが子供なのに阿羅漢としての大神通力を示したからなのであるが、私もまたスバドラ同様に常識に囚われて、小僧チュンダを見くびる誤りを犯したことになる。同時にまたその箇所では、*cunda* を *cundha* と記した綴り字の重大なミスもあった。辛嶋先生に感謝し、ここに訂正を行いたい。以下、修正後の文面を示す（太字が直した箇所である）：

*atha *cundābhido 'bhyetya śravaṇo 'rhattvam āgataḥ /*
ṛddhyā cakre parājitya taṃ praśāntamadodayam // 80.19 //

19a **cundābhido*] ex conī (Ed.): *cundrābhido* A: *candrābhido* BE: *buddhā bhi dho* T (cf. Tib. *sangs rgyas zhes bya*). 19b *śravaṇo 'rhattvam*] E: *śravaṇorhatvam* A: *śravaṇārhatvam* B (=Ed.): *śra ma nārha tvā m* T (cf. Tib. *dge sbyong dgra bcom*). Cf. de JONG. 19d *madodayam*] A: *mahodayam* BE. [...]

すると阿羅漢に達したチュンダという名の仏弟子がやって来て、超自然力をもって彼を調伏して、[彼の] 驕慢の増大を鎮めた。

以上のように文面を訂正したい。さらに同じ頁（272頁）の21行目も **cundhābhido* を **cundābhido* と訂正する。また、315頁1行目の「自宅近くの池の中から」の訳は、「自宅近くの井戸の中から」のほうがよい。

第一部

Avadānakalpalatā 第82章 Nārapūrvika

『まず先に地獄に生まれる者』

ここに校定と翻訳を行う *Kalpalatā* 第82章 *Nārapūrvika* 『まず先に地獄に生まれ [後に天に生まれ] る者』の *Avadāna* に相当する物語は、藏訳と漢訳の根本有部毘奈耶出家事に見い出せる。出家事その箇所は *Gilgit* 写本から梵文が得られる。Citroën 探検隊が入手した数葉の根本有部律の *Gilgit* 写本を S. Lévi (1932) がローマ字転写して *Journal Asiatique* 誌上に発表したのが、その中にこの *Nārapūrvika* の話に対応する母殺し

のテキストがある¹。出家事のこの話は、古くは Léon FEER (1883) によって蔵訳から仏訳されている²。

またこの母殺しの話は、類似する有部系統の伝承が出曜経卷四の欲品第二 (T4 627a-c) にも見出される。その出曜経の記述は簡略化されて経律異相卷四十五 (T53 237c-238a) にも収められた³。

Kalpalatā の作者 Kṣemendra はこの第82章の作成にあたって、恐らく根本有部毘奈耶出家事の伝承を源泉資料として用いたと思われる。この話は出家事の「受戒遮難法」に位置するが、五逆罪（殺母・殺父・殺阿羅漢・破僧・出仏身血）の者に出家を許さないという受戒のルールが説かれる中で、殺母者 (mātrghātaka) が教団で受戒していたことの事例としてこの話が置かれる。出家事によれば、話の主人公は母殺しの重罪を犯しながら、仏教教団に入るを得たが、後でその大罪が問題となり、それが受戒の時には必ず「あなたは母を殺していないか」と尋ねて、母殺しの者は受戒を拒否する、というルールが教団で制定されるきっかけになった。このように、この話は本来戒律制定のための因縁話 (nidāna) として律の中で生成したことは疑いない内容をもつ。しかしこの話では、主人公が五逆罪の者に入団を許さないというルールが教団で出来る前に入団したために、母殺しでありながら仏教教団に入ることを得た最後の者になったということだけで終わらないで、主人公のその後の救済が説かれている点が重要である。彼は母殺しの業を消す方法を求めて仏教教団に入ったが、悪業を除去する方法というものはどこにも存在しないため、犯した罪のために死後にまず地獄に落ちざるを得なかったものの、しかし仏教に帰依し出家した業により、その後四大王天に生まれることが出来た。題名からも知られるように、主人公はまず地獄に墮ちつつも、それで終わらず、最後には天界に生まれて幸せになっている。つまり本来は戒律制定の因縁として生まれた話が、それだけで完結してしまわずに、重罪を犯した者であっても出家のもたらす大きな

1. Sylvain LÉVI (1932): "Notes sur des manuscrits sanskrits provenant de Bamiyan (Afghanistan) et de Gilgit (Cachemire)", *Journal Asiatique*, 1932, pp. 27-31.; N. DUTT (1950): *Gilgit Manuscripts*, vol. III, part 4, Srinagar - Kashmir, pp. 53-61.; V. NÄTHER (1975): *Das Gilgit-Fragment or.11878A im britischen Museum zu London*. Herausgegeben, mit dem Tibetischen verglichen und übersetzt, Inauguraldissertation, Marburg, S. 46-52. Cf. Klaus WILLE (1990): *Die Handschriftliche Überlieferung des Vinayavastu der Mūlasarvāstivādin*, Stuttgart, S. 28. Cf. J. L. PANGLUNG (1981): *Die Erzählstoffe des Mūlasarvāstivāda-Vinaya, analysiert auf Grund der tibetischen Übersetzung*, Tokyo, S. 10-11.

2. Léon FEER (1883): *Fragments extraits du Kandjour*, <Annales du Musée Guimet, 5>, Paris, pp. 94-97, 557.

3. この経律異相の漢文を CHAVANNES が仏訳している: É. CHAVANNES (1910-35): *Cinq cents contes et apologues, extraits du Tripiṭaka chinois*, Tome III, p. 268-270 (No. 478).

福德によって救済されるという結末を有する形になる様に展開しているため、話としてバランスが良いものになっている⁴。

母殺しは救済がいかにか可能であるか、という重い問題がこの話にはある。彼以降は、母殺しの者は出家できなくなるが、彼自身は母殺しであることが教団で発覚した後も、教団から追放されなかった点が注意されるべきである。彼は親教師 (upādhyāya) となったと、この話は伝える。例外的に母殺しとしての彼は、発覚後も出家生活を続けることが出来、その出家がもたらす殊勝な功德が、彼の悪業からの救いになるのである。

この Kalpalatā 第82章はネパールで avadānamālā 文献の一つの章として再話され、Aśokāvadānamālā に収められ、その第24章としてある。岩本裕 (1967) はその第24章を Bhavaśarmāvadāna としてローマ字転写している⁵。しかし岩本の発表したそのテキストは誤りが多い2本の写本に基づいたもので、不明な点が多く残っており、異読も挙げられていないので、もっと良い写本に基づき、もう一度校定をやり直す必要がある。Bhavaśarmāvadāna というタイトル自体も Bhavavarmāvadāna と修正すべきである。また岩本はその第24章の作品に関して、「相当に後代に属すと考えられるが、なお Kṣemendra より早いと考えられる」(218頁)と述べているが、これは岩本ほどの碩学にしては軽率な、間違った判断を作品の成立年代に関して示したといわざるを得ない。この岩本のローマ字転写テキストに対しては、奈良康明によって和訳がなされた⁶。

82 Nārapūrvikāvadāna

D: Khe 192a3-196a2 Q: Ge 298a1-299b7 N: Ge 266b7-268b5

G: Ge 376b4-379b2 T: 499b5-502b6

Skt. Mss.: A *323b3-*325b5; B 100b4-102a6; E 88a2-90a3

lokaḥ kiṃ paralokadhīḥ prakurute putrāya mithyā sṛḥāṃ
tat puṇyaṃ kriyate svayaṃ yad ucitaṃ nānyaiḥ kṛtaṃ bhujyate /

4. 出曜経にあるパラレルの伝承 (T4 627a-c) では、母殺しの主人公は出家しないまま、賊に殺されて死ぬため、出家の功德がもたらす幸せなエンディングが無い形で、阿鼻地獄に堕ちて話が終わっている。

5. 岩本裕 (1967): 『仏教説話研究序説』 (仏教説話研究第1)、法蔵館 (新版: 開明書院、1978年)、219-230頁。

6. 奈良康明 (1988): 『仏弟子と信徒の物語 —アヴァダーナ—』、筑摩書房、231-250頁。

putras tad vidadhāti kaścīd asamakrūrakriyākovidah

pāpād yena nipātabhagnavadanaḥ sīdaty aśeṣo 'nvayaḥ // 82.1 //

1d aśeṣo 'nvayaḥ] ≈ aśeṣonvayaḥ ABET: aśeṣānvayaḥ Ed.

/ {D192a3, T499b5} lo kaḥ kiṃ pa ra lo ka dhīḥ pra ku ru te pu trā ya mi thyā spr hām tat-puṇyaṃ kṛ ya te sva yaṃ ya du ci taṃ nā nyaiḥ kṛ taṃ bhu jya te / {T500a} pu trastadbi da dhā ti kaścī da sa ma kru ra kṛ thā ko bi daḥ sā sādye na ni sā ta bhagna ba da naḥ sā da tya śe ṣo nva yaḥ // 82.1 //

世間の人には来世を思い、[先祖供養をしてくれるよう]なぜ息子を虚しく熱望するのだろうか。自ら作ったふさわしい福德こそが[次世に]享受されるのであって、他人(息子・子孫)によって作られた[福德]が享受されるのではないのに。不正な(不良の)、冷酷な行為によく通じた、或る一人の息子がしでかす、その[所行]のせいで、一族すべては罪惡の故に、失墜により顔を潰して、滅びる。

Metre: śārdūlavikrīḍita.

/ 'jig rten pha rol blo ldan don med bu la chags pa ci slad sgrub / / bsod nams gang rigs de ni rang gis byas te gzhan gyis byas pa spyod ma yin /

/ gang gis sdig las ma lus rigs ni rnam par ltung zhing bzhin dman nyams byed pa / / de dag mtshungs med gdug pa'i bya ba la mkhas bu ni 'ga' *yis rnam par bsgrubs /

1a pa] ḍ : pa'i β . 1b rang gis] ḍ : rang gi β || gzhan gyis] ḍ G: gzhan gyi NQ.

1c sdig las] β : sdig pa'i las rnam ḍ || ltung] β : lhung ḍ .

1d *yis] ex con: yi ḍ β || rnam par] β : rnam pa] ḍ .

purābhavad gṛhapateḥ śrāvastyāṃ śrutavarmaṇaḥ /

jāyāyāṃ jayasenāyāṃ bhavavarmābhidhaḥ sutaḥ // 82.2 //

2d bhavavarmā] A: bhavaśarmā° BE.

/ pu ra bha bidgra ha pa teḥ śrā bastyāṃ śru ta barmma ṇaḥ / jā yā yā ja ya se nā yāṃ bha ba barmma bhidhaḥ su taḥ // 82.2 //

昔シュラーヴァステイーにおいて長者シュルタヴァルマンの妻ジャヤセーナーにバヴァヴァルマンという名の息子が生まれた。

/ mnyan yod du sngon khyim gyi bdag // thos pa'i go cha dag gi ni /

/ chung ma rgyal ba'i sde la bu // srid pa'i go cha zhes pa byung /

2b gi] β : gis ḍ .

tau dampatī śisau tasmin vardhamāne śanaiḥ śanaiḥ /

vaṃśotkarṣaviśeṣāśāviniveśaṃ pracakratuḥ // 82.3 //

/ tau dampa tī śī śo tasmina (bardha D: barddha T) mā na śa naiḥ śa naiḥ / ba śodkarṣa bi śe śā
śā bi ni be śaṃ pra cakra {D192b} tuḥ // 82.3 //

その赤子が次第に育つにつれて、かの夫婦は [彼が] 家名を特別に高めてくれるよ
う希望を託した。

/ dal bu dal bus byis pa de // khyo shug de dag gis bskyed de /
/ rigs brgyud khyad 'phags khyad par gyi // re ba rnam par 'god pa byas /
3c brgyud] ḍ : rgyud β (also possible) || gyi] β : gyis ḍ .

kālena kālavaśage janake bhavavarmaṇaḥ /
jananī snehamohārtā saṃvardhanaparābhavat // 82.4 //

4b °varmaṇaḥ] AB: °śarmaṇaḥ E.

/ kā le na kā la ba śa ge ja na ka bha ba barmma ṇaḥ / ja na nī sne ha mo hārtā sambardha na pa
rā bha bat_ // 82.4 //

しばらくしてバヴァヴァルマンの父は死に、愛の迷妄に苦しみながら母は [一人息
子を] 立派に育てることに全力を尽くした。

/ dus kyis pha ni dus dbang du // song tshe srid pa'i go cha ni /
/ mdza' zhing rmongs pas gzir ba yi // ma yis bskyed bsrings bskyangs par gyur /
4a kyis] D: kyī β T. 4d yis] ḍ : yi β .

Note 4d] 梵文の「立派に育てることに懸命になった」 (saṃvardhanaparābhavat) という語句に
対して、藏訳は「育み、育て、養育した」 (bskyed bsrings bskyangs par gyur) と、同義の動詞を
三つ並べることで、没頭した行動の様子を表現した。

prātivesyavayasyena saha līlāviśṛṅkhalah /
yauvanasthaḥ sa babhrāma niraṅkuśa iva dvipaḥ // 82.5 //

/ prā ti bai śya ba ya sya na sa ha lā la la bi śriṃ kha lāḥ / yau ba nasthaḥ sa ba bhrā ma ni raṃ
ku śa i ba dvi paḥ // 82.5 //

青年期を迎えた彼は、隣家の友人と一緒に、抑制無く遊び戯れ、まるで鉤で制御され
ない象のように、うろつき回った。

/ khyim mtshes grogs po dag dang ni // lhan cig rtse zhing ma bsdams pa /
/ lang tsho dag la gnas pa de // gnyis 'thung lcags kyu med bzhin 'khyam /
5a mtshes] ḍ : tshes β .

vrajantaṃ rājamārgeṇa bhujāṅgaṃ subhaṭāṅganā /
dadarśa sundarī nāma taṃ harmyaśikharasthitā // 82.6 //

6b bhujāṅgaṃ] A: bhujāṅga- BE (= Ed.). Cf. de JONG.

/ bra jantaṃ rā ja māṛge ṇa bhu jaṃ ga su bha t̄aṃ ga nā / da darśa pundaṛī nā ma taṃ harṃya
śi kha ra sthi tā // 82.6 //

大通りをうろつく蛇 (= バヴァヴァルマン) を、大邸宅の最上階に立つスンドリーとい
う名の、軍人の女房が見た。

/ lag 'gro *rgyal lam nas bgrod de // dpa' bo yi ni bud med dag /

/ mdzes ma zhes pa khang bzang gi // rtse mo dag na gnas pas mthong /

6a *rgyal] ex conī (HAHN): brgya β δ // bgrod] δ : 'gro β .

6c mdzes ma] β : mdzes pa δ . 6d gnas pas] β : gnas pa δ .

sā tena sābhlāṣeṇa savilāsaṃ vilokitā /

utsasarja smeramukhī tanmūrdhni kusumasrajam // 82.7 //

7c smeramukhī] BE: smarasukhīm A: smarasakhīm Ed. Cf. de JONG.

/ sa te na sā bhi lā ṣe ṇa sa bi lā sa bi lo ki tā / utsa sarja sme ra mu khī tanmūrdhi kū su ma bra
jaṃ // 82.7 //

欲しげな彼から、誘惑的に (savlāsaṃ) 見つめられた彼女は、微笑みながら、彼の頭
の上に、花鬘を投げかけた。

/ mngon par sred dang ldan pa des // 'jo sgeg ldan *par nam par bltas /

/ bzhin 'dzum ma des de yi ni // spyi bor me tog 'phreng ba 'phangs /

7b ldan *par] ex conī (HAHN): ldan pa β : ldan la δ .

tayoḥ savibhramākūtaṃ sa dṛṣṭvā prāṭiveśikaḥ /

saṃbhogasūcakaṃ sarvaṃ sa saṃketam amanyata // 82.8 //

8d sa saṃketam amanyata] ≈ sa saṃ ke ta ma ma nyata T (= Ed.): saṅketam amanya-
ta A (metre!): saṃketam samamanyata B: saṅketam samama{{ta}}nye E. Cf. de JONG.
(Note: de JONG proposes to read as B, but it seems he didn't consult T.)

/ ta yoḥ sa bi bhra mā ku (ta D: taṃ T) sa dṛṣṭā pra ti bi śmi {T500b} kaḥ / saṃ bho ga su ca
kaṃ sarbbaṃ sa saṃ ke ta ma ma nyata // 82.8 //

かの隣家の友は、彼ら二人が嬌態を伴った欲望の感情 (ākūta) をもつちを見て、彼
はあらゆる合図 (素振り) を [性的] 享樂を示唆するものと理解した。

/ khyim mtshes de yis de dag gi // bsaṃ pa mam 'phrul dang bcas pa /

/ mthong nas longs spyod go byed pa'i // brda nmams thams cad rig par gyur /

8a mtshes de yis] δ : ches de yi N: tshes de yi GQ. 8b dag gi] β : dag gis δ .

sa gatvā cakitaḥ prāha jananīm bhavavarmaṇaḥ /

suhṛdaḥ snehasaṃsaktaḥ śaṅkamānaḥ parābhavam // 82.9 //

9b bhavavarmaṇaḥ] T, confirmed by tib. srid pa'i go cha'i (= Skt. *bhavavarmaṇaḥ):
bhavaśarmaṇaḥ ABE (= Ed.).

/ sa ga tvā ca ki taḥ prā ha ja na nīmbha ba barmma ṇa / su ḥṛ daḥ sne ha saṃ saktāḥ śaṃ ka
mā ṇaḥ pa ra bha baṃ // 82.9 //

彼は怖くなって去り、バヴァヴァルマンの母に告げた。友への愛情を強く持っていた
彼は、[その友の] 破滅を恐れていた。

/ grogs la mdza' bas chags gyur cing // gnod pa 'byung bar dogs pa yis /
/ 'jigs pa de ni song gyur nas // srid pa'i go cha'i ma la smras /
9a cing] ḍ : cig β.

putras te kṛtasāṅketāḥ spaṣṭaṃ subhaṭayoṣitā /
rajanyām avinīto 'dya svairacārī gamiṣyati // 82.10 //

/ su {D193a} taste kṛ ta saṃ ke taḥ spaṣṭaṃ su bha ṭa yo ṣi tā / ra ja nyā ma bi nī to dya sbai ra
ca rī ga mi ṣya ti // 82.10 //

「あなたの息子は明らかに軍人の妻と合図を交わし合いました。躰けがなされなけれ
ば、[彼] は恣に行動し、今夜中に出かけるでしょう。」

/ khyod kyī bu dang dpa' bo yi // bud med gsal ba'i brda dag byas /
/ mtshan mo rnam par ma dul ba // dman min rgyu zhing 'gro bar 'gyur /

carantaḥ saṃsāravyasanagahane 'smin naramṛgā
bhṛśaṃ bhogavyagrā nikhilasukhaśaṣpapaṇayinaḥ /
vināśavyāpārasmaraśabarapāśe nipatitā

labhante paryante viṣayaśitaśastrair viśasanam // 82.11 //

11b °sukhaśaṣpa°] ABE Tib.: °sukhaśasya° Ed. **11d viṣayaśita°]** ABE (= Ed.):
viṣaniśita° T, confirmed by tib. dug ldan rnon po'i (= Skt. *viṣa-niśita).

/ ca rantaḥ saṃ sā ra bya sa na ga (he D: ha T) na sminna ra mṛ ga bhṛ śaṃ bho ga bya grā ni
khi la su kha śa ṣye pra ṇa yi ṇaḥ / bi nā śa bya pā ri sma ra śa ba ra pā śa ni pa ti tā la bhante
paryanta bi ṣa ni śi ta śastrai rbbi śa sa naṃ // 82.11 //

「もし人という鹿たちが、あらゆる快樂という若枝を愛好するあまり、甚
だ (bhṛśam) 享樂に夢中になって、この輪廻という災いの森の中を彷徨い歩くならば、
[彼らは] 破滅を遂行する愛神という獵師の罾に落ち、終には感官の対象 (viṣaya) と
いう鋭い武器で、虐殺されます。」

Note **11d viṣayaśitaśastrair]** もし梵藏併記版に見られる異読の viṣaniśitaśastrair の読みを採れば、
「毒のある鋭い武器で」という意味になる。

Metre: Śikhariṇī.

/ mi yi ri dwags 'khor ba sdug bsngal nags tshal 'dir ni rgyu byed cing // mchog
tu longs spyod kyis 'khrugs ma lus bde ba'i *rtswa la chags gyur rnams /
/ 'jig pa'i bya ba dang ldan rgon pa zhags pa dag tu ltung gyur te // mjug tu dug
ldan rnon po'i mtshon rnams dag gis brlag pa thob par 'gyur /

11a dwags] G: dags δ NQ. 11b *rtswa] ex conī (cf. śaspa): rtsa δ β .

11c 'jig] δ : 'jigs β . 11d mjug] δ G: 'jug NQ || rnon po'i] GN: rno ba'i δ (also possible): rnom pa'i Q || dag gis] δ : dag gi β || par 'gyur] δ : par gyur β .

Note 11c dang ldan] 蔵訳では梵文の smara 「愛神」にあたる語として dran pa が期待されるが、dang ldan 「～を有する」となっている。この dang ldan が先行語の Bahuvrīhi なることを表現しているだけなら、smara は蔵文に訳されなかったことになるが、しかし smara が dang ldan とやや似た語形をもつ何らかの別の類義語的表現で訳された後に、dang ldan と誤って伝承された可能性もあろう。

vāsare rakṣitas tāvan mayāyaṃ capalāśayaḥ /
rakṣaṇīyas tvayā rātrāv ity uktvā prayayau suhṛt // 82.12 //

/ bā sa re ra kṣi tastā bata ma yā yaṃ ca pa lā śa yaḥ / rakṣa nī yastva yā rā trā bi tyu ktvā ya
yau su hṛta // 82.12 //

「とりあえず昼間は私が心が落ち着かないこの者を見張りましょう。夜はあなたが見張って下さい。」そう言って、親友は去った。

/ g.yo ba'i bsaṃ pa dang ldan *'di // re zhig nyin par bdag gis bsrung /
/ mtshan mo khyod kyis bsrung bar bya // zhes pa brjod nas grogs po song /

12a *'di] ex conī (cf. Skt. ayaṃ): zhing β δ . 12b bsrung] δ : srungs β .

Note 12a *'di] 梵語 ayaṃ にあたる訳語 'di が期待される位置にある、zhing は不審である。訳文における zhing の機能が理解できない。字の類似も考慮に入れて、zhing を 'di の誤りと見なす。

athāntargṛhasuptasya putrasya dvāraśāyini /
mātā niśi *prabuddhaiva saṃrakṣaṇaparābhavat // 82.13 //

13c *prabuddhaiva] ex conī (Ed.): prabuddheva ABET, confirmed by tib. rab tu sad
bzhin du.

/ a thāntargṛ ha su pta sya pu tra sya dvā ra śā yi nī / mā tā ni śi pra buddhe ba saṃ rakṣa ṇa pa
rā bha bata // 82.13 //

戸口に横になった母は、夜じゅう眠らずに、室内で眠る息子の見張りに専念した。

Note 13c prabuddhaiva] 写本と蔵訳は一致して prabuddheva 「夜じゅう眠らぬかのように」の読みを支持するが、文の意味を考えるならば、Dās 版本がこっそり修正しているように、iva を eva に替えて、「夜じゅう全く眠らず、一睡もせずに」の意味となるよう、読むべきである。

/ de nas khyim nang du nyal bu // sgo ru nyal ba'i ma yis ni /
/ mtshan mo rab tu sad bzhin du // kun tu bsrung ba la chags gyur /
13b ma] δ : sa β .

vāriśaucāpadeśena yācamānasya nirgamam /
na nirgantum dadau tasya jananī snehamohitā // 82.14 //

/ bā ri śo cā pa de śe na yā ca mā na sya nirga ma / na nirgaṃ tum da dau ta sya ja na nī sne ha
mo hi tā // 82.14 //

水による洗浄（トイレ）を口実にして、外出を懇願する彼に、愛情の迷妄をもつ母は
外に出ることを許さなかった。

/ chu yi dag byed zol gyis ni // phyir 'byung zhu bar byed pa la /
/ mdza' bas rmongs pa'i ma yis ni // phyi rol 'thon pa byin ma gyur /

14c yis] δ : yi β . 14d phyi rol] β : phyir la δ (also possible) || byin] δ : byed β .

so 'cintayad aho ramyarāmāratnasamāgame /
keneyam vighnajanānī jananī mama nirmitā // 82.15 //

/ {D193b} so cinta ya da ho {T501a} ra mya rā mā ratna sa mā ga (ma D: me T) / ke ne yaṃ
bi rghā ja na nī ja na nī ma ma ni rmmi tā // 82.15 //

彼は考えた。— ああ、宝石のようなすばらしい美女との逢い引きに支障を生じさ
せる、私のこの母は何者によって創造されたのか。

/ des bsams kye ma dga' ba yi // bud med rin chen dang 'grogs la /
/ gegs ni skyed par byed pa yi // bdag gi ma 'di ci yis sprul /

15a yi] δ : yis β . 15c gegs] δ : bgegs β (also possible). 15d ci yis] β : ci yi δ .

bhāgyair me janakas tāvad yauvane nidhanaṃ gataḥ /
iyam tv apuṇyaiḥ kaṅkāli kālavyālī gr̥he sthitā // 82.16 //

/ bha gairmma ja na kastā badyo ba ni ni dha naṃ ga taḥ / i yaṃ tva pu ṇyaiḥ kaṃ kā lī kā la
byā lī gr̥ he sthi tā // 82.16 //

幸運にもわが父のほうは若い時に死んでくれたが、福德乏しく（運悪く）この骸骨女
が、黒い雌蛇として、家にいる。

/ re zhig skal bas pha ni bdag // lang tsho ldan zhing shi bar gyur /
/ bsod nams min pas sbrul nag ni // 'jigs rung ma 'di khyim na gnas /

16a pha] β : ma δ . 16b tsho ldan zhing] δ : tshos ldan bzhing β || shi bar] β :
'tsho bar δ . 16c sbrul nag] δ : sgrub dag β . 16d 'di] β : ni δ .

gacchāmy enāṃ samullaṅghya nidrāviraḥitāṃ yadi /
tad asyaḥ kalahālāpair jano 'pi pratibudhyate // 82.17 //

/ gaccha mye tāṃ sa mullaṅghya ni drā bi ra hi tāṃ ya di / ta da syaḥ ka la hā ma pairja ni pi
pra ti bu dhya te // 82.17 //

眠らないでいるあの女の上をもし跨いで行けば、あの女の静い声で人々が目を覚ましてしまう。

/ gnyid dang bral ma 'di la ni // gal te bdag gis 'gongs phyin na /
'di yi 'thab mo'i smra brjod kyis // skye bo mams kyang sad par 'gyur /

17b 'gongs] β: 'goms ḍ (also possible). 17c smra] ḍ: sgra β.

17d sad par 'gyur] β: rab sad gyur ḍ.

prāyaḥ kṣapā parikṣiṅṅā dūre kāntā karomi kim /
sulabhā bhāgyahīnasya katham sā subhagā mama // 82.18 //

/ prā yaḥ kṣa pā pa ri kṣi ṅṅā dū re kāntā ka ro mi kiṃ / su la bhā bhā gya hī na sya ka thaṃ sā
su bha ga ma ma // 82.18 //

[今や] ほとんど夜は過ぎようとしており、愛する女は遠くだ。俺はどうすべきか。
運のない俺にどうしてあの幸ある女が容易く手に入ろうか。

/ mtshan mo phal cher yongs zad cing // mdzes ma ring la bdag ci byed /
/ skal ba dman pa bdag la ni // skal bzang ma de ji ltar mod /

18a cher] β: che ḍ.

Note 18d mod] 蔵訳では梵文の sulabhā の語が訳されなかった。

harmyotsaṅgatā vilokanarasān namrānanāmbhoruhā
srastasya śravaṇotpalasya nayanacchāyāṃ diśantī pade /
tāḍaṅkadyutibhiḥ kapalayugale patrāvalīṃ bibhratī
bhāgyair bhogabhavaṃ prayāti subhagā bhavyasya sā sundarī // 82.19 //

19c patrāvalīṃ] BE, confirmed by tib. pa tra'i 'phreng ba: patrāvatiṃ A.

19d bhavyasya] A: pravyasya B: dhanyasya E.

/ harmyo tsa ga ga tā bi lo ka na ra sanna mrā na nau bho ru hā prasta sya śra ba ṇotpa la sya
na ya nacchā yāṃ di śaṃ tī pa te / tā ḍaṃ ka dyu ti bhiḥ ka po la yu ga le pa trā ba li bi bhra tī
bhā gyai rbho gya bhu bi pra ya ti su bha gā bha bya sya sā su nda rī // 82.19 //

邸宅の階上において、見られることの喜びにより下を向いて屈んだ、蓮の容をもつ
女 —、耳 [に挿した] ウトパラ蓮が下に垂れた [かのような、顔の中の] 位置
(pada) にある眼が [蓮の花びらの] 錯覚を示す女 —、耳飾りの光輝を伴って、両の

頬に [描かれた] 葉の連なり [の模様の化粧] をもつ女 —、愛しいかのスダリー
は、幸運により、幸せな男にとっての享樂の大地 (天国) となる。

19c pattrāvaliṃ] この pattrāvali 「葉の連なり」とは、具体的には、顔に蔓の葉の連なりの形に香
粉で描かれた化粧的な線条 (patrabhaṅga, pattravalli) を意味する。

Metre: Śārdūlavikrīḍita.

/ khang bzang nang du son cing rnam par blta ba'i ro las bzhin gyi chu skyes dud
// rna ba'i ut pal lhung bar gyur pas mig gi mdzes pa rna ba dag la ster /
/ rna rgyan 'od zer dag gis 'gram pa zung la pa tra'i 'phreng ba rnam par 'dzin //
mdzes ma de ni legs ldan dag gi skal ba mams kyis spyad bya'i sa ru 'gyur /

19a son cing] β : son zhing ḍ . (problem of da drag!)

19c 'phreng] ḍ : phreng β . 19d gi] β : gis ḍ .

Note 19b] 蔵訳の pāda b は「耳の青蓮が落ちることにより、目の美を耳に与える」 (mig gi
mdzes pa rna ba dag la ster) と訳せるが、梵文と部分的に合致しない。梵文の diśantī pade との対応
が不明である。この蔵訳は意訳だろうか。またこの pāda b は ut pa la と読むと18音になってしま
うので、ut pal と読む。

iti cintāturam dvāram yācamānaṃ punaḥ punaḥ /
atraiva kriyatām śaucam iti mātā tam abravīt // 82.20 //

/ i ti {D194a} cintā tu raṃ dvā raṃ yā ca mā na pu naḥ pu naḥ / a trai ba kri ya tāṃ śau ca mi
ti mā tā ta ma (ba D: bra T) bīta // 82.20 //

このように考えて苦しみ、ドアを [通ることを] 幾度も請い求める彼に、母は「こ
こで洗淨 (トイレ) をすませなさい」と言った。

/ de ltar bsams pas gzir zhing sgo // yang dang yang du slong byed pa /
/ de la ma yis 'di nyid du // gtsang ba mdzod ces rab tu smras /

20a bsams] ḍ : bsam β . 20c yis] ḍ : yi NQ: yin G.

atha mātuḥ śiraś chittvā khadgena sa yayau javāt /
rāgopadiṣṭapāpānām kim akāryaṃ durātmanām // 82.21 //

21a śiraś chittvā] BET: śiraḥ sthitvā A.

/ a tha mā tuḥ śi raśchi tvā khadge na pa ya yau ja (bāta D: bāt_ T) / rā go pa diṣṭa pā pā nām
ki ma kāryaṃ du rā tma {T501b} nām // 82.21 //

すると彼は母の頭を剣で切断して、すぐに立ち去った。欲望に命じられた悪行をなす
悪人たちにとって、してはならない行為というものがあるだろうか。

/ de nas ral gris ma yi mgo // bcad nas de ni mgyogs par song /
/ chags pas nyer bstan sdig bdag nyid // ngan pa mams la bya min ci /

21c pas] β: pa ḍ .

rātrāv aganītāyāsaḥ sa gatvā sundarīgrham /
rahaḥ saṃbhogasamṇaddhām vidagdhām āsasāda tām // 82.22 //

/ rā trā ba ga (ṇaṃ D: ṇa T) tā yā saḥ sa ga tvā punda rī gr haṃ / ra haḥ saṃ bho ga sanna (rd-
hām D: rddhām T) bigdha mā sa sā da tām // 82.22 //

夜中に疲労をもものともせず、彼はスンドリーの家に行つて、密かに享樂を用意して
いる、抜け目ない彼女と邂逅した。

/ mtshan mo ngal dub ma rtsis par // mdzes ma'i khang par de song nas /
/ mkhas shing longs spyod la chas ma // de ni dben par yang dag thob /

22a par] ḍ: pas β. 22c chas] ḍ: chags β. (Cf. NEGI, chas gyur = saṃnaddhaḥ (p.
1192); s. v. chas pa = saṃnaddhaḥ (p. 1193); chas ma = saṃnaddhā (p. 1193).)

sa tasyai svakṛtaṃ pāpam ādarāya nyavedayat /
tenaiva mūrkhāḥ ślāghante yenaivāyānti nindyatām // 82.23 //

23c ślāghante] E (= Ed.): ślāghyante AB: śla ghya nte T.

23d yenaivāyānti] A: yemaitāyānti B: yenaitāyānti E.

/ te ta syai sva kṛ taṃ pā pa mā da rā ya ni be da yata / te nai ba mūrkhāḥ śla ghya nte ye nai bā
yanti ni dya tām // 82.23 //

彼は尊敬を得ようと、彼女に自分がした罪惡を語つて聞かせた。そのことによって不
名誉になるはずの [悪しき] 行為を、愚か者たちは自慢する。

/ de la rang gi byas pa'i sdig // gus pa'i slad du de yis bshad /
/ gang gis smad pa nyid 'gyur ba // de nyid kyis ni rmongs *pas bsngags /

23a gi] β: gis ḍ. 23b yis] ḍ: yi β.

23c smad] ḍ: rmad β. 23d *pas] ex conī (HAHN): pa β ḍ .

tasya mātrvadhakrūrāpāpaśravaṇakampitā /
śvapākasyeva saṃsparśe vimukhī sābhavat param // 82.24 //

24c śvapākasyeva] T (= Ed.): śvapākasyaiva ABE.

/ ta sya mā ṭṛ ba dha krū ra pā pa śra ba ṇa kampi tā / sā pā ka sye ba saṃ sparśe bi mu khā sā
bha ba pa raṃ // 82.24 //

母殺しという凄まじい悪行を聞いて、震えた彼女は、彼に触られることを、まるで
「犬を煮る者」(不可触民)に触られるかのように、激しく嫌惡した。

/ ma bsad sdig pa drag po ni // thos nas 'dar bar gyur pa de /
/ gtum po la bzhin de la ni // reg *las shin tu phyir phyogs gyur /

24d reg *las] ex conī : reg la ḍ : reg pa β.

Note 24d reg *las] Kalpalatā 82.26a でも確認できるように、phyir phyogs は格助詞 las と共に用いられる。また Negi s.v. phyir phyogs (p. 3578) に挙げられた多くの用例を見よ。

harmyādhirohaṇavyājāt sā jagāma tadantikāt /
sābhilāṣāpi pāpānām ācāreṇa virajyati // 82.25 //

25c sābhilāṣāpi] A(post corr. marg.): sābhilāṣopi A(ante corr)BET (= Ed.).

25d ācāreṇa] AE: ācareṇa B: da re ṇa T (cf. tib. gus pa yis) // virajyati] A(post corr. marg.)E: virajyate A(ante corr)T: viradhyati B.

/ harmyā dhi ri ha ṇa byā jā ta sā ja gā ma ta danti kāta / sā bhi lā ṣo pi pā pā nām da re ṇa bi ra
jya te // 82.25 //

大邸宅の最上階に昇らねばという口実で、彼女は彼のもとから去った。欲望はもって
いたけれど、罪行の振舞によって、興奮めしてしまった。

/ de yi gnas nas khang bzang la // 'dzeg pa'i zol gyis de song ste /
/ sdig pa rnam *kyi gus pa yis // sred ldan dag kyang chags bral gyur /

25c *kyi] ex conī: kyis ḍ β. 25d gyur] ḍ: 'gyur β.

Note 25c gus pa yis] 蔵訳者が基づいたチベット伝承の梵文では ācāreṇa ではなく *ādareṇa 「尊敬
によって」と読めた可能性がある。チベットの梵蔵併記版の蔵字梵文ではその箇所が da re ṇa と
ある。

uccaharmyasamāruḍhā *prauḍhā pāpaparāṇmukhī /
cauraś cauro 'yam ity uccaiś cukrośa cakiteva sā // 82.26 //

26b *prauḍhā] ex conī (DEMOTO): prauḍha° A(post corr. marg.)BE: prauca° A(ante
corr.).

/ ucca ha rmya sa mā rū ḍhā kāntā pā pa {D194b} pa rāṇmu khī / cau ra ścau ro ya mi tyuccai
ścu kro śa ca ki te ba sā // 82.26 //

罪行に嫌悪感を抱いたその熟女は、高い大邸宅の最上階に昇ると、「泥棒！その人泥
棒よ！」と、怯えたふりをして、声高に叫んだ。

/ sdig pa las ni phyir phyogs ma // de yis ba gam mthon por 'dzeg /
/ 'di ni chom rkun chom rkun zhes // 'jigs pa bzhin du skad cher bsgrags /

Note 26a] 梵文の *prauḍhā もしくは prauḍha- にあたる訳語が蔵訳には欠けるが、チベットの梵
蔵併記版ではその語の代わりに kāntā となっていて、ネパールの伝承と違っていることが、恐ら
くその訳と関連していると思われる。

pradhāvite parijane bhayabhagnaḥ sa vidrutaḥ /

yayau yāvan nijagr̥haṃ kṛtakolāhalaḥ śvabhiḥ // 82.27 //

27b bhayabhagnaḥ] A, confirmed by tib.: mayamagnaḥ B: bhayamagnaḥ E: bhayadigdhaḥ Ed. Cf. de JONG.

27c yāvan] AT, confirmed by tib. ji srid (=Skt. *yāvat): javān BE (= Ed.).

/ pra dhā bi te pa ri ja ne bha ya bhagna sa bi dru taḥ / ya yau yā badni ja gr̥ haṃ kṛ ta ka la ha laḥ śva bhiḥ // 82.27 //

周りの人々が駆けつけたので、彼は恐怖に惑乱して、逃げた。犬たちに吠えかかれつつ、そうそうに自分の家に戻った。

/ 'khor gyi skye bos rgyugs pa'i tshe // 'jigs pas nyen pa de rab bros /

/ ji srid rang gi khyim du song // khyi rnam kyis ni ca co byas /

27b de] ḍ : der β.

hatā me janānī caurair iti tārapralāpavān /

prabhāte vidadhe mātuḥ sa śarīrādisatkriyām // 82.28 //

/ ha ta me ja na nī cau rai ri ti tā npra lā pa bāna / pra bhā te bi da dhe mā tuḥ sa śa rī rā di satkṛ yā // 82.28 //

彼は「私の母が泥棒たちに殺された」と声高に叫んで、朝に母の遺体 [に対する儀礼] などの葬儀を行った。

/ bdag gi ma ni chom rkun gyis // bsad ces skad cher rab smra zhing /

/ snga dro de yis ma yi ni // lus la sogs pa sbyang ba byas /

28d sbyang ba] ḍ : sbyangs pa β.

pracchannapāpasam̐tāpadahyamānaḥ sa cintayan /

sutīvrānarakāpātaṃ babhrāma bhuvī bhūtavat // 82.29 //

/ pracchanna pā pa santā dagdha mā naḥ pa ce ta yana / su tī bra na ra kā pā taṃ ba bhā ma bhu bi bhu ta (data D: vata T) // 82.29 //

秘め隠した悪行への後悔に焼かれながら、彼はとても恐ろしい地獄落ちを思い、地上を幽鬼のように彷徨った。

/ rab bsgr̥ibs sdig pa'i gdung ba yis // sreg cing shin tu mi bzad pa'i /

/ dmyal bar ltung ba *des bsams te // 'byung po bzhin du sa la 'khyams /

29a yis] ḍ : yi β. 29c ltung] β : lhung ḍ // *des] ex conī (HAHN): de β ḍ.

prāyaścittaṃ dvijās tena pṛṣṭāḥ pātakavādinā /

ūcur mātrvadhakrūrāpātake nāsti niṣkṛtiḥ // 82.30 //

30d niṣkṛtiḥ] corr. (= Ed.): niḥkṛtiḥ ABE.

/ prā yaści taṃ {T502a} dvi jaste na pṛ ṣṭāḥ pā ta bā di nā / ū cu mā tṛ ba dha krū ra pā ta ke nā
sti kṛ tiḥ // 82.30 //

罪行を語る彼に贖罪の方法を尋ねられた婆羅門たちは、「母殺しという凄まじい罪において贖罪は存在しない」と答えた。

/ sdig pa smra byed de yis ni // phyir bcos dris la gnyis skyes kyis /

/ smras pa ma bsad drag po yi // sdig pa dag la bcos thabs med /

30a yis] ḍ : yi β. 30b kyis] ḍ : kyī β.

atha jetavanam gatvā tatra bhikṣugaṇoditam /

śuśrāva dharmādhyayanam sarvapāpapaṇāśanam // 82.31 //

/ a tha je ta ba nam ga tvā ta tra bhi kṣu ga ṇa di taṃ / śu śrā ba dharmmā dhya ya nam sarbbe
pā pa pra śa mana // 82.31 //

その後彼はジェータ林に行き、そこで比丘群によって唱えられている [仏の] 教えの
誦誦として、『あらゆる罪の消滅』を耳にした。

/ de nas rgyal byed tshal song bas // der ni dge slong tshogs brjod pa'i /

/ sdig pa thams cad nyams byed pa'i // chos kyī kha ton rab tu thos /

31b pa'i] ḍ : pa β.

dhīmān pravrajitas tatra svādhyāyanirataḥ param /

tatas tripiṭakādhyāyī sa dharmakathiko 'bhavat // 82.32 //

32d dharmakathiko] T (= Ed.): dhārmakathiko ABE.

/ dhī mānpa bra ji ta ta tra sva dhyā yya ni ra taḥ sa raṃ / ta tastro pi ta kā dhyā yi sa {D195a}
dharmma ka thi ko bha bata // 82.32 //

彼は其処で出家し、賢かったため、学ぶことにとても喜びをもった。その後、三蔵を
暗誦し、彼は法の宣説者となった。

/ der ni blo ldan rab byung ste // kha ton dag la mchog tu chags /

/ de nas de ni sde snod gsum // brjod cing chos kyī gtaṃ can gyur /

32c snod] ḍ : gnod β.

sarvajño 'bhyetya bhagavān bhikṣusamgham athābravīt /

kiṃ bhavadbhiḥ sapāpāya pravrajyāsmāi samarpitā // 82.33 //

/ sarba jño sya tya bha ga bāna bhikṣu saṃ gha ma thā bra bīta / kiṃ bha (bibbhaḥ D: bidbhaḥ
T) sa pā pā ya pra bra jyaisma sa marpi tā // 82.33 //

ある時、一切智たる世尊が来られて、比丘僧団に尋ねられた。「なぜあなた方は有罪
人である彼に出家 [戒] を授けたのか。」

/ de nas kun mkhyen bcom ldan 'das / / mngon phyogs dge slong tshogs la
gsungs /

/ sdig can 'di la rab byung ni // khyod kyis ci slad yang dag byin /

33d khyod kyis] ḍ : khyed kyī β.

tena mātrvadhakrūrakilbiṣeṇa pramādinah /

pratyāsannāsyā paryante taptāvīcau cirasthitiḥ // 82.34 //

/ te na mā tr̄ ba dha krū kilbi ṣe ṇa pra mā di nah / pratyā sannā sya paryante taptā bī cau ci ra
sthi tiḥ // 82.34 //

「母殺しのその残忍な罪によって、放逸を有したこの者が終に熱いアヴィーチ地獄に
久しく住することになるのは、間もないことであろう。」

/ ma bsad drag por gyur pa yi // sdig pa de yis bag med 'di /

/ mjug tu mnar med tsha bar ni // yun ring gnas la rab tu nye /

34c mjug] ḍ : 'jug β.

ukte tathāgateneti so 'py upādhyāyatām gataḥ /

kālena kālaparyante ghoram narakam āptavān // 82.35 //

35b upādhyā°] ET: apādhyā° AB.

/ u kto bha ga ba te ne ti so pyu pā dhyā tām ga taḥ / kā le na kā la paryante gho ra na ra ka
māpta bāna // 82.35 //

このように如来に予言された時、彼は親教師（和尚）になった。しばらくして寿命が
尽き、彼は恐ろしい地獄に行った。

/ de bzhin gshegs pas de gsungs tshe // de yang mkhan po nyid du gyur /

/ dus kyis dus kyī mjug tu ni // 'jigs su rung ba'i dmyal ba thob /

35c mjug] ḍ : 'jug β.

tatrāvīcicayodañcattīvravahniśikhāṣataiḥ /

pacyamānaś ciram cakre sa khedaṃ narakaukasām // 82.36 //

36a tatrāvīcicayo°] A: tatrāvīcīcayo° E: tatrāvīcīyayo° B.

/ ta trā bī ci ba yo daṃ battī bra ba hni śī khā śa taiḥ / pa cyā na ści raṃ cakra sa khe (daṃ D:
da T) na ra ko ka ra pām // 82.36 //

そこで多数のアヴィーチ地獄で、高くあがった火の激しい百の炎によって、彼は久し
く焙られながら、地獄の諸住所に厭嫌を生じた。

/ der ni mnar med tshogs 'khrungs pa // mi bzad me lce brgya phrag gis /

/ yun ring 'tshed par byed cing des // dmyal ba'i gnas ni skyo bar byas /

36b gis] ḍ : gi β . 36c ring] ḍ : rings β .

kopān narakapālena mudgarāghātacūrṇitaḥ /
sa cirāt prāpa pākāgniparipakvatanuḥ kṣayam // 82.37 //

/ ko pāna ra ka pā le na mudga rā ghā ta cūṇṇa taḥ / sa ci rātpa pa pā pā gni pa ri pa kva ta
nuḥ {T502b} kṣa yaṃ // 82.37 //

獄卒によって怒りをもってハンマーで打ち叩かれて粉碎され、[業] 熟の（焙りの）
火によって十分に焙られた彼の身体は、久しい後に消滅するを得た。

/ dmyal srung rab tu khros pa yis // tho bas brdungs shing phyē mar btags /
/ de yis ring nas sdiḡ pa yi // me yis yongs smin lus zad thob /

37a srung] ḍ : bsrungs β || pa yis] ḍ : pa yi β . 37b brdungs shing] ḍ : bsnun
zhing β || btags] ḍ : rtags β . 37c de yis] ḍ : de yi β .

Note 37c sdiḡ pa yi] de JONG が指摘するように、梵文の pākāgni を蔵訳者は *pāpāgni と読んだ。

cāturmahārājikeṣu so 'tha deveṣv ajāyata /
pravrajyāyāḥ prabhāveṇa divyābharaṇabhūṣitaḥ // 82.38 //

/ cā turmma hā rā ji ke ṣu so tha de be ṣva jā yata / pra bra jyā yāḥ pra bhā ba na di byā bha ra
ṇa {D195b} bhū ṣi taḥ // 82.38 //

[かつて] 出家したことの[業の]力により、彼は神々しい装飾品に飾られて、四大
王天に生まれた。

/ de nas de ni rab byung gi // mthu yis rgyal po chen po dag /
/ bzhi pa yi ni lha rnam su // lha yi rgyan gyis brgyan par skyes /

38b yis] ḍ : yi β . 38d gyis] ḍ : gyi β || par skyes] ḍ : pa skye β .

atha sa vimalamālāmaulikeyūrahāra-

prasṛtamaṇimayūkhollikhyamānādbhutaśrīḥ /
agamad amaravandyo vandanāyendukāntiḥ
sugatam anugatābhir bhrājamānaḥ prabhābhiḥ // 82.39 //

/ a tha sa bi ma la ma lā mau li ke yū ra ha ra pra pṛ ta ma ṇi ma yū kholli khya mā nādbhu śrīḥ
/ a ga ma da ma ra ga myo bandra nā yendu kāntiḥ su ga ta ma nu ga tā bhirbhā ja mā naḥ pra
bhā bhiḥ // 82.39 //

清らかな花鬘・王冠・腕輪・頸輪から放たれる宝石の光線によって描かれている、驚
嘆すべき美を有する[彼]、神々にも拝礼される、月の美しさをもつ彼は[善逝を] 拝
するために、随伴する多くの光によって輝きながら（光の尾を曳きつつ輝きながら）、善
逝のもとに出かけた。

Metre: Mālinī.

/ de nas dri med 'phreng ba cod pan dpung rgyan do shal las // rab 'phros nor bu'i
'od kyis rmad byung dpal ni 'bri byed cing /

/ lha yis bsten bya rjes 'brang 'od kyis rab mdzes zla ba ltar // mdzes pa de ni bde
bar gshegs la phyag 'tshal slad du song /

39a 'phreng] δ : phreng β . 39b kyis] δ : kyī β || ni 'bri] β : ni 'dri δ .

39c lha yis] δ : lha yi β || kyis] δ : kyī β .

tatpādapadmayugasādaravandanodyad-

ānandasundaravibuddhamukhāravindaḥ /

dharmopadeśakathayaiva babhūva śāstur

unmr̥ṣtamānasa ivāśu sa dṛṣṭasatyah // 82.40 //

40a °yugasādara°] ABE: °yugamādara° Ed. Cf. de JONG. 40c °kathayaiva] T:
°kathayeva ABE. 40d ivāśu sa dṛṣṭasatyah] ABE: ivāśrutadṛṣṭasatyah Ed. Cf. de JONG.

/ tatpā da padma yu ga mā da ra bandi na no dya dā nanda punda ra bi buddha mu khā ra
bindaḥ / dharmmo pa (de D: da T) śa ka tha yai ba ba bhū ba śāstu tunmr̥ ṣā mā na sa i bā śu sa
dṛṣṭa satyah // 82.40 //

かの方の両足の蓮花を敬意をこめて拝礼することによって起こってくる (udyat) 歓喜
を伴った、花開いた蓮華のような美しい顔を有する彼は、師 (仏) が教法を説かれたお
かげで、心が拭き清められたかのように、速やかに真理を観た。

Metre: Vasantatilaka.

/ de yi zhabs kyī padmo zung la gus pas phyag 'tshal te // kun dga' 'phel zhing
mdzes pa'i bzhin gyī padmo nam par rgyas /

/ ston pa'i chos kyī mang ngag gtam gyis de ni myur nyid du // bden pa mthong
zhing yid ni rab tu phyis pa bzhin du gyur /

40c man ngag] β : yang dag δ || gyis] D: gyī β T.

dīrghopabhogagalitavyasanasya kāle

pāpapradoṣatimiroparame janasya /

ity ātanoti vimalā sukr̥taprabhāta-

velā viśālakuśalātiśayaprakāśam // 82.41 //

41a °galita°] AT: °lalita° BE: °calita° Ed.

41cd prabhāta velā viśāla°] ABE: prabhāva-velāviśāla° Ed.

/ dīrgho pa bho ga ga li ta bya ba na sya kā le pā pa dra do ṣa ti mi ro ṣa ti ro pha ra me ja na
sya / i tyā ta no ti bi ma lā su kr̥ta pra bhā ta be lā bi śā la ku śa lā ti śa ya pra kā śam // 82.41 //

悪行という夜の闇が消え去る時、[夜の間の] 久しい [苦の] 享受によって困苦が消滅した人々に、善行という、無垢の朝の時は、このように (iti) 広大な善のすばらしさ (atīśaya) の光線を拡げる。

Metre: Vasantatilaka.

/ sdig pa mtshan mo'i rab rib nye bar zhi ba'i dus su ni // yun ring nye bar spyad
pas sdug bsngal nyams pa'i skye bo la /
/ legs byas snga dro'i dus ni dri ma med cing yangs pa yi // dge ba phul byung
snang ba de ltar kun tu rgyas par gyur /

Note 41ab] 梵文の galita-vyasanasya (消滅した困苦をもつ) にあたる訳語が藏訳の sdug bsngal nyams pa'i であると思われる。nyams pa は形容詞として使われている。

iti kṣemendraviracitāyāṃ bodhisattvāvadānakalpalatāyāṃ nārapūrvikāvadā-
naṃ dvyaśītitaṃ pallavaḥ //

(Colophon:) °nārapū°] ABE: °mārapū° Ed.

/ i ti kṣe mendra bi ra ci tā yāṃ bo dhi satvā ba dā na kalpa la tā yāṃ nā ra ka pūrbba kā ba dā
{D196a} naṃ dbya śī ti ta maḥ pa lla vaḥ //

以上、クシェーメンドラ作『菩薩のアヴァダーナの祈願成就の蔓草』における「『まず先に地獄に生まれ [後に天に生まれ] る者』のアヴァダーナ」、第82の小枝(章)。

/ zhes pa dge ba'i dbang pos byas pa'i byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa
dpag gsam gyi 'khri shing las dmyal ba sngon ldan gyi rtogs pa brjod pa'i yal
'dab ste brgyad cu rtsa gnyis pa'o //

(Colophon:) zhes] D: ces β T

第82章の非重要な異読の報告

1. チベット訳の諸版の正字法上の異読

以下、] の記号より前にある語形が、校訂テキストの語形であり、その記号の後ろにある語が、或る版の正字法上の異読を示す。

7d 'phreng] DT: phreng GNQ. 35d 'jigs su] 'jigs G. 38c mams su] mamsu G.

2. チベット訳の諸版の特殊な異読 (Sonderlesungen)

以下、Jの記号より前にある語形が、校訂テキストの語形（正しい語形）であり、その記号の後ろにある語が、或る一つの版の特殊な異読を示す。例えば、**4c** zhing] shing T. という記述は **4c** zhing] DGNQ: shing T と表現すると全く同じであり、それは STRAUBE (2006), S. 245 の記述の仕方なら shing st. zhing G と表現される。

4c zhing] shing T. **6b** dpa' bo] dpa' ba T. **7b** bltas] blngas N. **7c** de yi] de yis T. **10a** kyij] kyis T. **14d** 'thon pa] 'than pa D. **15b** chen] cen T. **22d** de] da D. **25a** 'dzeg] 'dzegs G. **27d** khyij] khyis N. **30c** smras pa] smra ba Q. **37c** pa yi] pa yis G. **39b** nor bu'i] nor ni G. **39c** mdzes] mdze ba N. **40a** 'tshal] btsal T. **41b** nye] nya D.

3. 梵文写本における特殊な異読 (Sonderlesungen)

以下、Jの記号より前にある語形が、私の校訂テキストにある語形（正しい語形）であり、その記号の後ろにある語形が特殊な異読を示す。これは写本の中に沢山ある無意味な書き誤り等の異読をすべて本文の異読注として挙げると、真に重要な異読がそれらの無視してよい異読の中に埋もれてしまい、見えづらくなってしまいうので、そうならないようにする配慮として、本文の異読注とは別に記するものである。本文の異読注には重要な異読のみを挙げた。

1b kṛtaṃ] chataṃ B. **1d** °vadaṇaḥ] °vadana B. **5c** yauvanasthaḥ] yauvanastha B. **6d** taṃ] te B || °śikhara°] °śiṣara° B. **7a** sābhiḷāṣeṇa] svābhiḷāṣeṇa B. **7d** °mūrdhni] °mūddhni B. **10b** spaṣṭaṃ] spraṣṭaṃ B. **10d** °yoṣitā] °yauṣitā B. **11b** nikhila°] niṣila° B. **11d** viśaśanam] viśaśanaṃ B. **14c** nirgantuṃ] nirgantu B. **17c** kalahālapair] katahālapair B. **19c** tāḍaṅka°] tāṭaṅka° E. **21d** kim] kīm B. **23ab** pāpam ādarāya] pāpabhādarāya B. **25a** harmyādhiroha°] hartyāviroha° B. **26d** cakiteva] cakriteva B. **27d** °kolāhalaḥ] °kolāhataḥ E. **29b** cintayan] cintayat B. **31b** °gaṇoditam] °gaṇodisaṃ B. **33a** bhagavān] bhagavān_ n_ B. **34d** cirasthi-tiḥ] cirṇasthatiḥ E. **36c** ciraṃ] cira B. **38b** deveṣv ajāyata] devedhvajāyata B. **39a** vi-malamālā°] vinayamālā° E. **39b** prasṛta°] prabhṛti° E. **39d** bhrājamānaḥ] bhrājamānā B. **40a** °vandanodyad-] °vaṃdanaudyad- B. (Colophon:) dvyaśīti°] dvyasīti° A.

APPENDIX

Avadānakalpalatā 梵文と蔵訳の語の対応関係の確認

将来の索引作りのために、最後に付録として、梵蔵を一字一句対照させておきたい。以下の表記に関する注意：梵文と蔵訳の語の対応関係を示す際に、代名詞と動詞と一部の副詞は、語尾変化が付いた活用形で示す。しかし名詞と形容詞については、語尾変化形を出さずに、基本的に語幹の形で示し、語幹の後につけた1～8の数字で梵語の八つの格を示す。例：aśva1 = aśvaḥ, aśva2 = aśva (voc.), aśva3 = aśvam, aśva4 = aśvena, aśva5 = aśvāya, aśva6 = aśvāt, aśva7 = aśvasya, aśva8 = aśve. 両数と複数の場合も、格の表現には単数と同じ数字を用いる：aśva1 = aśvaḥ or aśvau or aśvāḥ.

第82章 Nārapūrvika

/ 'jig rten pha rol (= paraloka-) blo ldan (= dhī1) don med (= mithyā) bu la (= putra5) chags pa (= sprhā3) ci slad (= kim) sgrub (= prakurute) // bsod nams (= puṇya1) gang (= yat) rigs (= ucita1) de ni (= tat) rang gis (= svayam) byas te (= kriyate) gzhan gyis (= anya4) byas pa (= kṛta1) spyod ma yin (= na bhujyate) // gang gis (= yena) sdig las (= pāpa6) ma lus (= aśeṣa1) rigs ni (= anvaya1) mnam par ltung zhing (= nipāta-) bzhin dman (= bhagnavadana-) nyams byed pa (= sīdati) // de dag (= tat) mtshungs med (= asama-) gdug pa'i (= krūra) bya ba la (= kriyā-) mkhas (= kovida1) bu ni (= putra1) 'ga' *yis (= kaścid) mnam par bsgrubs (= vidadhāti) // 82.1 //

/ mnyan yod du (= śrāvastī8) sngon (= purā) khyim gyi bdag (= gṛhapatī7) // thos pa'i (= śruta-) go cha dag gi ni (= śrutavarman7) // chung ma (= jāyā8) rgyal ba'i sde la (= jayasenā8) bu (= suta1) // srid pa'i go cha (= bhavavarman-) zhes pa (= abhidhā1) byung (= abhavat) // 82.2 //

/ dal bu dal bus (= śanaiḥ śanaiḥ) byis pa (= śīśu8) de (= tasmin) // khyo shug (= dampatī) de dag gis (= tau) bskyed de (= vardhamāna8) // rigs brgyud (= vaṃśa-) khyad 'phags (= utkarṣa-) khyad par gyi (= viśeṣa-) // re ba (= āśā-) mnam par 'god pa (= viniveśa3) byas (= pracakratuḥ) // 82.3 //

/ dus kyis (= kālena) pha ni (= janaka8) dus (= kāla-) dbang du // song tshe (= vaśaga8) srid pa'i go cha ni (= bhavavarman7) // mdza' zhing rmongs pas (= sneha-moha-) gzir ba yi (= āta1) // ma yis (= janānī1) bskyed bsrings bskyangs par gyur (= saṃvardhanapara1 abhavat) // 82.4 //

/ khyim mtshes (= prātiveśya) grogs po dag (= vayasya) dang ni // lhan cig (= saha) rtse zhing (= līlā-) ma bsdams pa (= viśṛīkhala1) // lang tsho dag la gnas pa (= yauvanastha1) de (= saḥ) // gnyis 'thung (= dvipa1) lcags kyu med (= niraṅkuśa1) bzhin (= iva) 'khyam (= babhrāma) // 82.5 //

/ lag 'gro (= bhujāṅga3) *rgyal lam nas (= rājamārga4) bgrod (= vrajāt3) de (= tam) // dpa' bo yi ni (= subhāta-) bud med dag (= aṅganā1) // mdzes ma (= sundarī1) zhes pa (= nāma) khang bza- ng gi (= harmya-) // rtse mo dag na gnas pas (= śikharasthita1) mthong (= dadarśa) // 82.6 //

/ mngon par sred dang ldan pa (= sābhilāṣa4) des (= tena) // 'jo sgeg ldan *par (= savilāsaṃ)
rnam par bltas (= vilokita1) // bzhin 'dzum ma (= sumeramukha1) des (= sã) de yi ni (= tad-) //
spyi bor (= mürdhan8) me tog 'phreng ba (= kusumasra3) 'phangs (= utsasarja) // 82.7 //

/ khyim mtshes (= prātivesika1) de yis (= saḥ) de dag gi (= tayoh) // bsam pa (= ākūta3) rnam
'phrul dang bcas pa (= savibhrama-) // mthong nas (= dṛṣṭvā) longs spyod (= saṃbhoga-) go
byed pa'i (= sūcaka3) // brda rnams (= saṃketa3) thams cad (= sarva3) rig par gyur (= amanyata)
// 82.8 //

/ grogs la (= suhrd7) mdza' bas (= sneha-) chags gyur cing (= saṃsakta1) // gnod pa 'byung bar
(= parābhava3) dogs pa yis (= śaṅkamānaḥ) // 'jigs pa (= cakita1) de ni (= saḥ) song gyur nas (=
gatvā) // srid pa'i go cha'i (= bhavavarman7) ma la (= janani3) smras (= prāha) // 82.9 //

/ khyod kyi (= te) bu (= putra1) dang dpa' bo yi // bud med (= subhāṭayoṣit4) gsal ba'i (=
spaṣṭam) brda dag byas (= kṛtasamketa1) // mtshan mo (= rajani8) rnam par ma dul ba (=
avinīta1) // dman min rgyu zhing (= svairacārin1) 'gro bar 'gyur (= gamiṣyati) // 82.10 //

/ mi yi ri dwags (= naramṛga1) 'khor ba (= saṃsāra-) sdug bsngal (= vyasana-) nags tshal (= ga-
hana8) 'dir ni (= asmin) rgyu byed cing (= carantaḥ) // mchog tu (= bhṛśam) longs spyod kyis (=
bhoga-) 'khrugs (= vyagra1) ma lus bde ba'i (= nikhila-sukha-) *rtswa la (= śaṣpa-) chags gyur
rnams (= praṇayin1) // 'jig pa'i (= vināśa-) bya ba (= vyāpāra) dang ldan (= ?, v. note) rngon pa
(= śabara-) zhags pa dag tu (= pāśa8) ltung gyur te (= nipatita1) // mjug tu (= paryante) dug ldan
(= viṣa-) mon po'i (= niśita-, v. note) mtshon rnams dag gis (= śastra4) brlag pa (= viśasana3)
thob par 'gyur (= labhante) // 82.11 //

/ g.yo ba'i bsam pa dang ldan (= capalāśaya1) zhing (=?, v. note) // re zhig (= tāvat) nyin par (=
vāsara8) bdag gis (= mayā) bsrung (= rakṣita1) // mtshan mo (= rātri8) khyod kyis (= tvayā)
bsrung bar bya (= rakṣaṇīya1) // zhes pa (= iti) brjod nas (= ukṭvā) grogs po (= suhrd1) song (=
prayayau) // 82.12 //

/ de nas (= atha) khyim nang du (= antargṛha-) nyal (= supta7) bu (= putra7) // sgo ru (= dvāra-)
nyal ba'i (= śāyin1) ma yis ni (= mātr1) // mtshan mo (= niś8) rab tu sad (= prabuddha1) bzhin
du (= iva, v. note) // kun tu bsrung ba la (= saṃrakṣaṇa-) chags gyur (= para1 abhavat) // 82.13 //

/ chu yi (= vāri-) dag byed (= śauca-) zol gyis ni (= apadeśa4) // phyir 'byung (= nirgama3) zhu
bar byed pa la (= yācamāna7) // mdza' bas (= sneha-) rmongs pa'i (= mohita1) ma yis ni (=
janani) // phyi rol 'thon pa (= nirgantum) byin ma gyur (= na dadau) // 82.14 //

/ des bsams (= so 'cintayat) kye ma (= aho) dga' ba yi (= ramya-) // bud med (= rāmā-) rin chen
(= ratna-) dang 'grogs la (= samāgama8) // gegs ni (= vighna-) skyed par byed pa yi (= janana1) //
/ bdag gi (= mama) ma (= janani1) 'di (= iyam) ci yis (= kena) sprul (= nirmita1) // 82.15 //

/ re zhig (= tāvat) skal bas (= bhāgya4) pha ni (= janaka1) bdag (= me) // lang tsho ldan zhing (=
yauvana8) shi bar gyur (= nidhanaṃ gata1) // bsod nams min pas (= apuṇya4) sbrul nag ni (=

kālavāyālī) // 'jigs rung ma (= kaṅkāḷī) 'di (= iyam) khyim na (= gṛha8) gnas (= sthita1) // 82.16
//

/ gnyid (= nidrā-) dang bral ma (= virahita3) 'di la ni (= enām) // gal te (= yadi) bdag gis 'goms
(= samullaṅghya) phyin na (= gacchāmi) // 'di yi (= asyāḥ) 'thab mo'i (= kahala-) smra brjod kyis
(= ālāpa4) // skye bo mams kyang (= jano 'pi) sad par gyur (= pratibudhyate) // 82.17 //

/ mtshan mo (= kṣapā1) phal cher (= prāyas) yongs zad cing (= parikṣiṇa1) // mdzes ma (= kān-
tā1) ring la (= dūra8) bdag ci byed (= karomi kim) // skal ba dman pa (= bhāgya-hīna7) bdag la
ni (= mama) // skal bzang ma (= subhagā1) de (= sā) ji ltar mod (= katham) // 82.18 //

/ khang bzang (= harmya-) nang du (= utsaṅga-) son cing (= gata-) rnam par blta ba'i (=
vilokana-) ro las (= rasa6) bzhin gyi (= ānana-) chu skyes (= ambhoruha1) dud (= namra-) // rna
ba'i (= śravaṇa-) ut pal (= utpala7) lhung bar gyur pas (= srasta7) mig gi (= nayana-) mdzes pa (=
chāyā3) rna ba dag la (= ?, v. note) ster (= diśat1) // rna rgyan (= tāḍaṅka-) 'od zer dag gis (=
dyuti4) 'gram pa (= kapola-) zung la (= yugala8) pa tra'i 'phreng ba (= patrāvalī3) rnam par 'dzin
(= bibhrat1) // mdzes ma (= sundarī) de ni (= sā) legs ldan dag gi (= bhavya7) skal ba mams kyis
(= bhāgya4) spyad bya'i (= bhoga-) sa ru (= bhū3) 'gyur (= prayāti) // 82.19 //

/ de ltar (= iti) bsams pas (= cintā-) gzir zhing (= ātura3) sgo (= dvāra3) // yang dang yang du (=
punaḥ punaḥ) slong byed pa (= yācamāna3) // de la (= tam) ma yis (= mātṛ1) 'di nyid du (= atrai-
va) // gtsang ba (= śauca3) mdzod (= kriyatām) ces (= iti) rab tu smras (= abravīt) // 82.20 //

/ de nas (= atha) ral gris (= khaḍga4) ma yi (= mātṛ7) mgo (= śiras3) // bcad nas (= chittvā) de ni
(= saḥ) mgyogs par (= javāt) song (= yayau) // chags pas (= rāga-) nyer bstan (= upadiṣṭa-) sdiḡ
bdag nyid (= durātman7) // ngan pa mams la (= pāpa7) bya min (= akārya1) ci (= kim) // 82.21 //

/ mtshan mo (= rātri8) ngal dub (= āyāsa1) ma rtsis par (= agaṇita-) // mdzes ma'i khang par (=
sundarīgṛha3) de (= saḥ) song nas (= gatvā) // mkhas shing (= vidagdha3) longs spyod la (=
saṃbhoga-) chas ma (= saṃnaddha3) // de ni (= tām) dben par (= rahas) yang dag thob (= āsasā-
da) // 82.22 //

/ de la (= tasyai) rang gi byas pa'i (= svakṛta3) sdiḡ (= pāpa3) // gus pa'i slad du (= ādara5) de yis
(= saḥ) bshad (= nyavedayat) // gang gis (= yena) smad pa nyid 'gyur ba (= nindyatām āyānti) //
de nyid kyis ni (= tenaiva) rmongs *pas (= mūrkhāḥ) bsngags (= ślāghante) // 82.23 //

/ ma bsad (= mātṛvadhā-) sdiḡ pa drag po ni (= krūrapāpa-) // thos nas (= śravaṇa-) 'dar bar gyur
pa (= kampita1) de (= sā) // gtum po la (= śvapāka7) bzhin (= iva) de la ni (= tasya) // reg *las
(= saṃsparśe8) shin tu (= param) phyir phyogs (= vimukha1) gyur (= abhavat) // 82.24 //

/ de yi gnas nas (= tadantikāt) khang bzang la (= harmya-) // 'dzeg pa'i (= adhirohaṇa-) zol gyis
(= vyāja6) de (= sā) song ste (= jagāma) // sdiḡ pa mams *kyi (= pāpa7) gus pa yis (= ?, v. note)
// sred ldan dag (= sābhilāṣa1) kyang (= api) chags bral gyur (= virajyati) // 82.25 //

/ sdig pa las ni (= pāpa-) phyir phyogs ma (= parānmukhī1) // de yis (= sā) ba gam mthon por (= uccaharmya-) 'dzegs (= samāruḍha1) // 'di ni (= ayam) chom rkun (= caura1) chom rkun (= caura1) zhes (= iti) // 'jigs pa (= cakita1) bzhin du (= iva) skad cher bsgrags (= uccaiś cukrośa) // 82.26 //

/ 'khor gyi skye bos (= parijana8) rgyugs pa'i tshe (= paridhāvita8) // 'jigs pas (= bhaya-) nyen pa (= bhagna1) de (= saḥ) rab bros (= vidruta1) // ji srid (= yāvat) rang gi khyim du (= nijagrha3) song (= yayau) // khyi mams kyis ni (= śvan4) ca co byas (= kṛtakolāhala1) // 82.27 //

/ bdag gi (= me) ma ni (= janānī1) chom rkun gyis (= caura4) // bsad (= hata1) ces (= iti) skad cher (= tāra-) rab smra zhing (= pralāpavat1) // snga dro (= prabhāta8) de yis (= saḥ) ma yi ni (= mātṛ7) // lus la sog pa (= śarīrādi-) sbyang ba (= satkriyā3) byas (= vidadhe) // 82.28 //

/ rab bsgrigs (= pracchanna-) sdig pa'i (= pāpa-) gdung ba yis (= saṃtāpa-) // sreg cing (= dahyamāna1) shin tu mi bzad pa'i (= sutivra-) // dmyal bar (= naraka-) ltung ba (= āpāta3) *des (= saḥ) bsams te (= cintayat1) // 'byung po bzhin du (= bhūtavat) sa la (= bhū8) 'khyams (= babhrāma) // 82.29 //

/ sdig pa smra byed (= pātakavādin4) de yis ni (= tena) // phyir bcos (= prāyaścitta3) dris la (= pṛṣṭa1) gnyis skyes kyis (= dvija1) // smras pa (= ūcuḥ) ma bsad (= mātṛvadha-) drag po yi (= krūra-) // sdig pa dag la (= pātaka8) bcos thabs (= niṣkṛti1) med (= nāsti) // 82.30 //

/ de nas (= atha) rgyal byed tshal (= jetavana3) song bas (= gatvā) // der ni (= tatra) dge slong tshogs (= bhikṣugaṇa-) brjod pa'i (= udita3) // sdig pa thams cad (= sarvapāpa-) nyams byed pa'i (= praṇāśana3) // chos kyī kha ton (= dharmādhyayana3) rab tu thos (= śuśrāva) // 82.31 //

/ der ni (= tatra) blo ldan (= dhīmat1) rab byung ste (= pravrajita1) // kha ton dag la (= svādhyāya-) mchog tu (= param) chags (= nirata1) // de nas (= tataḥ) de ni (= saḥ) sde snod gsum (= tripiṭaka-) // brjod cing (= adhyāyin1) chos kyī gtam can (= dharmakathika1) gyur (= abhavat) // 82.32 //

/ de nas (= atha) kun mkhyen (= sarvajña1) bcom ldan 'das (= bhagavat1) // mngon phyogs (= abhyetya) dge slong tshogs la (= bhikṣusamgha3) gsungs (= abravīt) // sdig can (= sapāpa5) 'di la (= asmai) rab byung ni (= pravrajyā1) // khyod kyis (= bhavadbhiḥ) ci slad (= kim) yang dag byin (= samarpita1) // 82.33 //

/ ma bsad (= mātṛvadha-) drag por gyur pa yi (= krūra-) // sdig pa (= kilbiṣa4) de yis (= tena) bag med (= pramādin4) 'di (= asya) // mjug tu (= paryante) mnar med (= avīci8) tsha bar ni (= tapta-) // yun ring gnas la (= cirasthiti1) rab tu nye (= pratyāsanna1) // 82.34 //

/ de bzhin gshegs pas (= tathāgata4) de (= iti?) gsungs tshe (= ukta8) // de yang (= so 'pi) mkhan po nyid du gyur (= upādhyāyatām gata1) // dus kyis (= kālena) dus kyī mjug tu ni (= kālaparyanta8) // 'jigs su rung ba'i (= ghora3) dmyal ba (= naraka3) thob (= āptavat1) // 82.35 //

/ der ni (= tatra) mnar med tshogs (= avīcīcaya-) 'khrungs pa (= udañcat-) // mi bzad (= tīvra-) me lce (= vahniśikhā-) brgya phrag gis (= śata4) // yun ring (= cīram) 'tshed par byed cing (= pa-cyamānaḥ) des (= saḥ) // dmyal ba'i (= naraka-) gnas ni (= okas7) skyo bar byas (= khedaṃ cakre) // 82.36 //

/ dmyal srung (= narakapāla4) rab tu khros pa yis (= kopa6) // tho bas (= mudgara-) brdungs shing (= āghāta-) phye mar btags (= cūrṃita1) // de yis (= saḥ) ring nas (= cīrāt) sdig pa yi (= pāpa-) // me yis (= agni-) yongs smin (= paripakva-) lus (= tanu1) zad (= kṣaya3) thob (= prāpa) // 82.37 //

/ de nas (= atha) de ni (= saḥ) rab byung gi (= pravrajyā7) // mthu yis (= prabhāva4) rgyal po chen po dag // bzhi pa yi ni (= cāturmahārājika8) lha rnam su (= deva8) // lha yi (= divya-) rgyan gyis (= ābharaṇa-) brgyan par (= bhūṣita1) skyes (= ajāyata) // 82.38 //

/ de nas (= atha) dri med (= vimala-) 'phreng ba (= mālā-) cod pan (= mauli-) dpung rgyan (= keyūra-) do shal las (= hāra-) // rab 'phros (= prasṛta-) nor bu'i (= maṇi-) 'od kyis (= mayūkha-) rmad byung (= adbhuta-) dpal ni (= śrī1) 'bri byed cing (= ullikhyamāna-) // lha yis (= amara-) bsten bya (= vandyā1) rjes 'brang (= anugata4) 'od kyis (= prabhā4) rab mdzes zla ba (= in-dukānti1) ltar // mdzes pa (= bhrājamānaḥ) de ni (= saḥ) bde bar gshegs la (= sugata3) phyag 'tshal slad du (= vandana5) song (= agamat) // 82.39 //

/ de yi (= tad-) zhabs kyi (= pāda-) padmo (= padma-) zung la (= yuga-) gus pas (= sādara-) phyag 'tshal te (= vandana-) // kun dga' (= ānanda-) 'phel zhing (= udyat-) mdzes pa'i (= sun-dara-) bzhin gyi (= mukha-) padmo (= aravinda1) rnam par rgyas (= vibuddha-) // ston pa'i (= śāstrī7) chos kyi (= dharmā-) mang ngag (= upadeśa-) gtam gyis (= kathā4) de ni (= saḥ) myur nyid du (= āśu) // bden pa mthong zhing (= drṣṭasatya1) yid ni (= mānasa1) rab tu phyis pa (= unmrṣṭa-) bzhin du (= iva) gyur (= babhūva) // 82.40 //

/ sdig pa (= pāpa-) mtshan mo'i (= Pradoṣa-) rab rib (= timira-) nye bar zhi ba'i (= uparama8) dus su ni (= kāla8) // yun ring (= dīrgha-) nye bar spyad pas (= upabhoga-) sdug bsngal (= vyasana7) nyams pa'i (= galita-, v. note) skye bo la (= jana7) // legs byas (= sukṛta-) snga dro'i (= prabhā-ta-) dus ni (= velā1) dri ma med cing (= vimala1) yangs pa yi (= viśāla-) // dge ba (= kuśala-) phul byung (= atīśaya-) snang ba (= prakāśa3) de ltar (= iti) kun tu rgyas par gyur (= ātanoti) // 82.41 //

第二部

餓鬼になったウッタラの母

— Avadānaśataka 第46章と SMRAM 第17章 —

略号

Avś = Avadānaśataka

Ed. = the edition of TAKAHATA (1954)

SMRAM = Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

S17 = the chapter 17 of the Subhāṣitamahāratnāvadānamālā

SMRAM 第17章『大神通餓鬼女 (pretībhūtamaharddhikā) アヴァダーナ』は、Avś 46話『ウッタラ』 (Uttaraḥ) を韻文で再話した梵文作品である。

この Avś 46 話に相当する物語は、根本有部律中の Pāṇḍulohitakavastu 第4節に見出されるが、その両伝承の比較は山極伸之 (1992) によって行われた⁷。山極によれば根本有部律の方が Avś の話を利用しているのであって、その逆は考えられない。根本有部律のこの箇所は Gilgit 写本として梵文が現存している⁸。

この北伝の有部の餓鬼話は、南伝にもパラレルがあり、パーリ『餓鬼事』II.10話 (第22話) 『ウッタラの母』として存する⁹。

SMRAM 第17章は、ネパールの別の説話集成写本 Ratnāvadānatattva の中にも同じ章名で有り、内容も全く同じであるが、その写本をローマ字転写した高島寛我の Ratnamālā-vadāna 出版本 (1954年) では、その章は第24章にあたる (281-292頁)¹⁰。高島が用いた

7. 山極伸之 (1992): 「根本説一切有部律鍵度部の研究 (3) — Pāṇḍulohitakavastu と Avadānaśataka の関係 —」、『印度学仏教学研究』40-2、955-950頁。

8. [Gilgit 写本の転写:] N. DUTT (1943): *Gilgit Manuscripts*, vol. III, part 2, Srinagar - Kashmir, pp. 19-28.; Nobuyuki YAMAGIWA (2001): *Das Pāṇḍulohitakavastu*, <Indica et Tibetica 41>, S. 64-81.

9. [聖典:] Petavatthu (PTS ed.), 28f.; [和訳:] 『南伝大蔵経』25巻、46-47頁; [英訳:] Jean KENNEDY & Henry S. GEHMAN (1942): *The Minor Anthologies of the Pali Canon*, Part IV, pp. 194-196. [注釈:] Petavatthu-Atṭhakathā (PTS ed.), pp. 140-144.; [註釈の英訳:] U BA KYAW (1980): *Elucidation of the Intrinsic Meaning: So Named the Commentary on the Peta-stories*, <Sacred books of the Buddhists 34>, pp. 149-15.2; [註釈の和訳:] 藤本晃『廻向思想の研究』、ラトナ仏教叢書I、250-254頁; [解説:] MALALASEKERA (1974), DPPN, p. 358, s.v. Uttaramātā (1); B. C. Law (1923): *The Buddhist Conception of Spirits*, pp.89-90.

10. この高島本 Ratnāvadānamālā 第24章を含めて餓鬼譚を分析した研究としては、次の奈良の論

Ratnāvadānatattva の京大写本（A' 写本；Goshima・Noguchi 87）ではその章は第12章となっている。

今回の SMRAM 第17章の校定にあたっては、前回の論文同様、次の三つの資料を使用して校定テキストを作成した：(1) SMRAM 写本、(2) Ratnāvadānatattva の写本 N、(3) 高畠出版本（Ratnāvadānatattva 京大写本 A' に基づくローマ字転写）。本章においても(1)の SMRAM 写本は校定テキストの底本としての役割を果たし、(3)の高畠のローマ字テキストを大きく改良するのに役立った。(2)の写本 N はかなり誤りが多いため、Apparatus criticus にすべての異読を報告することはせず、読みの伝承を確認したい箇所においてのみ参照し報告するに留めた。

第1節 SMRAM 第17章 Pretībhūtamaharddhikāvadāna の梵文と訳

以下にまず SMRAM 第17章 Pretībhūtamaharddhikāvadāna の校定梵文テキストを挙げ、続いて部分訳（vv.110-246）を挙げる。

17 Pretībhūtamaharddhikāvadāna

Ed. (= TAKAHATA 1954), pp. 281-292; N (NGMPP E1343/4) 183a-192b;

Ms. (= SMRAM) 127b-137a

[127b8] athāśoko mahīpālaḥ kṛtāñjalipuṭo mudā / upaguptaṃ yatiṃ natvā prārthayac ca tathādarāt // 1	[= Ed. 1]
bhadanta śrotum icchāmi punar anyat subhāṣitam / tad yathā guruṇādiṣṭaṃ tathā me samupādiśa // 2	[= Ed. 2]
iti samprārthite rājñā śrutvā so 'rhan sudhīr yatiḥ / nrpatim taṃ mahīpālaṃ sampaśyann evam ādiśat // 3	[= Ed. 3]
sādhu śṛṇu mahārāja yathā me guruṇoditam / tathāhaṃ sampravakṣyāmi tava dharmābhivṛddhaye // 4	[= Ed. 4]
tadya[128a]thā bhagavañ chāstā śrīghanaḥ sa munīśvaraḥ / sarvajñaḥ sugato nātho dharmarājo vināyakaḥ // 5	[= Ed. 5]
bhikṣubhiḥ śrāvakaiḥ sārthaṃ bhikṣuṇībhiḥ ca cailakaiḥ /	

文がある：奈良康明(1981):「餓鬼 (preta) 観变遷の一過程とその意味」、『勝又俊教先生古稀記念論集 大乘仏教から密教へ』、春秋社、249-267頁。

upāsakaiḥ śubhācārair upāsikāgaṇair api // 6	[= Ed. 6]
bodhisattvair mahāsattvais tathānyair bodhivāñchibhiḥ / brahmadevāsurendrais ca yakṣagandharvakimṇaraiḥ // 7	[= Ed. 7]
siddhair vidyādharaiś cāpi nāgendrair garuḍair api / sarvair lokādhipaiś cāpi tathānyaiś ca maharṣibhiḥ // 8	[= Ed. 8]
brāhmaṇai rājabhī rājakumāraiś ca śubhārthibhiḥ / vaiśyair mantrigaṇaiś cāpi tathāmātyagaṇair api // 9	[= Ed. 9]
śreṣṭhibhiḥ paurikaiś cāpi gr̥hasthaiś ca mahājanaiḥ / vaṇigbhiḥ sārthavāhaiś ca tathā śilpigaṇair api // 10	[= Ed. 10]
grāmyair jānapadaiś cāpi *kārvaṭikaiḥ satīrthikaiḥ / tathānyaiḥ sujanair vijñaiḥ saddharmaguṇavāñchibhiḥ // 11	[= Ed. 11]
sevito 'bhyarcitas tatra veṇuvane manorame / karandakanivāpākhye vihāre saugatāśrame // 12	[= Ed. 12]
saddharmaṃ samupādiśya vijahāra prabhāsayan / sarvasattvahitārthena ratnarāsīr ivojjvalan // 13	[= Ed. 13]
tadaiva samaye tatra rājagr̥he purottame / āsīd gr̥hapatīḥ śreṣṭhī mahājano mahādhanah // 14	[= Ed. 14]
śrīmāñ chrīdopamaḥ sarvadravysaṃpatsamanvitaḥ / sa sadṛṣāt kulād bhāryāṃ svakuladharmacāriṇīm // 15	[= Ed. 15]
subhadraṅgīm samānīya vidhinodavahan mudā / tataḥ sa gr̥habhṛt kān[128b]to bhāryayā kāntayā tayā /	[= Ed. 16]
yathākāmaṃ ratim̐ bhuktvā cakrīḍa paricārayan // 16	[= Ed. 17]
tatas tasya gr̥hasthasya yathākāmaṃ prabhuñjataḥ /	[= Ed. 18]
samaye sā priyā bhāryā babhūva garbhadhāriṇī // 17	[= Ed. 19]
tataḥ sā samaye 'sūta dāraḥ sundarāṃśīkam / tac chrutvā sa pitā śreṣṭhī mudā draṣṭum upācaran // 18	[= Ed. 20]
tatra sa samupetyāśu dāraḥ taṃ śubhāṃśīkam / dṛṣṭvā saṃmuditaḥ paśyann eva tasthāv atṛptitaḥ // 19	[= Ed. 21]
tato jñātīn samāhūya kṛtvā jātimahaṃ śīsoḥ / asya nāma prasiddhena kriyatām ity abhāṣata // 20	[= Ed. 22]
tac chrutvā jñātayaḥ sarve te kṛtvā saṃmataṃ tathā / taṃ śreṣṭhinaṃ samāhūya pura evaṃ samabruvan // 21	[= Ed. 23]
yad ayaṃ dārako jāto nakṣatra uttarābhidhe / tenottara iti khyāto bhavatu bhavadātmajaḥ // 22	[= Ed. 23]
iti tair jñātībhiḥ khyātaṃ śrutvā sa gr̥habhṛt tathā /	

tenaiṃ nāmadheyena prākhyāpayat tam ātmajam // 23	[= Ed. 24]
tataḥ sa dārako 'ṣṭābhir dhātrībhiḥ pratipālitaḥ /	
dine dine pravṛddho 'bhūd dhradastham ambujaṃ yathā // 24	[= Ed. 25]
tataḥ pravardhamānaḥ sa gurubhiḥ śikṣitaḥ kramāt /	
lipyādisarvavidyānām drutaṃ pāraṃ samāyayau // 25	[= Ed. 26]
tadā sa uttaro vijñāḥ savayobhiḥ sahānvitaḥ /	
caramāṇaḥ pure tatra lokamanoharo babhau // 26	[= Ed. 27]
yadā sa uttaraḥ prauḍho yauvanamadanāśrayaḥ /	
tadā tasya pitā śreṣṭhī daiṃvāt kālaṃ samāyayau // 27	[= Ed. 28]
tatas tasya gṛ[129a]he tatra sa uttaras tadātmajaḥ /	
svāmī saṃpattisaṃprāpto gṛhalokādhipo 'bhavat // 28	[= Ed. 29]
tataḥ sa kulavṛttistho vyavahāravicaḥṣaṇaḥ /	
krayavikrayakāryāṇi kṛtvā dravyaṃ samarjayat // 29	[= Ed. 30]
sa ekasmin dine tatra veṇuvane jināśrame /	
saṃbuddhaṃ śrīghanaṃ draṣṭuṃ dharmārthī samupācarat // 30	[= Ed. 31]
tatra sa samupāsṛtyādrākṣīt tam śrīghanaṃ munim /	
dvātriṃśallakṣaṇāśītiṃ vyāñjanapratimaṇḍitam // 31	[= Ed. 32]
vyāmaprabhāvirocantaṃ samantabhadrarūpiṇam /	
ratnarāśim ivojjvālaṃ ratnādrim iva jaṅgamam // 32	[= Ed. 33]
sabhāmadhyāsanāsīnaṃ bhikṣusaṃghapuraskṛtam /	
dharmāmṛtapravarṣantaṃ sarvalokair namaskṛtam // 33	[= Ed. 34]
drṣṭvā sa muditas tatra sāñjaliḥ purato vrajan /	
pādaḥ tasya munīndrasya praṇatvaikānta āśrayat // 34	[= Ed. 35]
tatra tasyāśayaṃ śuddhaṃ drṣṭvā sa bhagavāṃs tathā /	
āryasatyaṃ samārabhya saddharmaṃ samupādiśat // 35	[= Ed. 36]
tat saddharmāmṛtaṃ pītvā sa uttaraḥ pramoditaḥ /	
punaḥ pādaḥ muner natvā pratyāyayau svam ālayam // 36	[= Ed. 37]
evaṃ sa uttaro vijñāḥ pratidinaṃ jagadguroḥ /	
draṣṭuṃ dharmāmṛtaṃ cāpi pātuṃ nityam upācarat // 37	[= Ed. 38]
tathā tasya munīndrasya pītvā dharmāmṛtaṃ tadā /	
saṃbuddhaśāsane tatra pravrajituṃ samaicchata // 38	[= Ed. 39]
tataḥ sa uttaras tasya munīndrasya puro gataḥ /	
pādābjau sāñjalir natvā pravrajyāṃ samayācata // 39	[= Ed. 40]
bhagavan nātha sarvajña bhavatāṃ śaraṇaṃ vraje /	
tat pravrajyāvratam mahyaṃ dātum arhati saṃpratam // 40	[= Ed. 41]

iti samprārthi[129b]te tena bhagavān sa munīśvaraḥ / uttarākhyam kumāram tam samālokyaivam ādiśat // 41	[= Ed. 42]
kumāra śāsane bauddhe pravrajitum yadīcchasi / anujñān mātur āsādyā prāgaccha dāsyate tadā // 42	[= Ed. 43]
ity ādiṣṭe munīndreṇa sa uttaraḥ prabodhitaḥ / tatheti caraṇau tasya muner natvā gṛhaṃ yayau // 43	[= Ed. 44]
tatra gṛhe samāsādyā sa uttaraḥ pramoditaḥ / jananyāś caraṇau natvā sājñalir evam abravīt // 44	[= Ed. 45]
mātar adya vihāre 'haṃ gacchāmi saugatāśrame / tatra śāstur mukhābjottham āryadharmāmṛtam pibe // 45	[= Ed. 46]
tat saddharmāmṛtam pītvā tṛṣṇā me vardhyate punaḥ / tat saddharmaṃ samālabdhum icchāmi parituṣṭaye // 46	[= Ed. 47]
dhanyās te hi śubhātmānaḥ pariśuddhatrimaṇḍalāḥ / saṃbuddhaśāsane sthitvā sadā dharmam pibanti ye // 47	[= Ed. 48]
aham api sadā tatra saṃbuddhaśāsane caran / tat saddharmāmṛtam labdhum icchāmi janani dhruvam // 48	[= Ed. 49]
tat pravrajyāvratam dhṛtvā caritum saugatāśrame / icchāmi sāmpratam mātāś tadanujñān pradehi me // 49	[= Ed. 50]
iti putroditam śrutvā matā sā prahatāśayā / ciraṃ tam ātmajam dṛṣṭvā rudanty *evam abhāṣata // 50	[= Ed. 51]
kim eva vadase putra maivaṃ me purato vada / kim artham svagṛham tyaktvā pravrajitum tvam icchasi // 51	[= Ed. 52]
kiṃ te duḥkham kuto jātam mayā kiṃcin na dṛśyate / tvayā tu dṛśyate yat tad vaktavyam purato mama // 52	[= Ed. 53]
adyāpi tava tātasya śokādhiḥ śāmyate na me / tathāpi māṃ katham tyaktum icchasi sāmpratam suta // 53	[= Ed. 54]
iti [130a] mātroditam śrutvā sa uttaraḥ kumārakaḥ / mātaram tāṃ samālokyā bodhayitum samabravīt // 54	[= Ed. 55]
mātāś tvatkrīpayā me 'tra kiṃcid duḥkham na vidyate / gṛhe 'pi mahatī saṃpad asti bhogyam yathecchayā // 55	[= Ed. 56]
anityam khalu saṃsāram kṣaṇadhvaṃsi śarīrakam / anityam jīvitam vidyutsaṃpātam iva na dhruvam // 56	[= Ed. 57]
sampac cāpi sthirā naiva kasya śrī sarvadā sthirā / sarveṣāṃ api jantūnāṃ sarvatra maraṇam dhruvam // 57	[= Ed. 58]
sarve 'pi prāṇinaḥ kāle tyaktvā sarvān parigrahān /	

jñātibandhusuhṛṇmitrān api yānti yamālayam // 58	[= Ed. 59]
eko 'pi vidyate naiva mṛtyuprāpte sahānugaḥ /	
dharmā eva tadaikaḥ syāt trātānugo yamālaye // 59	[= Ed. 60]
dharmeṇa rakṣyate tatra yamadūtair adhiṣṭhite /	
tad atra sarvathā nityaṃ kartavyaṃ dharmam eva hi // 60	[= Ed. 61]
dharmavān atra saṃsāre bhramann api sadā sukhī /	
sarvatra satsukhāny eva prabhuktvā yāti sadgatim // 61	[= Ed. 62]
tatrāpi sarvadā saukhyaṃ bhuktvā kṛtvā ca maṅgalam /	
sarvasattvahiṭārthena saddharmāny eva sādhayet // 62	[= Ed. 63]
etatpuṇyavipākaiḥ sa sadguruṃ samupāśrayet /	
sadguroḥ tu prasādena bodhicittaṃ labhet tadā // 63	[= Ed. 64]
tato bodhicarīṃ prāpya bodhisattvo bhavet sudhīḥ /	
tataḥ sattvahiṭārthena bodhicaryaṃ samācaret // 64	[= Ed. 65]
tataḥ pāramitāḥ sarvāḥ paripūrya yathākramam /	
trividhāṃ bodhim āsādyā saṃbuddhapadam āpnuyāt // 65	[= Ed. 66]
ity ādiṣṭaṃ munīndreṇa sarvajñena hitārthinā /	
śrutam [130b] mayā parijñāya tathā caritum icchyate // 66	[= Ed. 67]
etatpuṇyavibhāgatvam api prāptuṃ yadīcchasi /	
tadanujñāṃ pradattvā me cittaṃ mātāḥ pratoṣaya // 67	[= Ed. 68]
iti putroditaṃ śrutvā mātā sā vihatāśayā /	
viyogaduḥkhaśaṅkārtā vilapanty evam abravīt // 68	[= Ed. 69]
hā putra katham ekānte mām vihātuṃ tvam icchasi /	
nānyo me vidyate putras tvam evaiko 'sti nandanah // 69	[= Ed. 70]
pitāpi tava mām tyajya daivād yāto yamālayam /	
tvam api mām parityaktvā kutra gantuṃ tathecchasi // 70	[= Ed. 71]
hā putra katham ajño 'si kenātra tvam pravañcyase /	
kiṃ paśyan hetunā kena pravrajituṃ tvam icchasi // 71	[= Ed. 72]
hā putra kena mūḍho 'si yad etā dravyasaṃpadaḥ /	
tyaktvā paraḡrhe bhikṣāṃ yācitvā bhoktum icchasi // 72	[= Ed. 73]
hā putra tvam kumāro 'si tat pravrajyāṃ careḥ katham /	
pravrajito ḡraḥ tyaktvā bahirdeśe sadāśrayeḥ // 73	[= Ed. 74]
tat katham svagḡraṃ tyaktvā bahirdeśe samāśrayeḥ /	
śāṅkaṇṭāvṛto muṇḍo mṛtvātra *cāpare careḥ // 74	[= Ed. 75]
śītavātātapākrānte katham duḥkhaṃ saheḥ suta /	
kṣutpipāsāgnisaṃtaptaduḥkhaṃ kas te 'bhiśāmayet // 75	[= Ed. 76]

śmaśāneṣu śavān paśyan katham ekaś careḥ suta / jaṅgale nirjane 'raṅye ekākī nivaseḥ katham // 76	[= Ed. 77]
tathā bhūtālaye sūnyagehe ca nivaseḥ katham / tathāmitreṣu deśeṣu katham eko 'rivac careḥ // 77	[= Ed. 78]
jvarādirogasaṃtapte kas tava paricārayet / ko vā te kṛpayā dadyāt pathyam āhāram auśadham // 78	[= Ed. 79]
yadi [131a] daivād vipattiḥ syāt tadā kaḥ pariśodhayet / iti samīkṣya mā putra pravrajyāvratā utsaha / mamātra vacanaṃ śrutvā sukhaṃ bhuktvā gṛhe vasa // 79	[= Ed. 80]
iti mātroditaṃ śrutvā sa putraś caivam abravīt / daivabhāvā bhavanty eva sarvatrāpi jagatsv api // 80	[= Ed. 81]
eko 'pi vidyate nātra suhṛṇmitrasahānugaḥ / dharma eva sahāyaḥ syāt sarvatra maraṇe dhruve // 81	[= Ed. 82]
iti saddharmasaṃprāptyai pravrajyāvratam uttamam / caritavyaṃ bhava vijñair nirvṛtipadavāñchibhiḥ // 82	[= Ed. 83]
iti tena munīndreṇa samādiṣṭaṃ niśamyate / mātar *mayā tathātraitad vratam caritum icchyate // 83	[= Ed. 84]
tad atra saugate dharme māṃ niyoktuṃ yadīcchasi / tad anujñāpradānaṃ me kṛpayā dātum arhati // 84	[= Ed. 85]
iti putrārthitaṃ śrutvā mātā sā gadgadasvarā / snehaduḥkhāgnisaṃtaptā drṣṭvaivaṃ sutam abravīt // 85	[= Ed. 86]
hā putra katham evaṃ tvaṃ nirdayo 'sy atiniṣṭhuraḥ / yad vṛddhāṃ jananiṃ drṣṭvā kāruṇyaṃ nāsti te hṛdi // 86	[= Ed. 87]
tad atra yadi te putra dayāsti mayi mātari / yāvaj jīvāmy ahaṃ tāvad gṛhe vasa mayā saha // 87	[= Ed. 88]
yāvac caitanmahatsaṃpat svagrhe sthirā tava / tāvad yathepsitaṃ saukhyaṃ bhuktvā *dharmam samācara // 88	[= Ed. 89]
avaśyaṃ maraṇam yāyāṃ kasya mṛtyur bhaved na hi / tadā mayi mṛtāyāṃ tu pravrajāsva yathecchayā // 89	[= Ed. 90]
sāmpac cāpi bhavet kṣiṇā kasya sāmpat sadā sthirā / tadā sāmpatparikṣiṇe bhikṣānnādo vratam cara // 90	[= Ed. 91]
yady evaṃ prārthite 'pi tvaṃ vilaṅghya vacanaṃ mama / nirdayo niṣṭhurasvāntaḥ pravrajasi haṭhād api // 91	[= Ed. 92]
tadāhaṃ te puro gatvā saugataśāsane 'pi hi / tyaktvāhāram viṣaṃ bhuktvā yāsyāmi maraṇam dhruvam // 92	[= Ed. 93]

iti me vacanaṃ satyaṃ vijñāyeha tvam ātmaja / mayā saha gr̥he saukhyaṃ bhukṣva kutrāpi mā vraja // 93	[= Ed. 94]
iti me vacanaṃ śrutvā yathākāmaṃ sukhaṃ gr̥he / bhuktvā nityaṃ sadotsāhaiś caraṃ rama svam ātmaja // 94	[= Ed. 95]
iti mātroditaṃ śrutvā sa uttaro 'bhiśaṃkitaḥ / tatheti pratibuddhitvā tasthau gehe nirāśitaḥ // 95	[= Ed. 96]
tataś caikadine prātaḥ samutthāya sa uttaraḥ / saṃbuddhaṃ taṃ muniṃ draṣṭuṃ [131b] vihāre samupācarat // 96	[= Ed. 97]
tatra taṃ śrīghanaṃ dr̥ṣṭvā sa uttaraḥ pramoditaḥ / natvā pradakṣiṇīkṛtya sāñjaliḥ samupāśrayat // 97	[= Ed. 98]
tataḥ sa bhagavān chāstā dr̥ṣṭvā tasya manogatam / bodhayituṃ samālokya tam evaṃ samupālapat // 98	[= Ed. 99]
kumāra kiṃ viṣaṇṇo 'si yan mano 'ntargataṃ tava / tan mamāgre samākhyāhi pūrayāmi yadīhitam // 99	[= Ed. 100]
ity ādiṣṭe munīndreṇa sa uttaraḥ samutthitaḥ / pādaḥ tasya muner natvā sāñjalir evam abravīt // 100	[= Ed. 1]
sarvajña bhagavañ chāstar vijānīyād bhavān mama / yan mano 'ntargataṃ sarvaṃ yathāpy ahaṃ nivedaye // 101	[= Ed. 2]
bhagavan nātha sarvajña na me mātā prabodhitā / tadanujñāṃ na me dātum icchati prārthitāpi sā // 102	[= Ed. 3]
tad bhavān me yathāyogyam vratam saṃbodhisādhanam / anyathāpi pradattvātra prabodhayitum arhati // 103	[= Ed. 4]
iti saṃprārthite tena bhagavān sa munīśvaraḥ / taṃ viśuddhāśayaṃ dr̥ṣṭvā samāśvāsyaiyam ādiśat // 104	[= Ed. 5]
mā kumāra viśādatvaṃ kṛthā dhairyam samāśraya / avaśyaṃ samaye prāpte brahmacārī bhaviṣyasi // 105	[= Ed. 6]
tāvad gr̥he sadā dānaṃ kṛtvārthibhyo yathepsitam / triratnasmaraṇam kṛtvā śubhe cara samāhitaḥ // 106	[= Ed. 7]
etatpuṇyavipākena samaye samupāgate / pravrajyāvratam āsādyā nirvāṇapadam āpsyasi // 107	[= Ed. 8]
iti matvā kumārātra yāvaj jīvati sā prasūh / tāvad gr̥he sadā dānaṃ kṛtvā śubhe caran vasa // 108	[= Ed. 9]
ity ādiṣṭaṃ munīndreṇa śrutvā sa uttaraḥ sudhīḥ / tatheti pravijñāpya [132a] prasasāda prabodhitaḥ // 109	[= Ed. 10]
tataḥ sa uttaro natvā sāñjalis taṃ munīśvaram /	

suprasannamukhāmbhojas tanmanāḥ svagrhaṃ yayau // 110	[= Ed. 11]
tatra sa svagrhe sthitvā svakulavṛttisādhanaiḥ /	
pratisāryāpaṇaṃ tatra cakāra krayavikrayam // 111	[= Ed. 12]
tatra mūlādhikaṃ lābhaṃ yal labdhaṃ paṇa*bandhane /	
tat sarvaṃ sa sutas tasyā mātur haste samārpayat // 112	[= Ed. 13]
tataḥ sa uttaraḥ putro mātaraṃ tām prasādayan /	
tallabdhaṃ sakalaṃ dravyaṃ dattvaivaṃ pratyabodhayat // 113	[= Ed. 14]
śṅṃu mātaraṃ mamānena dravyena svajanān janān /	
arthinaḥ kṛpaṇān viprān mānayitvābhitoṣaya // 114	[= Ed. 15]
iti putroditaṃ śrutvā mātā sā kaṭukuñcikā /	
lubdhā matsarākrāntaḥḍdayaivam abhāṣata // 115	[= Ed. 16]
putra pitrā prayatnena saṃpadas te samarjitāḥ /	
tvam etāḥ saṃpadaḥ sarvā dattvārthibhyo vyayiṣyasi // 116	[= Ed. 17]
yāvat pitrārjitaṃ dravyaṃ tāvan mayā na dāsyate /	
tāvanmātraṃ tavādhīnaṃ yāvat tvayā samarjitam // 117	[= Ed. 18]
yāvaj jīvāmy ahaṃ tāta na te dāsyāmi kiṃcana /	
mṛtāyāṃ mayi tat sarvaṃ tavādhīnaṃ bhavet tadā // 118	[= Ed. 19]
ity uktvā sā prasūs tasya mātaryakaluṣāśayā /	
sarvadavyaṃ prayatnena guptīkṛtyābhyarakṣata // 119	[= Ed. 20]
kiṃcid api na kasmaicid arthine sā kudhī dadau /	
guptīkṛtya prayatnena taddravyaṃ samagopayat // 120	[= Ed. 21]
drṣṭvā ca sārthinaḥ sarvān svagrhasamupāgatān /	
sahasā samupāsṛtya paribhāṣyābhyanindayat // 121	[= Ed. 22]
are mādḥīta gehe 'smiṃ yūyaṃ pretā ivāgatāḥ /	
nityaṃ pa[132b]ragrhe piṇḍaṃ bhoktuṃ bhramatha bhūtavat // 122	[= Ed. 23]
evaṃ tān arthinaḥ sarvān sā nārī duritāśayā /	
naikadhā vipralāpena paribhāṣyābhyanindayat // 123	[= Ed. 24]
evaṃ mātṛā pratikruṣya vipralāpābhininditān /	
śrutvā sa uttaraḥ putro mātaraṃ tām abhāṣata // 124	[= Ed. 25]
are mātāḥ kim evaṃ tvam arthinaḥ paribhāṣase /	
dhik tvāṃ dharmaparibhraṣṭāṃ kathaṃ na narake pateḥ // 125	[= Ed. 26]
yadi tvāṃ vāñchase saukhyam ihāmutrāpi sarvadā /	
kṛpaṇān arthinaḥ sarvān saṃpradānaiḥ pramodaya // 126	[= Ed. 27]
yady evaṃ kriyate mātāḥ saṃgatīḥ sarvadāvayoḥ /	
anyathā cet tato nau syād vibhinnabhojanāśrayaḥ // 127	[= Ed. 28]

yady asti te mayā sārdham sarvadā bhojane ratiḥ / yathepsitaṃ sadārthibhyo dattvā cara śubhe vṛṣe // 128	[= Ed. 29]
iti tenātmajenāpi pratyākhyataṃ niśamya sā / mātā lajjāvibhinnāsya tam ātmajam abhāṣata // 129	[= Ed. 30]
yady evaṃ nandanārthibhyaḥ sarvasvam api ditsasi / tava dravyāṇi sarvāṇi dāsyāmi tad yathepsitam // 130	[= Ed. 31]
ity uktvā sā prasū nārī tam ātmajam mṛṣāgirā / bodhayitvā gr̥he tāni dravyāṇi samagopayat // 131	[= Ed. 32]
tataḥ sā pramadā duṣṭā mithyāvācā tam ātmajam / adyeyato 'rthino bhikṣūṃs toṣayāmīty abodhayat // 132	[= Ed. 33]
evaṃ sā mithyayā vācā bodhayantī tam ātmajam / svayam eva prabhuktvā tad dravyaṃ sarvam agopayat // 133	[= Ed. 34]
kasmaicid arthine kiṃcid api sā na dadau kudhīḥ / kākebhyo 'pi baliṃ dātuṃ naivotsehe kadā cana // 134	[= Ed. 35]
evaṃ sā durma[133a]tir lubdhā matsarākrāntacetasā / paribhāṣyārthinaḥ sarvān nindayanty aśubhe 'carat // 135	[= Ed. 36]
evaṃ kevalapāpāni prācitvā sā durāśayā / kāle *nirāśrayā duḥkhārtā mṛtā pretālaye yayau // 136	[= Ed. 37]
tatra pretagatiprāptā pretībhūtā durākṛtiḥ / svakeśapratichannāṅgā sūcīmukhā kṛṣāṅgikā // 137	[= Ed. 38]
asthiyantravaducchrāyā parvatasam̐nibhodarā / kṣutpipāsāgnisam̐taptā dagdhasthūṅsamāṅgikā // 138	[= Ed. 39]
ārtasvarā virāvantī krandantī sā samantataḥ / annapānābhīmārgantī paryabhramad itas tataḥ // 139	[= Ed. 40]
tataḥ sa uttaro mātuḥ kṛtvāgnisam̐skṛtiṃ tadā / snānaśaucādīkarmāṇi kurvaṅ chokaṃ vyanodayat // 140	[= Ed. 41]
tataḥ sa uttaro vijño mātṛśokaṃ vinodayan / arthibhyo vāñchitaṃ datvā bahupuṇyāṅy upārjayat // 141	[= Ed. 42]
tataḥ kāmaviraktaḥ sa saṃsārabhoganiḥspr̥haḥ / nirvṛtipadasam̐prāptyai pravrajituṃ samaicchata // 142	[= Ed. 43]
tataḥ sa mudito gatvā veṇuvane jināśrame / dṛṣtvā taṃ śrīghanam natvā sāñjalīḥ samupācarat // 143	[= Ed. 44]
tatra pradakṣiṅīkṛtvā sasam̐gham taṃ munīśvaram / praṇatvā purataḥ sthitvā sāñjalir evam abravīt // 144	[= Ed. 45]
bhagavan nātha sarvajña vijānīyād bhavān api /	

yan me sã janani vighnã sampratam pralayam gatã // 145	[= Ed. 46]
tad atra bhagavañ chãstar bhavatãm šaraṇam vraje /	
tan me 'nugraham ãdhãya pravrajyãm datum arhati // 146	[= Ed. 47]
iti samprãrthite tena bhagavãn sa munĩšvaraḥ /	
savyakareṇa tanmũrdhni samspřsyaivam samãdiśat // 147	[= Ed. 48]
ehi [133b] cara kumãrãtra brahmacaryaṃ samãhitaḥ /	
ity uktvã bhagavañ chãstã sañghike tam samagrahit // 148	[= Ed. 49]
ehity ukte munĩndreṇa muṇḍito 'bhũt sa uttaraḥ /	
khikkhirĩpãtrabhrc chuddhakãšãyacĩvarãvřtaḥ // 149	[= Ed. 50]
tataḥ śãstuh prasãdãt sa pariśuddhatrimaṇḍalaḥ /	
niḥkleśapariśuddhãtmã samšãraviratotsavaḥ // 150	[= Ed. 51]
samãdhidhãraṇĩvidyãghaṭamãno vicakṣaṇaḥ /	
bhittvãvidyãgaṇam sarvavidyãguṇãntam ãptavãn // 151	[= Ed. 52]
viditvã sarvasamšãragatiṃ vidyutkṣaṇasthitim /	
matvã ca sarvasamšãkãragatĩr 'nekaviḡhãtiniḥ // 152	[= Ed. 53]
sarvakleśagaṇãṃ jivã sarvãn mãragaṇãn api /	
sãkṣãd arhattvam ãsãdya śrãvakabodhim ãptavãn // 153	[= Ed. 54]
tataḥ sa suviśuddhãtmã vitarãgo jitendriyaḥ /	
ãkãšanirmalasvãntaḥ *samaloṣṭakakãñcanaḥ // 154	[= Ed. 55]
vãsicandanakalpãṃso nirvikalpo nirañjanaḥ /	
sarvasattvahitãdhãnaḥ sambuddhaguṇasãdhakaḥ // 155	[= Ed. 56]
sadevãsuralokãnãṃ sarveṣãṃ prãñinãṃ api /	
vandyãḥ pũjyo 'bhimãnyaś ca brahmacãri babhũva saḥ // 156	[= Ed. 57]
tataḥ so 'rhan mahãbhijño gaṅgãtũre śubhasthale /	
parṇakutyãṃ samãśritya tasthau dhyãnasamãhitaḥ // 157	[= Ed. 58]
tatraikasmin dine tasya mãtã sã pretikã satĩ /	
nagnã svaromasamchannã dagdhasthũṇãvivarṇitã // 158	[= Ed. 59]
sũcĩmukhãsthiyantreva parvatasamñibhodarã /	
kṣutpipãśãgnidagdhãṅgã pãnãhãragaveṣini // 159	[= Ed. 60]
ãrtasvaram virãvantĩ krandantĩ samupãga[134a]tã /	
ãyuṣmantam tam arhantam paśyantĩ samupãśrayat // 160	[= Ed. 61]
evam tãṃ samupãsinãṃ drṣṭvã sa uttaro yatih /	
kã tvam evamvidhãyãtã vadasvety abhyabhãṣata // 161	[= Ed. 62]
iti tenoditam śrutvã sã pretĩ purataḥ sthitã /	
uttaram tam yatim putram samãlokyaiavam abravĩt // 162	[= Ed. 63]

aham te janani snigdha yayasi janitah suta / annapanaviviktasmi pretibhuta 'dahunā care // 163	[= Ed. 64]
pancaviṁśatīvarsāni yānti kālagatā hy aham / nābhijānāmi pāṇīyaṁ kuto bhaktasya darśanam // 164	[= Ed. 65]
saphalān puṣpitaṁ vṛkṣān dr̥ṣṭvāgacchāmi dūrataḥ / sarve 'pi niṣphalā śuṣkā vipuṣpās ca bhavanti te // 165	[= Ed. 66]
sarāmsi cāmbupūrṇāni dr̥ṣṭvāgacchāmi dūrataḥ / tāni sarvāni śuṣkāni bhavanti tatkaṣaṇād api // 166	[= Ed. 67]
bhadantasya mahāsaukhyam vṛkṣamūlāsritasya te / vidyate sarvadāpy atra kiṁ tvayā prakṛtaṁ śubham // 167	[= Ed. 68]
tad atra kṛpayā paśyan kāruṇyam janayan suta / mātre tṛṣārditāyai me śītāmbu dātum arhasi // 168	[= Ed. 69]
iti tayārthitam śrutvā sa uttaraḥ savismayaḥ / tām pretīm suciraṁ dr̥ṣṭvā śaṅkitaś caivam abravīt // 169	[= Ed. 70]
mātas tarhi kṣaṇam prāpte tvayā pāruṣyabhūtayā / dānāni na kṛtāny eva puṇyāni vā citāni na // 170	[= Ed. 71]
anyakṛtāni dānāni puṇyāni bhāṣitāni ca / dr̥ṣṭvā śrutvāpi te citte krodhāgnir jvalitas tadā // 171	[= Ed. 72]
kiṁcin nāpi śubham karma kṛtvāpuṇyam tvayārjitam / pareṇāpi kṛtaṁ dr̥ṣṭvā śrutvāpi nānumoditam // 172	[= Ed. 73]
etatkarmavipākena janani [134b] tvaṁ mṛtādahunā / pretibhūtānnapānena viyuktā bhramase bhava // 173	[= Ed. 74]
idānīm kiṁ kariṣyāmi tvaṁ cātra kiṁ kariṣyasi / tadā mayā hitam proktaṁ tvayā tatra śrutam na tat // 174	[= Ed. 75]
iti tenātmajenoktam śrutvā sā pratibodhitā / vigaladaśruruṣākṣā tam putram evam abravīt // 175	[= Ed. 76]
na mayā hi kṛtam dānam puṇyam na cābhisādhitam / dr̥ṣṭvānumoditam nāpi mātsaryaparibhūtayā // 176	[= Ed. 77]
yad yad dravyam tvayā putra mama haste samarpitam / tat tat sarvam mayā vahnikhadāyām parigopitam // 177	[= Ed. 78]
tad idānīm samuddhṛtya jñātihaste samarpaya / tena tam sugatam buddham sasamgham bhojayātmaja // 178	[= Ed. 79]
dakṣiṇādeśanam cāpi mama nāmnābhikāraya / tadā pretagater muktā yāyām aham surālayam // 179	[= Ed. 80]
iti tayoditam śrutvā sa uttaro 'nubodhitah /	

evam astv iti saṃśrutya punas tām evam abravīt // 180	[= Ed. 81]
sasaṃghaṃ sugataṃ tena bhojayiṣyāmi sāṃpratam /	
kiṃ tu tvayāmba tatrāpi sthātavyaṃ sugatāntike // 181	[= Ed. 82]
iti tenoditaṃ śrutvā sā pretī lajjayānvitā /	
tam arhantaṃ samālokya pura evam abhāṣata // 182	[= Ed. 83]
yad ahaṃ putra nagnāsmi pretī vibhramśitākṛtī /	
tat kathaṃ samupāśritya sthāsyāmi śrīghanaṅtike // 183	[= Ed. 84]
iti tayoditaṃ śrutvā sa uttaro mahāmatih /	
tām pretīm samupālokya punar evam abhāṣata // 184	[= Ed. 85]
kriyamāne yadā pāpe lajjā nāsti tadā tava /	
phalabhojanakāle 'tra ki[135a]m evaṃ lajjase 'dhunā // 185	[= Ed. 86]
iti tad vacanaṃ śrutvā sā pretī pratibodhitā /	
tathāgamiṣyāmīti proktvā svaṃ nilayaṃ yayau // 186	[= Ed. 87]
tataḥ sa uttaro gatvā jñātīn āhūya tadvṛtim /	
yathāmātroditaṃ khyāya sarvam eva nyavedayat // 187	[= Ed. 88]
tac chrutvā jñātīvargās te sarva 'tivismayānvitāḥ /	
tathā taddravyam ādāya sarvaṃ tasmā *upāharan // 188	[= Ed. 89]
taddravyaṃ sarvam ālokya sa uttaraḥ pramoditaḥ /	
sarveṣāṃ api gotrāṇāṃ purata evam abravīt // 189	[= Ed. 90]
bhavanto jñātayaḥ sarve dravyenaitena sāṃpratam /	
sasāṃghikaṃ munīndraṃ taṃ bhojayiṣyāmi pūjayan // 190	[= Ed. 91]
tad etat sarvam ādāya yad anukampitāśayāḥ /	
saṃghabhojyārhasāmagrīm sādhayitvā pradatta me // 191	[= Ed. 92]
iti saṃprārthitaṃ śrutvā sarve te jñātayas tathā /	
saṃghabhojyārhasāmagrīm sarvadravayair asādhayam // 192	[= Ed. 93]
tad dṛṣtvā muditaḥ so 'rhann uttaraḥ saṃprasannadhīḥ /	
śāstur nimantraṇaṃ kartuṃ vihāre samupācarat // 193	[= Ed. 94]
tatra sa samupāśritya taṃ munīndraṃ sasāṃghikam /	
praṇatvā sāñjalī tatra puraḥ sthitvā nyamantrayat // 194	[= Ed. 95]
bhagavan nātha sarvajña bhagavantaṃ sasāṃghikam /	
pūjayituṃ samicchāmi śvo 'nugṛhītum arhasi // 195	[= Ed. 96]
iti saṃprārthite tena bhagavān sa munīśvaraḥ /	
tam uttaraṃ samālokya tūṣṇībhūtvādhyuvāsa tat // 196	[= Ed. 97]
tataḥ sa uttaro matvā bhagavatādhivāsitam /	
taṃ munīndraṃ punar natvā jñātīnāṃ purato yayau // 197	[= Ed. 98]

tatra sa uttaras teṣāṃ jñātīnāṃ ca [135b] nimantraṇam /	
kṛtvā tatra punas teṣāṃ pura evam abhāṣata // 198	[= Ed. 99]
saṃghabhōjye pravṛtte 'tra yūyam sarve samāgatāḥ /	
pretībhūtāṃ mamāmbāṃ tām avalokitum arhatha // 199	[= Ed. 100]
ity uktvā svāśramaṃ gatvā sa uttaraḥ prasāditaḥ /	
dhyānāgārasamāsīnas tasthau dhyānasamāhitaḥ // 200	[= Ed. 1]
tataḥ prātaḥ samutthāya jñātīnāṃ purato gataḥ /	
pūjopacārasāmagrīm sahasā samasādhayat // 201	[= Ed. 2]
tataḥ sa uttaraḥ prāhne vihāre samupāsarat /	
bhagavantaṃ munīndraṃ taṃ praṇatvaivam abhāṣata // 202	[= Ed. 3]
bhagavan sarvavic chāstaḥ samayo vartate 'dhunā /	
tat sasamgho bhavān atra vijayituṃ samarhati // 203	[= Ed. 4]
iti saṃprārthite tena gaṇḍīm ākoṭayan muniḥ /	
tacchabdacoditās tatra sarve saṃghā upāsaran // 204	[= Ed. 5]
tatra te jñātayaḥ sarve lokā anye 'pi harṣitāḥ /	
tatra pretāṃ samāyātāṃ tām draṣṭuṃ samupāgatāḥ // 205	[= Ed. 6]
tadā sa bhagavāṃs tatra sasāṃghikaḥ samāgataḥ /	
taddattaṃ pādyam ādāya śuddhāsane samāśrayat // 206	[= Ed. 7]
tadgaṇḍīśabdāṃ ākarṇya sāpi pretī tadāgatā /	
tatraikāntaka āliya paśyantī samupāśrayat // 207	
tām drṣtvā jñātayaḥ sarve lokā anye 'pi khetitāḥ /	
hā pāpam iti bhāṣantas tasthuḥ saddharmavāñchayā // 208	[= Ed. 8]
tadā te jñātayaḥ sarve bhagavantaṃ sasāṃghikam /	
yathākramaṃ samabhyarcya bhojanaiḥ samatoṣayat // 209	[= Ed. 9]
tatas te sāṃghikāḥ sarve saṃbuddhapramukhā api /	
tat praṇītarasaṃ bhojyaṃ bhuktvā tṛptiṃ samāyayuh // 210	[= Ed. 10]
[136a] tato 'panīya pātrāṇi śodhayitvā bhujādikam /	
teṣāṃ pūgāditāmbūlagaṇaṃ te pradatur mudā // 211	[= Ed. 11]
tatra sa uttaro bhikṣur jñātībhis taiḥ sahānvitaḥ /	
bhagavantaṃ sasāṃghaṃ taṃ praṇatvā samupāśrayat // 212	[= Ed. 12]
tatra sa bhagavān drṣtvā tam uttaram upāśritam /	
dākṣiṇādeśanāṃ tasyāḥ pretyā nāmnā samādiśat // 213	[= Ed. 13]
ito dānād dhi yat puṇyaṃ tat pretīm upagacchatu /	
uttiṣṭhatām iyaṃ pretī pretalokāt tato drutam // 214	[= Ed. 14]
iti śubhāśiṣaṃ dattvā bhagavān sa munīśvaraḥ /	

āryasatyam samārabhya saddharmam ca samādiśat // 215	[= Ed. 15]
tadāryadharmam ākarṇya sarve lokāḥ prabodhitāḥ /	
dharmaviśeṣam ājñāya babhūvuḥ satyadarśinaḥ // 216	[= Ed. 16]
sāpi pretī samāpīya tat saddharmāmṛtaṁ mudā /	
suprasannāśayā smṛtvā triratnaṁ maraṇam yayau // 217	[= Ed. 17]
tataḥ sā bhūtaloke 'bhūj jātā bhūtamaharddhikā /	
tatrāpi sābhavad duṣṭā mātsaryarūksitāśayā // 218	[= Ed. 18]
tataḥ sa bhagavāms tasmāt sasāṁghikāḥ prabhāsayan /	
gatvā svāśramam āśritya tasthau dharmam upādiśan // 219	[= Ed. 19]
tataḥ sa buddhimān vijñā āyuṣmān yatir uttaraḥ /	
kuṭrāsau jāyate mātādhuneti samapaśyata // 220	[= Ed. 20]
evaṁ sa uttaro vijñāḥ samabhīkṣya samantataḥ /	
dadarśa tāṁ prasūm jātāṁ bhūtamaharddhikālaye // 221	[= Ed. 21]
dr̥ṣṭvā sa uttaraḥ putro mātaram tāṁ ca bhautikām /	
sahasā samupāśṛtya samāmantryaivam abravīt // 222	[= Ed. 22]
kim ambāsti te śaktir api dāneṣu sāmpratam /	
yaḍicchasi sadā bhadraṁ kuru dānam ihādhunā // 223	[= Ed. 23]
iti tenoditaṁ śrutvā sā ca bhūtamaha[136b]rddhikā /	
uttaram taṁ sutam dr̥ṣṭvā punar evam abhāṣata // 224	[= Ed. 24]
nādyāpi vidyate dāne 'bhilāṣam mama nandana /	
tat kiṁcid api vā dravyaṁ pradātuṁ nāham utsahe // 225	[= Ed. 25]
iti *tayoditaṁ śrutvāyuṣmān sa uttaro yatīḥ /	
dr̥ṣṭvā tāṁ mātaram bhūtamaharddhikām abhāṣata // 226	[= Ed. 26]
adyāpi te tiṣṭhati tac charīraṁ	
vivṛddhanirmāṁsatvagasthi*carma /	
lobhāndhakārāvṛtalocanāyā	
nivartitaṁ yat tava pretaloke // 227	
dhik tvāṁ praduṣṭām iha kiṁ vadeyam	
adyāpi yat tvam duritāśayāsi /	
kenātra te pāpanimagnacittaṁ	
saṁsodhitaṁ puṇyakaroddhṛtaṁ syāt // 228	[= Ed. 27]
sadāpi caivam narake nivāsā	
bhavit kadā tvam parimokṣyase 'taḥ /	
aho hi durbuddhidurāśayanāṁ	
mano na kenāpi viśuddhyate vai // 229	[= Ed. 28]

Apparatus criticus

4d dharmābhivṛddhaye] Ms.: dharmapravṛddhaye Ed.

5a tadyathā] N Ed.: thā Mss.

5b ghaṇaḥ] Ms. N: ghaṇaḥ Ed.

5d dharmarājo] Ms.: dharmarāja° N Ed.

8b nāgendrair] Ms. N: nāgendrai Ed.

8c sarvair] Ms.: sarve N: sarvai Ed.

9a rājabhī] Ms.: rājabhi N Ed.

9c vaiśyair] Ms. N: vaiśyai Ed.

9d tathā] N Ed.: stathā Ms.

11a grāmyair] Ms.: grāmyai N Ed.

11b *kārvaṭikaiḥ] ex con: kārpaṭikaiḥ Ms. N Ed. Cf. BHSD, s.v. kārvaṭika.

11c sujanair] Ms. N: sujanai Ed.

12a sevito 'bhy°] corr.: sevitābhy° Ms. N Ed.

13d rāsir ivojvalan] Ms.: rāsir ivojvalan N: rāsīm ivojvalan Ed.

14c gr̥hapatiḥ] Ms. N: gr̥hapate Ed.

15a śrīmāñ chrīdopamaḥ] Ms.: śrīmān śrīdopamaḥ N: śrīmāṃ śrīdopamaḥ Ed.

15b samanvitaḥ] Ms. N: samānvitaḥ Ed.

15c kulād] Ms. N: kulā Ed.

16a subhadrāṅgīṃ] Ms.: subhadrāṅgāṃ N Ed.

16b vidhinodavahan] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): vidhinādvahan A': vidhināvivahan N

16c kānto] Ms.: kāntā N Ed.

16d kāntayā tayā] Ms.: kāntayā tathā N Ed.

18d upācarat] Ms.: upācaran N Ed.

21b saṃmataṃ] Ms.: samataṃ N Ed.

23c tenaiva] N Ed.: tenaivī Ms.

24a 'ṣṭābhir] Ms. N (without avagraha¹¹): 'ṣṭābhi Ed.

24cd 'bhūd dhrada] Ms.: 'bhū hrada N Ed.

11. Hereafter this note 'without avagraha' is omitted throughout.

- 26a uttaro vijñāḥ] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): uttarā vijñāḥ A'.
- 26c caramāṇaḥ] corr.: caramāṇaḥ Ms. N Ed.
- 27a prauḍho] Ms. prauḍha N Ed.
- 28d gṛhalokādhipo] Ms.: gṛhī lokādhipo N: gṛhi lokādhipo Ed.
- 32a virocantaṃ] N Ed.: bhircantaṃ Ms.
- 32c ivojjvālaṃ] Ms.: ivojvālaṃ N Ed. (m.c. °jjvālaṃ = °jjvalaṃ)
- 34d āśrayat] Ms.: āśrayan N Ed.
- 37c cāpi] Ms. N: vāpi Ed.
- 40c pravrajyāvratam] Ms. N: pravrajyām vratam Ed.
- 41b bhagavān sa] Ms. N: bhagavān Ed.
- 45c śāstur] Ms. N: śāstu Ed.
- 45d ārya°] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): āryā° A'.
- 48d janani] Ms.: janani N Ed.
- 50a putroditaṃ] Ms. N: putrāditaṃ Ed.
- 50d rudanty *evam] ex con: rudantyaivam Ms. N Ed.
- 51b vada] Ms. N: vadaḥ Ed.
- 51d pravrajitum] Ms.: pravrajitum N: pravrajitu Ed.|| tvam] Ms. Ed.: om. N.
- 53d suta] Ms.: sute N Ed.
- 54c tāṃ] Ms. N: taṃ Ed.
- 56d iva na] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): iva ma A': iṣama N.
- 57a naiva] Ms. N: naivam Ed.
- 57b śrīḥ sarvadā] corr.: śrīs sarvadā Ms.: śrī sarvadā N Ed.
- 58c °suhṛṇmitrān api] Ms. N: °suhṛṇmitrān Ed.
- 61a dharmavān atra] Ms.: dharmavānn atra N Ed.
- 66d icchyate] sic Ms. N Ed. Cf. 83d.
- 67d mātaḥ] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): vātaḥ A' N.
- 68c °śaṅkārtā] ≈ °śaṅkārtā Ms.: °saṅkārtā N: °saṅkārtā Ed.
- 74a svagrhaṃ] Ms. N: om. Ed.
- 74c °kaṅṭāvṛto] ≈ °kaṅṭāvṛto N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): °kaṅṭhāvṛto A' Ms.
- 74d *cāpare careḥ] ex con: dhare[ś] careḥ Ms.: dhareśvaraḥ N Ed. (one syllable short)
- 75c °saṃtapta°] Ms. N: °saṃtaptaḥ Ed.
- 76a śavān paśyan] Ms. N: śavāny asyan Ed.
- 77ab śūnyagehe ca] Ms.: śūnyageheva N Ed.
- 77d eko 'rivac careḥ] Ms.: ekorivacare N: ekor iva ccare Ed.
- 79c mā putra] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): yā putra A' N.

- 81c dharna Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): sarva A' N.
- 81d dhruve] Ms.: dhruvaṃ N Ed.
- 82c bhaved] Ms.: bhaved N Ed.
- 83c mātār *mayā] mātār..yā: Ms.: māta tasmā Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): māta tasyā A' N.
- 83d icchyate] sic Ms. N Ed. Cf. 66d.
- 84c anujñāpradānaṃ] Ms.: anujñāṃ pradānaṃ N Ed.
- 86a evaṃ tvam] Ms.: eva tvam N Ed.
- 86b nirdayo 'sy] Ms. N: nirdayāsy Ed.
- 87d mayā] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): sayā A'.
- 88b] one syllable wanting.
- 88d *dharmam] ex conī: ramaṃ Ms. N Ed.
- 89b bhaved] corr.: bhaved Ms. Ed. N.
- 91c nirdayo] corr.: nirdayā Ms. N Ed.
- 94d caraṃ] sic Ms. N Ed.
- 97d sāñjaliḥ] corr.: sāñjalis Ms.: sāñjali N: sāñjalis Ed.
- 101d nivedaye] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): nivedaya A' N.
- 102a bhagavan nātha] Ed.: bhagavaṃnātha Ms.: bhagavān nātha N.
- 112b paṇa*bandhane] ex conī: paṇabandhanaṃ Ms.: gaṇavandhanaṃ N Ed.
- 112d samārpayat] Ms.: saṃmarpayat N: samarpayat Ed.
- 115b kaṭukuñcikā] Ms.: atikuñcikā N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): atikuñcikāḥ A'.
- 115c] one syllable wanting.
- 117c tāvan°] Ms.: tāvat° N Ed.
- 118a jīvāmy] Ms. N: jivāmy Ed.
- 119d °ābhyaṛakṣata] Ms.: °ābhyaṛakṣyata N: °ātyarakṣata Ed.
- 120ab api na kasmaicid arthine sā] Ms. N: arthibhyo sā Ed.
- 121b svagrha] Ms.: svagrhaṃ N Ed.
- 121c samupāsṛtya] Ms. N: samupāsṛitya Ed.
- 122a mādhitā] Ms.: māyā na N Ed.
- 123b sā] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): sa A' N.
- 125a mātaḥ kim evaṃ] Ms.: māta kim eva N Ed.
- 128d śubhe vṛṣe] sic Ms. N Ed. Read śubhe *vṛtte?
- 130c tava dra°] Ms.: tat svadra° N Ed.
- 131d samagopayat] Ms. N: samagopayet Ed.
- 132c adyeyato] Ms.: adya yato N Ed.
- 133a evaṃ sā] Ms.: evaṃ Ed.

- 133c prabhuktvā tad] Ms.: prabhuktvā ca tad N Ed.
- 133d sarvam agopayat] Ms.: sarvaṃ gopayat Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): sarva gopayat A' N.
- 134c kākebhyo] Ms. N A': sā kebhyo Ed.(as TAKAHATA's conj. for A').
- 134d naivotsehe] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): naivotsahe A' N.
- 135a lubdhā] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): lubdho A'.
- 136a °pāpāni] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): °yāyāni A' N.
- 136c *nirāśrayā] ex conī (but hypermeter!): nirāśayā Ed.: <<3>> Ms. (lacuna of 3 akṣaras): nirāśarā Ms.(marg.).
- 137d sūcīmukhā] corr.: śūcīmukhā Ms. N Ed.
- 139a virāvantī] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): virāvantīm A': virāvaṃti N.
- 139b krandantī] ≈ kraṃdantī N Ed.: kradantī Ms.
- 139c annapānābhīmārgantī] Ms.: annapāna hi mārgantī N Ed.
- 141b °śokaṃ vinodayan] Ms.: °śokaṃ vyanodayat Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): °śoka vyanodayan A' N.
- 142b °niḥsprhaḥ] corr.: °nisprhaḥ Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): °nisprha A'.
- 142c samprāptyai] Ms. N: samprātyai Ed.
- 145c yan me] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): yat me A'.
- 146a bhagavañ] N: bhagavaṃ Ms.: bhagavac Ed.
- 147a samprārthite] Ms. N: samprarthite Ed.
- 150b pariśuddhatri°] Ms. N: pariśuddhas tri° Ed.
- 150c niḥkleśapariśuddhātmā] Ms.: niḥkleśayaviśuddhātmā N Ed.
- 151c bhittvā°] ≈ bhitvā° Ms.: hitvā° N Ed.
- 152d °gatir 'nekavighātiniḥ] Ms.: °gatir nekavighātini N: °gatir 'nekavighātiniḥ Ed.
- 153c arhattvam] Ms.: arhatvam N Ed.
- 154d *samaloṣṭaka°] ex conī: sarvaloṣṭaka° Ms. N Ed.
- 155a °kalpāṃso] sic Ms. N Ed.
- 156d saḥ] N Ed.: sa Ms.
- 157b °tīre] Ms. N: tīre Ed.
- 158c nagnā] Ms.: nagno N: nagna Ed.
- 158d dagdha°] Ms. N: dagha° Ed.
- 160b samupāgatā] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): samupāgatāḥ A'.
- 161d abhyabhāṣata] Ms.(marg.): anvaprcchata Ms. N Ed. (metre!).
- 163b suta] Ms.: sutaḥ N Ed.
- 163c °viviktāsmi] N Ed.: °viktāsmi Ms.

- 167a bhadantasya] Ms.: bhedan tasya N: bhedam tasya Ed.
- 171d jvalitas] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): jvalitās A'.
- 173b janani] Ms.: janani N Ed.
- 174a idānīm] Ms.: idāniṃ N Ed.
- 174c tadā mayā hitam] Ms.: tadā saṃpāhitam N: tadā sarvāhitam Ed.
- 175c °āsruruḡākṡā] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): °āsruruḡākṡā A'.
- 177d vahnikhadāyām] Ms. N: vaṃdhikhadāyām Ed.
- 178a idānīm] Ms.: idāniṃ N Ed.
- 180b uttaro 'nubodhitah] Ms. Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): uttarānubodhitah A': utarānubodhitah N.
- 183b vibhraṃsitā°] ≈ vibhransitā° Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): vibhratsitā° Ms. A' N.
- 186b pratibodhitā] N Ed.: pratibodhitāḡ Ms.
- 186c] tathāgamiṡyāmīti] Ms. N Ed. (one syllable wanting): tathā ca gamiṡyāmīti N(post corr. marg).
- 186d svaṃ nilayaṃ] Ms. N: tvaritam vijñālayaṃ Ed.
- 188d tasmā *upāharan] ex conī: tasmā [c]upāharan Ms.: tasyānupāharan N Ed.
- 189d purata evam abravīt] Ms.: punar evaṃ samabravīt N Ed.
- 191b yad anukampitā°] Ms.: yadā prakampitā° Ed.(as TAKAHATA's conj. for A'): yade prakampitā° A': yade prakampitā° N.
- 192d asādhayan] Ms.: asādhayat N Ed.
- 193ab so 'rhann utta°] ≈ sorhann utta° Ms. N: sorhamṃ utta° A': so 'rhan utta° Ed.
- 194a samupāsṡtya] Ms. N: samupāsṡritya Ed.
- 195d arhasi] Ms.: arhati N Ed.
- 197d jñātīnām] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): jñātānām A'.
- 198ab teṡām jñātīnām ca] Ms. N: teṡām ca Ed.
- 198b nimantraṃam] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): nimantriṃam A'.
- 202b samupāsarāt] Ms. N: samupāsarān Ed.
- 204c °chabdacoditās] Ms. Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): °chabdas coditās A': °chabdam coditās N.
- 204d sarve saṃghā] Ms. N: sa ca saṃghā Ed.
- 206b samāgataḡ] Ms. N: samāgatāḡ Ed.
- 208c bhāṡantas] Ms.: bhāṡante N Ed.
- 212b taiḡ] Ms. N: tai Ed.
- 217a samāpīya] Ms.: samāniya N Ed.
- 217d maraṃam] Ms.: śaraṃam N Ed.

- 218d °rūḥṣitā°] Ms.: °ruḥṣitā° Ed.
- 220b uttarah] Ms. Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): uttamaḥ A': utarah N.
- 221c tāṃ prasūṃ jātām] N Ms.(post corr.): tāṃ ja prasū Ms.(ante corr.): tāṃ saṃprajātām Ed.
- 222c samupāsṛtya] Ms. N: samupāsṛitya Ed.
- 223a te śaktir] Ms. (one syllable short): tvayā śaktir N Ed. Read *tava *yā śaktir?
- 223c yadīcchasi] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): yadicchasi A'.
- 226a *tayoditaṃ] ex conī: tenoditaṃ Ms. Ed.
- 227b *carma /] ex conī: catmā Ms.: carmā Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): cātmā A' N.
- 228d °karoddhṛtaṃ] Ms. N Ed.(as TAKAHATA's corr. for A'): °karoddhṛataṃ A'.
- 231d bhikṣur mānavake] Ms.: bhikṣumānake N Ed. || nyasat] Ms.: nyaset N Ed.
- 232b apāharat] Ms. N: upāharat Ed.
- 232c tayāpahṛtām] Ms. (one syllable short): tathāpahṛtām N Ed.; tathāpy apahṛtām N(post corr. marg.). Read *tām tayāpahṛtām?
- 234b apāharat] Ms.: upāharat N Ed.
- 236b caturdik°] Ms.: catudik° N Ed.
- 236c °lepanikāyām *tām] ex conī: °lepanikāyām saṃ° Ms.: °lepānikāyām saṃ° N Ed.
- 238a taccintāgni°] Ms. N: taccittāgni° Ed.
- 240b sudhīḥ kṛtī] Ms.: sudhīkṛtīḥ N Ed.
- 240c bodhicarīṃ] Ms.: bodhicarīṃ N Ed.
- 241b yadī*cchasi] ex conī: yadicchanti Ms. N Ed.
- 246b °maharddhikāyā ava°] Ms.: °maharddhikāyāra° N: °maharddhikāyānuva° Ed.
- (Colophon:) // iti pretībhūtamaharddhikāvadānaṃ samāptam // 17] Ms.: // iti pretībhūtamaharddhikāvadānaṃ samāptam // 24 N: // iti ratnāvadānatve pretībhūtamaharddhikāvadānaṃ samāptam // Ed.

SMRAM 第17章 『大神通餓鬼女アヴァダーナ』 和訳

vv.110-246

それからそのウッタラは合掌してかの牟尼の王に拝礼し、[花開いた] 蓮のような明るい顔で、かの方(仏)を思いながら、自分の家に戻りました。[110]

そして彼は[出家を母のために延期して]自分の家にとどまり、そこで一族の生業の仕事で商売を再開し、売り買いを行いました。[111](#9)

かの[孝行な]息子は、契約を取り交わすことで得た、資本を上回る儲けのすべてを、彼の母の手に渡しました。[112] そしてかのウッタラは、息子としてその母を喜ば

せ、彼が得たすべての財を〔母に〕与えては、次のように言い聞かせました。[113]

「かあ様、聞いてください。私のこの財をもって、親戚や〔他の〕人々、乞う者たち、哀れな境遇の人たち、バラモンたちに敬意を表しつつ、満足させてやってください。」[114]

このように息子が言うのを聞いて、吝嗇で強欲なその母は、心が慳貪に支配されていたので、次のように答えました。[115] (#10) 「せがれよ、お前の財産は、父様が苦勞して得たものだ。お前はこれらすべての財産を、乞い求める者たちに与えて、使い果たしてしまうつもりなのか。[116] 父様が獲得した財である限り、私は〔それを〕布施しない。お前が稼いで得た、お前に属するものだけだ。[117] せがれよ、私が生きている限り、私はお前には何一つ〔財を〕譲らない。私が死んだ時に、この一切はお前の持ち物になるだろう。」[118]

慳貪に汚れ染まった心をもつ、彼のその母親は、そのように言うと、すべての財産を懸命に隠匿し、守りました。[119] 愚かな彼女は、乞い求める者たちの誰にも、何一つ、与えませんでした。懸命にその財を隠して、秘蔵しました。[120]

彼女は自分の家にやってくる、どんな乞食する人を見ても、すぐに近づいて行って、罵り、呵責しました。[121] 「おい、この家に近づくな。お前らは、餓鬼のようにやって来るが、よその家々で施食をもらいに、いつもうろついているがいい、死霊 (bhūta) のように。」[122]

このようにその悪い心の女は、それら乞い求める者たちに対して、さまざまにわめき散らして、罵り、呵責しました。[123] このように母が怒鳴り、わめき声で罵っているのを聞いて、息子のかのウツタラは、その母に言いました。[124] (#11) 「ああ、かあ様、どうしてこのように、乞い求める者たちを罵っているのですか。何とあなたは正法から離れ落ちた方でしょうか。〔来世に〕 どうして地獄に墮ちないでしょうか。[125] もしあなたが今世でも来世でも、いつも幸せを望むならば、すべての哀れな乞い求める者たちを、布施をもって、喜ばせてあげなさい。[126] かあ様、いつもこのように私たち二人の意見が合わないとすれば、さもなければ今後もう、私たちの食事や住まいを別々にしましょう。[127] しかし、もしあなたがいつも私と一緒に食事することを楽しむのなら、どうかいつも好きなだけ乞い求める者たちに布施して、浄行を行って下さい。」[128]

このようにかの息子が叱るのを聞いて、その母は羞恥に顔をしかめ、その息子に言いました。[129] 「せがれ、もしお前がこれほどに乞い求める者たちにすべての所有を与えたいのなら、お前がもつあらゆる財を、好きなだけ私は布施することにしよう。」[130]

このように母親であるその女は、嘘の言葉で息子を納得させてから、家の中にその財を隠匿しました。[131] そしてその悪い女は、嘘の言葉で「今日はこれほどの数の乞

い求める者たち、乞食僧たちを私は満足させてやったよ」と、その息子に報せました。

[132]

このように彼女は偽りの言葉で息子に報告しながら、その財を自分で楽しみながら、すべて隠匿していました。[133] その愚かな女はいかなる乞い求める者にも、何一つ与えませんでした。カラスにすら、バリ供養〔の食物〕を与えようとは決して思いませんでした。[134] このように強欲で、慳貪に支配された心をもつ、その愚かな女は、すべての乞い求める者たちを罵り、呵責しながら、不善行をしました。[135]

このように、悪い心をもつ彼女はひたすら罪悪ばかりを積み重ね、ついに死時が来た時に、庇護無く、苦しみ、死んで、餓鬼界に赴きました。[136] (#12)

そこで餓鬼の運命を得た女は、醜悪な姿をもつ餓鬼となりました。体は自分の毛で覆われ、針のような口をもち、肢体は痩せこけて、骸骨のように高く直立し、腹は山のように大きく、飢渴の火に体は焼かれ、焼けた丸太と変わらないような姿体をもち、苦悩の叫び声をあげつつ、泣き喚きつつ、彼女はあらゆる所に食と水を探しながら、あちらこちらと彷徨っていました。[137-139]

かのウツタラは母の火葬（火の浄化儀礼）を終えてから、沐浴・洗浄などの行為を行いながら、悲しみを紛らわせていました。[140] (#13) かの賢いウツタラは、母への悲しみを紛らせるため、乞い求める人々に欲するものを与えたので、多くの福德を得ました。[141]

その後、愛欲に無関心で、輪廻における享樂を願わない彼は、涅槃の境地を得るために、出家したいと思いました。[142]

そして彼は喜び、竹林精舎に行きました。かの光輝に充ちた人（仏）を見て、礼し、合掌して近づきました。[143]

その場で牟尼の王と僧伽の人々を右邊して、拝礼し、前に立って、合掌して次のように言いました。[144] 「世尊、主、一切智よ、私に〔出家の〕障礙をなす母が今、亡くなりましたことを、あなた様もご存知であられるでしょう。[145] それ故、ここで世尊、師よ、あなた様に帰依いたします。どうか私に恩恵をお示しくださり、出家することをお許しください。」[146]

このように彼に請われたかの世尊・牟尼の王は、左手で彼の頭頂に触れて、次のように命じました。[147] 「来たれ。若者よ、ここで専心して梵行を行じなさい。」このように言って、世尊・師は僧団の中に彼を受け入れました。[148]

牟尼によって「来たれ」と言われて、剃髪したかのウツタラは、杖と鉢をもち、清浄な袈裟衣を身にまといました。[149]

そして師の恩恵により、彼は清浄な三輪をもつ者（他者・自己・行為の三輪がない無分別智をもつ者）として、煩惱が無い清らかな心となり、輪廻が止んだ喜びを有して、三

味と陀羅尼と学問に勤め励む賢者として、無知の群団を打ち破って、あらゆる学問の功德の完成を得て、あらゆる輪廻における趣（生存）が、稲妻のような刹那の持続であることを知り、すべての造り出された現象（行）の行路には多くの厄災があると考えて、あらゆる煩惱の群団と、あらゆる魔の軍団を打ち破り、〔真理を〕見証することで、阿羅漢に達し、声聞の悟りを得ました。[150-153] (#14)

それからとても清らかな心で、食欲を離れ、感官を制御した彼は、虚空のような無垢の自我（svānta）をもつ者として、泥と黄金とを等しく見、斧と梅檀の如き身体を有し、虚妄分別を離れて、穢れなく、あらゆる有情への利益に専心し、悟った人としての功德を達成した者として、神々やアスラたちを含む、あらゆる生類から礼拝され、供養され、尊敬されるべき梵行者に彼は成りました。[154-156]

その後、大通智をもつかの阿羅漢（ウッタラ）は、ガンジスの川岸の美しい場所にある木葉の小屋に居て、禅定に耽っていました。[157] (#15)

其処に、ある日餓鬼女となった彼の母が、裸で、自分の体毛に覆われ、焼けた丸太〔のように黒く〕変色し、針のような口をもち、まるで骸骨のようで、腹は山のように大きく、飢渴の火に体は焼かれ、飲物と食物を〔常に〕探して、苦悩の叫び声をあげつつ、泣き喚きつつ、近づいて来ましたが、阿羅漢であるかの具壽を見て、〔彼の〕もとに来ました。[158-160] (#16)

こうして彼の近くに坐った彼女を見て、かの出家ウッタラは、「このような有様でやって来たあなたはどなたですか。語りなさい」と尋ねました。[161]

彼がこのように言うのを聞いて、〔彼の〕前にいるその女餓鬼は、息子であるかの出家ウッタラを見つめて、次のように答えました。[162] (#17) 「せがれよ、私は、お前を産んだ、お前のやさしい母親だ。今や飲物や食物が無い餓鬼女の身となって、彷徨っているのだ。[163] 私が死んで、25年が過ぎ去ったが、〔間近に〕水を見たことがない。まして、食物を目にすることがありえようか。[164] (#18) 花が咲き果実が実っている樹を見つけて、遠くから私が近づくと、それらの樹はすべて花がなく、枯れた、果実のないものになってしまう。[165] (#19) 水がいっぱい満ちた湖や池を見つけて、遠くから私が近づくと、それらはたちまち〔涸れて〕干上がってしまう。[166] ここで樹の根元に坐っている尊者としてのお前には、常に大きな幸せがある。お前はどんな浄行をなしたのか。[167] (#20) それ故、せがれよ、ここで憐憫をもって〔私の有様を〕見て、憐れみを起こして、渴きに苦しむ母親である私に、冷たい水を与えてくれないか。」[168]

このように彼女が乞い求めるのを聞いて、かのウッタラは驚愕し、長い間その餓鬼女を見つめながら、憂い気遣って、次のように言いました。[169] (#21) 「かあ様、かの時において、一瞬〔の好適な〕機会を得た時に、あなたは〔人を〕罵倒するだけで、布

施をせず、福德を積まなかったのです。[170] かの時、他人が布施を行ったり、福德を説いたりするのを、見たり聞いたりすると、あなたの心は怒りの火に燃えさかりました。[171] あなたは何一つ浄行をなさず、福德を得ることをしませんでした。他人がそれをするのを見たり聞いたりした時も、随喜しませんでした。[172] その業の異熟によって、かあ様、あなたは死んで今餓鬼となって、飲物や食物を欠き、世界を彷徨っているのです。[173] 今、私が何をなせるでしょうか。あなたもここで（この世で）何をなせるでしょうか。かつて私は利益になることを語りましたのに、かの時（前世に）あなたはそれに耳を貸しませんでした。」[174]

このように息子たる彼が語るのを聞いて、彼女は納得し、目を流れる涙で濡らしつつ、その息子に語りました。[175] (#22) 「私は布施をしなかった。福德も作ることをしなかった。慳貪に支配された私は〔人の善い行為を〕見ても、随喜もしなかった。[176] せがれよ、お前が私の手に渡した財はすべて、〔布施のために使わず〕火坑に隠した。[177] 今、それを掘り出して、親族の手に渡してくれ。せがれよ、それをもってかの善逝・仏陀と僧伽の者たちに食事を与えよ。[178] 私の名前で布施行の功德（*dakṣiṇā*）を指定してくれ。そうすれば、餓鬼の運命から解き放たれて、私は神々の住まいにゆけるだろう。」[179]

このように彼女がいうのを聞いて、かのウツトラは了解しました。「そのようにします」と約束して、また次のように言いました。[180] (#23) 「すぐ、その〔金〕で私はかの善逝と僧伽に食事を給します。しかし母よ、その〔食事の〕際に、あなたは善逝のそばに居て下さい。」[181]

このように彼が言うのを聞いて、かの餓鬼女は羞恥心をいだき、阿羅漢たる彼をみつめながら、次のように答えました。[182] 「せがれよ、私は裸であり、墮落した姿をもつ餓鬼女だ。だから光輝に充ちた方（仏）のもとに行つて、そばに居るなんて、どうして出来ようか。」[183]

このように彼女が言うのを聞いて、大聡明者ウツトラはかの餓鬼女を見つめながら、次のように言いました。[184] (#24) 「あなたは罪惡をなしていたその時には羞恥心をもたず、今、ここで〔その〕果を受ける時になつてどうしてそのように恥ずかしがるのですか。」[185]

この言葉を聞いて、その餓鬼女は反省し、「そのようにしよう。私は参ろう」と答えて、自分の住まいに戻りました。[186]

そこでかのウツトラは行つて、親族を呼び寄せ、その〔母の〕頼みを、母が語ったとおりに述べて、すべての事を告げ知らせました。[187] (#25) それを聞いて、その親族衆はみな非常にたまげてしまい、〔言われた〕とおりに取つて、彼らはすべてを彼のために持ち来たりしました。[188] そのすべての財を見て、かのウツトラは喜び、すべての親族の前において次のように言いました。[189] 「皆さん、〔わが〕すべての親族たち

よ、私はこの財をもって、今やかの牟尼の王と僧伽に供養して、食事をさせたいと思います。[190] それ故、[母に] 同情心をお持ちの方々は、このすべてを受け取って、僧伽が享受するにふさわしい価値あるすべての物[の入手]をなし終えて、[それを]私に与えてください。」[191]

このように[彼が]頼むのを聞いて、そのすべての親族は、言われた通りにその財すべてによって、僧伽が享受するにふさわしい価値あるすべての物[の入手]をなし終えました。[192]

清明な思念を抱くかの阿羅漢ウッタラはそれを見て喜び、師(仏)に[食事の]招待を行うため僧院に行きました。[193] そこで彼は僧伽の人々を伴われたかの牟尼の王に近づき、その場で拝礼し合掌して、面前に立ち、[食事の]招待を行いました。[194] 「世尊、主、一切智よ、僧伽の方々と共に、世尊に供養したいと私は願っております。どうか明日、お受け下さいますように。」[195]

このように彼が申し上げると、かの世尊・牟尼の王はかのウッタラを見つめられ、沈黙をもって、それを承諾されました。[196] かのウッタラは世尊が承諾されたと考え、かの牟尼の王に再び拝礼してから、親族たちの前に行きました。[197] 其処でかのウッタラはそれらの親族たちにも招待を行い、また彼らの前で次のように言いました。[198] 「ここで僧伽の食事が行われる時、どうか皆さんはお集まりくださり、餓鬼女となった私の母を見てやって下さい。」[199]

このように語って、清明な心のかのウッタラは自分の隠棲所に行き、坐禅用の居室に坐って、禪定に集中して過ごしました。[200]

その後翌朝、彼は起き上がると親族たちの面前に行き、供養・奉仕のためのあらゆる物[の準備]をすみやかに成し終えました。[201] それからかのウッタラは午前中に僧院に赴きました。かの世尊・牟尼の王に拝礼し、次のように告げました。[202] 「世尊、一切智、師よ、今や[食事の]時となりました。それ故、僧伽の方々と共に、どうか尊師はこちらにいらしてください。[203]

このように彼に請われた牟尼は、鐘を打ち鳴らしました。その音に促されたあらゆる僧伽の者たちは、そこに集まって来ました。[204] そこにかの親族すべてと他の者たちは悦んで、そこにやってくるその餓鬼女を見るために、集まり来ました。[205]

その時、かの世尊は僧伽の者たちと共に、そこにやって参りました。彼ら[親族]が与えた足洗い水を受け取り、清らかな座に坐りました。[206]

その鐘の音を聞いて、かの餓鬼女もその時やって来ました。その一隅に身を置き、[仏を]見つめつつ、近坐しました。[207] (#26) すべての親族たちと他の人々は彼女を見て、畏怖し、「ああ、罪惡[の果]とは！」と語り合いながら、正法を欲して、[その場に]居ました。[208]

その時、その親族のすべての人たちは正しい順序で、世尊と僧伽の者たちに恭しく敬意を表しつつ、食事をもって満足させました。[209] (#27) そして仏を上首とするその僧伽の者たちすべては、その最高の味の食事を食べて、満腹しました。[210] それから食器を片付け、手などを洗ってもらい、彼等にピンロウの実 (pūga) など [が入った] キンマの葉 (tāmbūla) の [パーン] 多数を与えました。[211]

そこでかの比丘ウッタラは、彼ら親族と共に、世尊と僧伽の者たちを拜礼しつつ、近坐しました。[212] その場でかの世尊は、近坐したかのウッタラを見つめ、布施行の功德の指定を、その餓鬼女の名前で、行いました。[213] (#28) 「この布施による福德は、餓鬼女のところに行け。この女は、かの餓鬼界からただちに出離せよ。」[214]

このように浄福の呪願 (śubhāsis) を与えてから、かの世尊・牟尼は [四] 聖諦に始まる正法を教示しました。[215] (#29) その時 [仏が説かれた] 聖諦を聞いて、すべての人々は覚知を得て、勝れた法を理解し、『真実を観る者』となりました。[216]

かの餓鬼女も喜んでその正法の甘露を飲みました。そして悦びの心をいだき、三宝を憶念しながら、命終しました。[217] (#30)

その後彼女は大神通鬼女 (bhūtamaharddhikā)¹²として、鬼霊世界 (bhūtaloka) に生まれました。しかしその [新たな生存] においてもなお、罪深い彼女は慳貪に汚れた心をもつ者でした。[218]

その後かの世尊はその [ウッタラの家] から僧伽の者たちを伴って、輝きつつ戻り、自らの隠棲処に住し、法を説きつつ居りました。[219]

またその後、聡明な有智者 (vijña) たるかの出家・具壽ウッタラは、「あの母は今この世界に生まれたのか」と [思い]、観察しました。[220] (#31) このようにかの有智者ウッタラがあらゆる方角を観察すると、かの母が大神通鬼の世界に生まれているのを見ました。[221] (#32)

息子であるかのウッタラは、母であるかの鬼女 (bhautikā) を見て、ただちに近づき、話しかけて、次のように言いました。[222] 「かあ様、今やあなたは布施において、[実行する] 力をおもちではありませんか。もしあなたが欲するなら、すばらしい布施を今ここで、絶えず行いなさい。」[223]

このように彼が語るのを聞いて、かの大神通鬼は、かの息子ウッタラを見て、次のように答えました。[224] 「せがれよ、今日においてもなお、私には布施したいという気持ちが起こらない。だから、私は財を何一つ与えることは出来ない。」[225]

12. プータ (bhūta) をここで鬼と訳したが、餓鬼 (preta) を含む意味で使われているのであろう。つまり大神通鬼女 (bhūta-maharddhikā) は大神通餓鬼女 (pretībhūta-maharddhikā) と同義である。

このように彼女が語るのを聞いて、かの出家・具壽ウッタラは、母であるかの大神通鬼を見て、言いました。[226] (#33) 「今日なお、あなたの身体は膨張しており、肉が欠けた皮、骨と粗皮だけ〔の姿〕に留まっています。その身体は、強欲という闇に覆われた目をもつあなたが、餓鬼界で産出したものです。[227] ああ、あなたはなんと墮落していることか。ここで私にはもう言葉もありません。今日なおあなたは罪深い心をもっているのですから。あなたの罪惡に沈んだままでいる心が、何人によって浄化され、福德の光線により救済されるということがありうるのでしょうか。[228] 永久にこのように地獄に住する者となるでしょう。いつあなたがそこから脱することが出来るのでしょうか。ああ、愚かで悪い意欲をいだく者たちの心は何人によっても浄められることがありません。」[229]

かのウッタラはいろいろと彼女を叱責しながら、彼女の体から一對の衣類を脱がせて、強引に持ち去りました。[230] (#34)

そしてかの阿羅漢〔ウッタラ〕はその一對の衣類を僧伽に寄贈しました。或る僧が代価を払ってその〔衣類〕を購入しました。その僧は〔それを〕衣懸けに懸けておきました。[231]

夜中に彼女はそこに行って、その一對の衣を奪いました。それが彼女に奪われたことを、比丘はウッタラに報せました。[232]

それを聞いて、ウッタラは行って、〔彼女を〕叱り、強引にそれを再び〔彼女から〕奪い取って、その比丘に与えました。[233]

再び夜中に彼女は行って、その一對の衣を奪いました。〔前と〕同じ様にかのウッタラはそれを彼女から奪い取りました。[234] (#35)

同じ様に三度も夜中に彼女はそこに行って、それを奪いました。ウッタラはまたそれを奪い返して、その比丘に与えました。[235]

その比丘はその衣を受け取ると、縫い合わせて、足の敷物用に、四方僧に寄贈しました。[236] (#36) 其処で、大神通鬼の彼女は縫われたその〔敷物〕を見て、奪われたものに落胆して、泣きながら自分の住まいに戻りました。[237]

その〔悲しい〕想いの火に焼かれて、彼女は息子のウッタラを憶念しながら、死にました。そして別のヤクシャ（夜叉）世界に生を受けたのです。[238]

以上のように、慳貪こそが大きな罪惡の根であることを考えて、その慳貪を捨てて、熱心に布施を行いなさい。[239] (#37) 布施によって心が浄められます。清らかな心をもつ賢明で聡明な者は、菩提行を持しつつ次第に仏の位に達することが出来るでしょう。[240] このように十分に認識し、常に浄行を〔なすことを〕欲するならば、毒のように慳貪を捨てて、常に浄行をなすべきです。[241] —

以上のように私（ウパグプタ）は師が語ったことを聞いたとおりに、あなた（アショーカ王）にお話しました。あなたもこのようによく知った上で、常に浄行をなしなさい。

[241] 大王よ、努力して民衆にも理解させ、菩提への道にしっかり立たせ、守護なさって下さい。かくして、必定にあなたには常に幸せが至る所であるでしょう。漸次にやがて菩提に到達し、仏陀の位を得ることでしょう。[244] —

このように阿羅漢が語ったのを聞いて、かのアショーカ王は、「そのようにいたします」と返事をして、同座の者たちと共に、喜びました。[245]

この大神通鬼のアヴァダーナを、ここで嬉しく聞いて、喜び、また [他に聞かせて] 喜ばせるところの人々は、光輝に充ちた方の住まい (極楽) に赴く。[246]

以上、『大神通餓鬼女 (pretībhūtamaharddhikā) アヴァダーナ』終わる。第17章。

第2節 Avadānaśataka 第46章 Uttaraḥ と SMRAM 第17章の比較

上の節でテキストを和訳を示した SMRAM 第17章 Pretībhūtamaharddhikāvadāna の原話である Avś 第46章の全訳を次に示し、その後、それら二つのテキストを対照させてみたい。

アヴァダーナ・シャタカ第46章『ウッタラ』 (Uttaraḥ) 和訳

SPEYER ed., i.261.1-266.7

#1 仏・世尊は、王や大臣や財産家や市民や長者 (富商) や隊長や神や龍や夜叉や阿修羅やガルダやキンナラやマホーラガに敬意をもって遇され、重んじられ、尊ばれ、供養されておりました。このように神や龍や夜叉や阿修羅やガルダやキンナラやマホーラガに崇められた仏・世尊は高名で、大福德の者であり、衣服・施食・臥具坐具・病氣治療のための薬といった日用品を得ており、弟子たちを有する僧伽とともに、ラージャグリハ (王舎城) にある竹林園、栗鼠養餌処 [精舎] に滞在しておりました。

#2 [その頃] 王舎城に一人の長者がいました。富み、大財をもち、大資産をもち、莫大な所有物を有して、[まるで] 毘沙門天の財をそなえて毘沙門天と富を競うかのようでした。彼は相応しい家から妻を娶いました。彼は彼女とともに戯れ、娛しみ、悦樂の行為をしました。やがて彼の妻は子を孕みました。

#3 彼女は八箇月か九箇月経つと出産しました。男の子が生まれました。

#4 彼が生まれたので誕生祭がなされ、名前が決められました。「子の名前は何がよいだろうか。」親族たちはいいました。「星宿 (nakṣatra) がウッタラ [・アシャーダー] の時に誕生したので、[子供の名は] ウッタラにしましょう。」

#5 ウッタラは育ち、成長し、大きくなりました。

#6 彼の父は亡くなり、家ではウッタラが主人となりました。彼は店を開きました。彼は買ったり売ったりし、売り買いによって生計を得ました。

#7 彼は毎日世尊の許を訪れました。彼は世尊のお姿を見、正法を聴聞することで、世尊の教えに浄信を起こしました。出家したいという思いが彼に生じました。

#8 彼は母に申し上げました。「かあ様、私が世尊の教誡のもとで出家することをお許してください」。すると母は言いました。「せがれよ、お前は唯一の息子だ。私が生きている間は、出家してはいけない。私が死んだ後、[お前が] するべきと思うことをしたらよい。」¹³

#9 かのウッタラは、少しでも稼ぐと、そのすべてを母に手渡しました。「かあ様、これを沙門や婆羅門、哀れな人や物乞いする人にあげてください。」

#10 彼のその母は強欲で、けちで、吝嗇で、ものを出し惜しみする人で、彼の金を隠匿し、彼の家に入ってくる沙門やバラモンや乞食する人たちを罵りました。「餓鬼に生まれた者たちのように、お前らはよその家々に施食をもらいに、いつもうろついているがいい。

#11 そして彼女は息子を欺しました。「私は今日これほどの数の比丘たちに食べ物をあげたよ」と。

#12 しばらくして、彼女は命終し、餓鬼界に生まれました。

#13 ウッタラは母と[死に]別れたので、布施をして福德を積み、世尊の教誡のもとに出家しました。

#14 彼は勤め励み努力して、五つの区分（五趣）から成る輪廻の車輪が動転しやすい（安定の無い）ものであると知り、すべての造り出された現象（行）の行路を、滅びや落下や散壊や破壊に導く法であるがゆえに、うち捨てて、すべての煩惱を滅することにより、阿羅漢の境地を見証しました。阿羅漢となり、三界より離欲し、土くれと黄金とが等しい[とみなす]者になり、[無限の]虚空と[自分の]掌とが等しい[と知る]心を有し、斧[で体を切られること]と梅檀[を体に塗ってもらうこと]が等しい者になり、明知によって殻を打ち割り、[三]明[六]通[四]無礙を得て、生存[の欲求]・獲得し食らうとする心・尊敬[されたい欲求]から顔を背け、インドラ神とインドラに準じる神をふくむ神々によって崇められ、尊ばれ、拝まれる者となりました。

13. 根本有部律 Pāṇḍulohitakavastu 第4節にある、この Avś 46 話に相当する伝承においては、この #8 の箇所、ウッタラが母に、自分が出家を諦める代わりに条件を出す：「彼は語りました。『かあ様、もしあなたがこれから毎日、僧伽によって指定された比丘たちに食事を食べさせる (bhājayasi を *bhojayasi と訂正して読む) と約束するならば、私は出家しません。』彼女は答えました。『せがれよ、そのように私はしよう。』」 N. DUTT (1943), vol. III, part 2, p. 20, ll. 13-15.; YAMAGIWA (2001), S. 66.

#15 彼はガンジスの川辺に木葉の小屋を作り、[そこで] 禪定をしていました。

#16 彼のその母は餓鬼界に生まれ、具壽ウッタラに近づきました。[彼女の姿は] 裸で、焼けた丸太のような姿で、自分の髪と体毛に覆われ、針の穴のような[小さな] 口をもち、腹は山のように大きく、燃え、炎上し、一つの焰の塊となって、苦悩の叫び声をあげていました。その時に具壽ウッタラはかの餓鬼女を見て、尋ねました。「このような[姿の] あなたは誰ですか」。

#17 餓鬼は答えました。

[韻文:] 「せがれよ、私は、お前を産んだ、お前のやさしい母だ。

飲物や食物が無い、餓鬼界に来ているのだ。

#18 死んでから20年間、私は水を[何一つ] 見たことが無かった。

まして食物を目にすることなど、ありえなかった。

#19 果実が実る樹々のもとに私が行くと、それらは果実が無いものになり、

[水が] 満ちた池に私が行くと、それらは[涸れて] 干上がってしまう。

#20 お前の樹の根元は快い。瓶には冷たい[水] がある。

憐れみを起こして、みじめな、渴きに苦しむ私に水を与えてくれ。」

#21 そこでウッタラは尋ねました。「かあ様、かつてあなたが人であった時、私はあなたに布施を行わせ、福德を作らせたではありませんか。」

#22 餓鬼女は答えました。「せがれよ、私は慳貪心に支配されて、布施をせず、福德を作らなかつたのだ。すべてのあの金銭は悪心により、火坑に埋めた。それ故、せがれよ、今親族の家々に行つて、寄付を募る催し(*chandakabhikṣaṇa)をなし、私の名前をもって、仏を上首とする比丘僧団に食事させてくれ。布施行の功德(dakṣiṇā)を[私に] 指定させてくれ。指名をしてもらつてくれ。そのようにすれば、私は餓鬼の胎から解放されるだろう。」

#23 ウッタラは答えました。「かあ様、そうします。しかし[その時には] あなたは仏陀のそばに居てください。餓鬼女はいいました。「せがれよ、私は裸であるし、慚愧があり、[行くのは] 恥ずかしい。」

#24 ウッタラはいいました。「かあ様、罪惡をなしたその時には恥じず、今や果を受ける時になって、どうして恥ずかしがるのですか。」餓鬼女はいいました。「わかつた、そのようにしよう。私は参ろう。」

#25 その後、ウッタラは親族の家々から寄付を募る催しをして、仏を上首とする比丘僧団に翌日の食事に招待しました。鐘が打ち鳴らされる時に、仏を上首とする比丘僧団は集まって来ました。

#26 かの餓鬼女は仏のそばに立ちました。餓鬼女 [の姿] を見ようとして、何十万もの生類が集まりました。彼らは醜奇な身体をもつかの餓鬼女を見て、厭嫌を生じ、世尊に浄信を起こしました。

#27 そして具壽ウッタラは仏を上首とする比丘僧団を上妙の食事をもって満腹させてから、餓鬼女の名前をもって、布施行の功德 (dakṣiṇā) を指定してもらいました。

#28 仏は自ら、五つの要素を具えた音声をもって、布施行の功德を指定しました。

[韻文:] 「この布施による福德 (功德) は、餓鬼女について行け。

この女は、恐ろしい餓鬼界からただちに出離せよ。」

#29 その折に世尊はこのことを基にして、かの餓鬼のために、また多くの人々のために、その状況に適した説法を行ったので、それを聞いて、何十万もの生類が真理を見るに至りました。

#30 彼女は浄信の心をいだき、死んで、大神通餓鬼に生まれました。

#31 具壽ウッタラは彼女が大神通餓鬼に生まれたことに気づきました。

#32 そこで具壽ウッタラはいいました。「かあ様、あなたは [今や] 力をお持ちです。布施・喜捨をなさってください。」大神通餓鬼は言いました。「せがれよ、私はできない。私には布施したいという欲求が起こらないのだ。」

#33 そこで具壽ウッタラは大神通餓鬼にいいました。

[韻文:] 「今日なお、あなたの身体は膨張しており、

肉が欠けた皮、骨と粗皮だけ [の姿] に留まっています。

その身体は、強欲という闇に覆われた目をもつあなたが、

餓鬼界で産出したものです。」

#34 その時具壽ウッタラは幾度も叱りながら、[彼女から強引に] 一對の衣類を得ました。それは僧団に布施されました。或る僧が僧団の内部でその衣類を購入しました。その僧は [それを] 衣懸けに懸けていました。するとかの餓鬼女は夜中に来て奪い取りました。そこでかの比丘は具壽ウッタラに報せました。ウッタラは行って、餓鬼女を叱り、再び [衣を] 取り返して、[比丘に] 与えました。

#35 同じ様に三度も [彼女は] その比丘から奪い取り、具壽ウッタラは取り返して、与えました。

#36 その比丘はその衣を引き裂いて、四方僧のための敷物として縫い合わせました。すると彼女はもう再び奪いませんでした。

#37 この [事] から、慳貪は有情たちから笑われるものであることを見て、慳貪を捨てるように熟慮すべきです。かの餓鬼女が有したような、そのような悪徳があってはなりません。このように世尊は説かれました。感激したそれらの比丘たちと他の神・アス

ラ・ガルダ・キンナラ・マホーラガ等は世尊のお説きになった [教え] を喜んで受け入れました。

以上が Avś 第46章 Uttara の全訳である。訳にある # 番号は、Avś のテキストを私が切り分けて付けた paragraph number であり、対照の便宜のためにテキストを細かく分割した上で付けた番号である。S17は Avś 第46章の再話文献であるから、Avś に付したその # 番号を使って、以下に Avś 第46章と SMRAM 第17章 (略号 S17) の内容的対応を示す対照表を挙げたい。Avś の # 番号の後に、その箇所の SPEYER 本の巻・頁・行と段落冒頭の語を (例えば i.261.2-6 buddho bhagavān のように) 示し、その次に = を挟んでその段落に内容的に関係する S17 の該当箇所を verse number で挙げる (例えば = S17 vv.5-13 のように)。また記号の○は Avś 46 の内容が S17 の詩形改稿において膨張している箇所を示す。◎は異常に膨張している箇所を示す。

- #1 i.261.2-6 buddho bhagavān = S17 vv.5-13○
- #2 i.261.6-9 rājagṛhe 'nyataraḥ = S17 vv.14-17
- #3 i.261.9-10 sāṣṭānām vā = S17 vv.18-19
- #4 i.261.10-12 tasya jātau = S17 vv.20-23
- #5 i.261.12 uttaro dārako = S17 vv.24-26
- #6 i.261.12-13 pitā cāsya = S17 vv.27-29
- #7 i.261.14-15 sa divasānudivasaṃ = S17 vv.30-43○
- #8 i.261.15-262.1 sa mātaraṃ = S17 vv.44-110◎
- #9 i.262.1-3 sa cottaro = S17 vv.111-114
- #10 i.262.3-5 sā cāsya mātā = S17 v.115-123
- #11 i.262.5-6 sā ca putraṃ = S17 vv.124-135○
- #12 i.262.7 yāvad asau = S17 vv.136-139
- #13 i.262.7-8 uttaraś ca mātr- = S17 vv.140-149
- #14 i.262.8-13 tena yujyamānena = S17 vv.150-156
- #15 i.262.14 sa gaṅgātīre = S17 v.157
- #16 i.262.14-17 sā cāsya mātā = S17 vv.158-161
- #17 i.262.17-19 pretī āha = S17 vv.162-163
- #18 i.263.1-2 pañcaviṃśati = S17 v.164
- #19 i.263.3-4 saphalān vṛkṣān = S17 vv.165-166
- #20 i.263.4-5 sukhaṃ bhadantasya = S17 vv.167-168
- #21 i.263.5-6 tata uttaro = S17 vv.169-174
- #22 i.263.6-264.3 pretī āha = S17 vv.175-179

- #23 i.264.4-5 uttara āha / evam = S17 vv.180-183
 #24 i.264.5-6 uttara āha / amba = S17 vv.184-186
 #25 i.264.7-8 tata uttareṇa = S17 vv.187-206◎
 #26 i.264.8-10 sã ca pretī = S17 vv.207-208
 #27 i.264.10-11 tataḥ āyusmãn = S17 vv.209-212
 #28 i.264.12-14 bhagavãṃs ca = S17 vv.213-214
 #29 i.264.15-16 yãvad bhagavatã = S17 vv.215-216
 #30 i.264.16-265.1 sã ca prasannacittã = S17 vv.217-219
 #31 i.265.1 āyusmatottareṇa = S17 v.220
 #32 i.265.1-3 tata āyusmatã uttare- = S17 vv.221-225
 #33 i.265.3-5 tata āyusmãn = S17 vv.226-229
 #34 i.265.6-266.1 yãvad āyusmatã = S17 vv.230-233
 #35 i.266.1-2 evaṃ yãvat = S17 vv.234-235
 #36 i.266.2-3 bhikṣuṇã ca = S17 vv.236-238
 #37 i.266.4-7 ata eva mãtsaryaṃ = S17 vv.239-241

以上の両者の対照から、S17は、その最初と末尾にある話の『粹』の部分（vv.1-4, 242-246）を除いて、Avs 第46章『ウッタラ』の原話を種本として、話をかなり忠実に展開していること、また局所的に話を膨らませる場合にも、Avs の話の構造そのものを崩さないように配慮しながら再話していることが確認される。

ここで、上記の表において○（小膨張）と◎（大膨張）の印をつけた三つの膨張箇所について、説明しよう。

Avs の#1にあたる、S17の小膨張箇所 vv.8-13： 釈尊は竹林精舎の栗鼠養餌所で大衆に説法を行ったという内容であるが、ここでS17はこの時集まった聴衆がいかなる神や人のグループから構成されるかを、Avs よりもやや細かく描写する。

Avs の#7にあたる、S17の小膨張箇所 vv.30-43： ウッタラは僧院を訪れ、釈尊の説法を聞いてから、釈尊と面談して、出家したいと願い出るが、出家には母の許可が必要であると釈尊がお答えになったので、一度家に戻ったという内容である。ここでS17は釈尊との相談という新しい要素を、Avs には無い要素として追加している。

Avs の#8にあたる、S17の大膨張箇所 vv.44-110： ウッタラは母に自分の出家の決意を述べ、許可を求める（44-49）。母は出家に猛反対する（50-53）。ウッタラは世の無常を説き、出家が最善なることを訴える（54-67）。母は反論し、出家生活の大変さを述べて、在家に留まるよう論ず（68-79）。ウッタラは母に反論する（81-84）。母は嘆願し、せめて自分の存命中は家にいるか、さもなくば自殺すると脅す（85-94）。ウッタラは落胆し、僧院に行つて釈尊に会うと、釈尊は今是在家に留まるように彼に勧め

る(95-108)。ウッタラは了解し、自分の家に戻る(109-110)。Avsが数行ですませてしまう、母がウッタラの出家に反対したという記述を、ここでS17は、ウッタラと母の間に交わされる長い会話として表現している。ウッタラが再び釈尊のもとに相談に行くことも、Avsには無い、新しい要素である。

Avsの#11にあたる、S17の小膨張箇所 vv.124-135： 母が乞う人を罵って追い返しているのをウッタラは聞いて、強く母を誡め、このような行為を続けるなら自分は母と別居すると語った(124-128)。そこで母は反省したふりをして、その後は布施すべき財を隠匿しながら、ウッタラに対しては布施を行っているという嘘を言い、相変わらず乞う者たちを罵った(129-135)。ここでS17は、ウッタラが母の悪しき行為を批判し、別居する覚悟を告げたという、Avsにはなかった新しい要素を導入している。

Avsの#25にあたる、S17の大膨張箇所 vv.187-206： ウッタラは親族を集めて、母を餓鬼界から救うために、仏と僧伽に供養するための食事会への助力を依頼する(187-192)。それから僧院に行って仏と僧伽を食事に招待する(193-196)。それから親族の元に戻って、彼らも食事会に招待してから、自分の住まいに戻る(197-200)。翌朝僧院に行って、仏と僧伽に食事の準備が出来たことを告げる(201-203)。鐘が鳴らされ、仏と僧伽が食事に集まる(204-206)。このようにウッタラの取った行動を順次に具体的に語ることによって、S17はAvsの記述の内容を膨らませた。

第三部

ネパールの梵文仏伝の研究 (1) :

Tathāgatajanmāvadānamālā 第8章 『菩薩誕生品』

『如来出生アヴァダーナ集成』 Tathāgatajanmāvadānamālā (略号 TJAM ; 通称 Padya-lalitavistara) はインド伝来の梵文の諸仏伝の伝承を統合しながら平易な韻文で再話を行う、ネパール撰述の浩瀚な梵文の仏伝作品である¹⁴。その第8章 『菩薩誕生品』 Bodhisattvajanmaparivarta の校定・翻訳をここで行いたい。このテキストは約60年前に黒田親によって世界で初めて研究が発表された。黒田は、榊亮三郎将来の京大寫本 (GOSHIMA・NOGUCHI 66) に基づき、第5章・8章・10章・11章のローマ字転写テキストを発表している。その発表は次の通りである。

黒田親 (1951): 「神通遊戯譬喩鬘經 (Padya Lalita Vistara)」、『日本 (やまと) 文化』30号 (1951)、91-111頁。 (第10・11章の研究)

黒田親 (1958): 「Padya Lalita Vistara (神通遊戯譬喩鬘經)」、『日本文化』37号(1958)、1-20頁。 (第8章の研究)

黒田親 (1960): 「百八法明門 (Aṣṭottaraśatam nāma dharmālokamukham) (Padya-lalitavistara, Chapter V)」、『日本文化』39号(1960)、1-9頁。 (第5章の研究)

黒田の発表したテキストは、実質的に京都の1写本をそのままローマ字に転写しただけのものであったが、読みの修正がなされていることも時々あり、その時は後注が付されて元の写本の読みが示されている。彼のどの論文においても、ローマ字転写テキストに対する印刷時の校正作業がきちんと行われていない印象を受ける。一般的に、使用した写本が良質の写本であれば、それを忠実にローマ字転写しただけのテキストでも、十分に学術的な価値が有するものであるが、彼が用いた1写本は残念ながら、非常に粗悪な伝承に由来するものであったし、印刷時の校正も不十分であった。そのため黒田のテキストは梵語として意味が理解できない文があまりに多く、読むに堪えないものといわざるを得ない。黒田自身が、私の知る限りで四つの章をローマ字転写して発表した後に研究をやめてしまったようであるのは、恐らくそのような作業に限界を感じたからであ

14. 第1章～第3章のコロフォンではこの作品の名称が tathāgatajanmāvadānamālayām と記される。しかし第5章のコロフォンには buddhajanmāvadāne とあり、最後の第37章のコロフォンには sugatajanmaratnāvadānamālayām とある。janman という言葉には「誕生 (Geburt)」という基本的な意味のほかに、「生存、生そのもの (Leben)」という派生的な意味もあり、後者の意味に従えば『如来の生涯に関するアヴァダーナ集成』とも解釈できる。つまり誕生の場面の伝記だけではない、仏陀の全般的な伝記の意味になろう。

ろう。その時代には、カトゥマンドゥなどにある他の写本が知り得ず、利用できない状況にあったため、手元にある1写本だけで無理矢理に作業を進めざるを得なかったわけであるが、しかしその写本がいかに劣悪な写経伝承に基づいているかを十分に意識していなかった、相当に無謀な研究であったといえよう。TJAMは、古典梵語に近い梵語——ネパール仏教徒の知識人が使うやや独特ではあるが、古典梵語を規範として意識した梵語——で作られた作品であるにもかかわらず、黒田の発表したテキストが古典梵語とは程遠い、文法がひどく崩れた俗語のような印象を与えるものであったため、この作品は理解しがたいという判断を学界に与えてしまったように思われる。その後、黒田の研究の後に続く者は半世紀の間現れなかった。

1970年以降ネパールと西ドイツ東方学会の共同プロジェクトとして進められた Nepal-German Manuscript Preservation Project (NGMPP) というネパール写本の保護とマイクロ・フィルム化と目録化の計画のおかげで、カトゥマンドゥに存在する梵語写本の全貌が次第に研究者には知り得るようになり、利用可能になった。私がネパール考古学局の National Archives を介して、NGMPP で撮影された TJAM のマイクロ・フィルムを数本入手することが出来たのは25年ほど前であったが、その時初めて TJAM のヘムラージ所蔵 A 写本を見ることが出来て、先に黒田が試みて苦労したこの梵文テキストの校定が可能であることを確信したことを記憶している。現時点で TJAM の写本であることが確認されている写本は、私が知る限りで6本ある：

A 写本 Kathmandu, NGMPP A 123/5 [= BauDV 51(87)]; 37 chps.; Newārī.

B 写本 Kathmandu, NGMPP B100/2 [= BSP ca266(3-14)]; 25 chps.; Devanāgarī.

C 写本 Calcutta, Śāstrī No. 37(10754); 37 chps.; Newārī.

D 写本 Kathmandu, NGMPP D43/4-44/1 (rephotograph = E 1321/2); 35 chps.; Devanāgarī.

E 写本 Kathmandu, NGMPP A 123/3 [= BauDV 294(88)]; 21 chps.; Devanāgarī.

K 写本 Kyoto, GOSHIMA・NOGUCHI 66; 12chs.; Devanāgarī (?).

[ここに記した BauDV, BSP, Śāstrī 等の写本カタログに関する略号については、

『梵語仏典の研究 IV 密教経典篇』（平楽寺書店 1989）の「略号表」を参照のこと]

ただ、今私の手元にあつて使えるのは、このうちの A, B, D, E の4写本である¹⁵。これらの手元の写本の中では、A写本だけが別格に良く、正しい読みの伝承を伝えるものであるが、それ以外の写本 B, D, E は、黒田が報告した京大写本 (K) 同様、伝承が悪く、誤りに満ちている。しかも A 写本の余白に追加的に書かれた文（例えば 111-112 と

15. C 写本は比較的重要と思われるが、カルカッタから私の手元に届いたフィルムはなぜか冒頭の20葉のみしかなかった。

125 詩節) が大抵は他の写本のどれにも見出されるため¹⁶、それらの写本は遡れば A 写本か A に近い写本に由来するものである可能性が高い。現存する諸写本を系統樹上に位置づけるためには、入手する写本の数がもう少し増えないと困難であるが、A 写本こそが、校定を行う上で最も重要な役割を果たす写本であることは疑いない。ただし A 写本は無謬ではなく、うっかりした書き誤りも時々起こるので、A 以後の派生的な写本においてその誤りが気づかれて、簡単な書き誤りであれば密かに修正されている場合もある。そのため TJAM 第8章の校定においては、A 写本をベースにしながらか、それ以外の写本は、A 写本で疑問が生じた箇所において、必要に応じて参照するというやり方を取ることにした。A 写本以外の諸写本の異読を全部、網羅的に Apparatus criticus に挙げることは、報告する無価値な異読の数があまりに膨大であつて恐ろしく労力がかかる割には、本文の校定には大して役立たないことから、少なくとも今回の校定作業においては、諦めることにした。A 写本の読みで問題がなければ A 写本に従つてテキストを読み、何か A 写本に問題があるように思われる箇所に限つて、他の写本(特に B)を補助的に参照する、というのが私が取つた作業方針である¹⁷。従つて本論文における第8章の校定テキストは実質的に、98%程度、この A 写本を底本にしているといつてよい。また第8章は黒田がテキストを発表した章でもあるので、本論文の Apparatus criticus においては黒田のテキストと A との異同を示した。そして A 写本以外の写本の読みとしては必要に応じて、B 写本の読みを参照し、異読に報告した。また黒田本にも写本にも、詩節に番号は付いていないが、今後の研究のためには全詩節に通し番号が付けられていると便利なので、私は校定テキストの作成にあつて詩節に通し番号を付してみた。元の A 写本では詩節に番号は全く記されていないことをお断りしておきたい¹⁸。

第8章の第111と第112の2詩節は、A 写本の余白に書かれたもので、TJAM の本来のテキストには無かつたかもしれない詩節である¹⁹。その第111と第112の2詩節は、Budhacarita を参照することによつて Lalitavistara には無かつた情報を新たに追加しようと

16. ただし例外的な例を挙げれば、第8章の171詩節 ab は、A 写本の余白に書かれているにもかかわらず、他の写本には欠けている。

17. A 以外の写本の読みとして異読には B の読みを頻繁に報告したが、B が特に D や E より伝承が勝れているというわけではない。A 以外の全部の写本の読みを挙げる余裕がないので、一応 A 以外の代表として、B の読みを出したが、D を選んでもよかつた。

18. D 写本では17章以降の章において詩節に番号が連続して記されているが、これは TJAM の写本全体から見ると、例外的な現象である。

19. 私の編集方針としては、余白に書かれている追加的な内容の詩節であつても、A 写本の本来の筆写者の筆跡とみなされる場合には、本文とみなした。

したものである。その2詩節以外の第8章の詩節は、大乘經典 Lalitavistara に基づきつつ、その経の散文の部分は韻文化し、またその経の種々の複雑な韻律をもつ韻文の部分も、平易なシュローカの韻律に変えるというやり方によって大体作られている²⁰。それらの Lalitavistara をソースとする詩節においては、Lalitavistara の S. LEFMANN による旧校定本 (I, 1902年) と外蘭幸一による新校定本 (上巻 1994年) を用いて、絶えず比較を行う必要がある²¹。私の第8章の校定テキストでは、各詩節の右側に ≈ という「類似」を意味する記号を使って、LEFMANN (略号 L) と外蘭幸一 (略号 H) の出版本の参照すべき箇所を示した。

TJAM は少なくともこの第8章に関しては、大乘經典 Lalitavistara の忠実な metrical adaptation を作ることが作者によって意図されたといえる。Lalitavistara に対応が見出せない内容の詩節が、特に TJAM 第158詩節から第184詩節にかけて連続しているが、それらの詩節にはネパールの文化が色濃く表れており、その内容から判断する限り、恐らく直接のソースがないものであり、TJAM の作者が資料に基づくことなしに自分で創作したものであろう。それらの詩節には中世ネパールの仏教徒たちが恐れ信仰した神的・魔的な存在の名前が列挙されており、文化的に見て興味深い。

今後の TJAM の他の章の研究に資するため、この論文の最後には A 写本に基づいて、TJAM の37章の全部の章名を示した。

この校定にあたって、多少の感慨がある。ふり返ると、この校定に用いた諸写本のマイクロ・フィルムを手に入れたのは私がまだ博士課程の院生であった時で、それ以来、このテキストの校定と翻訳を実現したい、という思いを抱いてきた。今その希望の一部を実現することが出来た。今回の仕事により、A 写本さえきちんと押さえれば、このテキストは読めるという実感を抱くことが出来た。ただ全部で37章もあるテキストであり、私一人で全章の校定作業を担ってゆくのは不可能である。幸い、九大の二人の博士課程の院生、楊曉華さんと松本昌巳さんが現在このテキストの他の章の校定を志してく

20. TJAM の作者は、この第8章における Lalitavistara の散文箇所の韻文化においては、經典の細かな科段を作成する時のように、散文箇所を数行ごとに意味的に分割してから、それぞれの段の内容を要約して、別の表現で置き換えることで、韻文化している。このような作者が TJAM 第8章で行った作業は、現代の Lalitavistara の研究者にとっても、ネパールにおいて Lalitavistara のテキストがどの箇所で段落に分割され、科段の如く細かく分かれたれて、どのように内容が把握されていたかを知ることが出来るという有用性をもつ。TJAM 第8章は Lalitavistara 第7章誕生品の理解の補助資料として、科段分けに役立つと思われる。

21. S. LEFMANN (1902, 1908): *Lalita Vistara. Leben und Lehre des Śākya-buddha, erster Teil: Text*, 1902; *zweiter Teil: Varianten-, Metren- und Wörterverzeichnis*, 1908, Halle. 外蘭幸一 (1994): 『ラリタヴィスタラの研究 上巻』、大東出版社。

れている。お二人の研究の進展と並行して、私自身も今後も引き続き、別の章の校定・翻訳を進めてゆきたい。今回の第8章テキスト前半は、2010年度の大学院の演習の授業でも取り上げた。テキストと訳の検討に参加してくれた院生諸君に感謝する。

Tathāgatajanmāvadānamālā 8 Bodhisattvajanmaparivarta

[53a3] atha so 'rhan mahābhijña upagupto mahāmatih / aśokaṃ taṃ mahāsattvaṃ sampaśyann evam abravīt // 8.1	
tatas tasya jagadbhartur bodhisattvasya janmanaḥ / samaye samupāyāte śuddhodanasya bhūpateḥ // 2	≈ L(efmann) 76.8-9; H(okazono) 428.1-2
grhārāmavanodyānataḍāgeṣu samantataḥ / dvātriṃśatsunimittāni prādur āsan nirantaram // 3	≈ L 76.9-10; H 428.2-3
udyāneṣv api sarvesu sarvāṇi kusumāny api / śuṅgībhūtāni bhṛṅgaiś ca vyāptāni puṣpitāni na // 4	≈ L 76.10-11; H 428.3-4.
nadīhradataḍāgeṣu sarveṣu jalajāny api / padmotpalādipuṣpāṇi kuṭmalībhūya tasthire // 5	≈ L 76.11-12; H 428.3-4.
sarve 'pi phalavṛkṣāś ca prābhyudgamyā mahītalāt / kṣārakābhisamāpannā na phalanti sma sarvataḥ // 6	≈ L 76.12-13; H 428.4-5.
aṣṭau ratnadrumāś cāpi prādur āsan mahītalāt / sarvaratnanidhānānāṃ viṃśallakṣaśatāni ca / antaḥpure ca ratnānāṃ aṅkulāḥ prodgatā babhuḥ // 7	≈ L 76.13-15; H 428.5-7.
sugandhatailasaurabhyasaṃvāsītāś ca sarvataḥ sugandhiśītalosṇāmbu prasusruvuḥ praṇālikāḥ // 8	≈ L 76.15-16; H 428.7-8.
siṃhaśārdūlapotāś ca himālayāt samāgatāḥ / mudā pradakṣiṇīkr̥tya tatpuraṃ samupāviśan // 9	≈ L 76.16-18; H 428.8-10.
dvārāntike 'bhitiṣṭhanto nadanto 'pi mahatsvaram / yatheccayā caranto 'pi kaṃcin naiva vyahethayan // 10	≈ ibid.
pañcaśatebhaśāvāś ca samāgatya himāla[54a]yāt / śuddhodanasya pādābje karāgrair abhilekhire // 11	≈ L 76.18-20; H 428.11-12.
mekhalībaddhakā devadārakāś ca samāgatāḥ / rājñāḥ svāntaḥpurotsaṅgam anuvartanta ācaran // 12	≈ L 76.20-77.1; H 428.12-14.
nāgakanyāś ca khe yātāḥ saṃdarśitārdhavigrahāḥ / divyapūjopahārāṇi grhītvā tasthur ānatāḥ // 13	≈ L 77.1-2; H 428.14-15.

nāgakanyāsahasrāṇi daśākāśagatāni ca / mayūravyañjanam dhṛtvā samupatasthur ānatāḥ // 14	≈ L 77.3-4; H 428.15-16.
pūrṇakumbhasahasrāṇi daśākāśe caranti ca / puraṃ pradakṣiṇīkr̥tya bhramitāni dadarṣire // 15	≈ L 77.4-5; H 428.16-18.
daśa ca devakanyānām sahasrāṇi khagāny api / gandhāmbupūrṇabhṛṅgārān mūrdhni dhṛtvā samāśrayan // 16	≈ L 77.5-6; H 428.18-19.
devakanyāsahasrāṇi daśākāśāśritāni ca / chattradhvajapatākādīn gṛh̥itva tasthur ānatāḥ // 17	≈ L 77.6-8; H 428.19-20.
daśāpsaraḥsahasrāṇi viyatsamāgatāni ca / tūryasaṅgītisaṃvādyam gṛh̥itvā samupāśrayan // 18	≈ L 77.8-9; H 428.20-22.
sarve samīraṇās cāpi na vavuh samavasthitāḥ / nadīprasravaṇāḥ sarve naivābhīprāvahaṃs tadā // 19	≈ L 77.9-10; H 428.22-429.1.
candrasūryavimānāni grahā jyotīṃṣi tārakāḥ / bodhisattvajanur draṣṭum icchanto nābhicerire // 20	≈ L 77.10-11; H 429.1-2.
abhūt puṣyarkṣasaṃyuktaṃ gṛhaṃ cāpi mahīpateḥ / ratnajālābhisaṃchannaṃ susaṃsthitam aśobhata / nātijajvāla vahniś ca yajñāśāstrālayeṣv api // 21	≈ L 77.11-13; H 429.2-4.
kūṭāgāreṣu sarveṣu prāsādatorāṇeṣv api / maṇisraglambamānās ca praśobhitā virājitāḥ / dūṣyagañjās ca saṃjātā ratnagañjāḥ suvāsasaḥ // 22	≈ L 77.13-15; H 429.4-6.
kākagṛdhrabakolūkacillādīduṣṭapakṣiṇām / kharavṛkaśṛgālāṇām śabdās cāntarhitās tadā // 23	≈ L 77.15-16; H 429.6-7.
sujātapakṣijantūnām eva śabdāḥ pracāritāḥ / sarvadeṣeṣu karmāntāḥ samucchinnās tadābhavan // 24	≈ L 77.16-17; H 429.7-8.
sarvabhūmipradeśās babhūvur mārdevāḥ samāḥ / saraṇīvīthikārathyāśṛṅgāṭakādībhūtalāḥ / sarvapuṣpābhisaṅkīrṇāḥ samā āsaṃś ca mārdevaḥ // 25	≈ L 77.17-19; H 429.8-10.
tadā sarvās ca gurviṇyaḥ sukhenavābhya[54b]sūvata / paripuṣṭendriyāḥ sarvā naiva kāścid rujānvitāḥ // 26	≈ L 77.19-20; H 429.10-11.
sarvavanadrumāsīnāḥ sarvās ca devatā api / bodhisattvaṃ namasyantyas tasthuḥ khe 'rdhakāyikāḥ // 27	≈ L 77.20-21; H 429.11-12.
etāni bodhisattvasya samaye janmanas tathā / dvātriṃśatsunimittāni prādur āsan nṛpāśrame // 28	≈ L 77.21-22; H 429.13.
tad dṛṣṭvā sa mahīpālāḥ samantri janapaurikaḥ / saṃharṣavismayākrāntamānasaḥ saṃsthitō 'bhavat // 29	

sarve lokās ca tad dr̥ṣṭvā vismayaharṣitāsāyāḥ / kim etad adbhutaṃ jātaṃ ity uktvā sampracerire // 30	
atha sāpi mahādevī dr̥ṣṭvā tatsannimittatām / matvātmajasamutpattiṃ mahānandaprasādītā // 31	≈ L 78.1-2; H 429.14-15.
niśāyāṃ prathame yāme śuddhodanaṃ nṛpaṃ patim / upetya sāñjalir natvā sampāśyanty evam abravīt // 32	≈ L 78.2-3; H 429.15-16.
śṃuṣva me mahārāja yad abhiprāyam ucyate / tad bhavān sudṛṣā paśyann anugrahītum arhati // 33	≈ L 78.4; H 430(vs.)1a.
yad ārāmavanodyāne *rantuṃ rocāmi sāmpratam / yadi nāsti tava kleśas tad anujñāṃ pradehi me // 34	≈ L 78.5-7; H 430(vs.)1b-d.
bhavān api vanodyāne tapasvivaj jitendriyaḥ / saddharmasādhanotsāhaṃ bhuktvā ramitum arhati // 35	≈ L 78.8; H 432(vs.)2a.
aham api mahārāja śuddhasattvaṃ maharddhikam / saṃdadhānā vanodyāne rantum icchāmi sāmpratam // 36	≈ L 78.9; H 432(vs.)2b.
drumāḥ sarve 'dhunodyāne praphullapuṣpamaṇḍitāḥ / kalpavṛkṣā ivābhānti devodyānasamudbhavāḥ // 37	≈ L 78.10-11; H 432(vs.)2cd.
bhṛṅgakokilasamṛvabarhinṛtyavilāsanaiḥ / manohare mahodyāne rantum icchāmi sāmpratam // 38	≈ L 78.12-14; H 432(vs.)3a-c.
yadi te 'sti prabho svāmin kṛpānurāgato mayi / tadanujñāṃ pradattvā me mano *bandhetum arhati // 39	≈ L 78.15; H 432(vs.)3d.
iti tayā mahādevyā samprārthitaṃ niśāmya saḥ / śuddhodano nṛpo māyāṃ paśyaṃs tathety anandayat // 40	≈ L 78.16; H 432(vs.)4a.
tataḥ sa nṛpatī rājā śuddhodano nṛpādhipaḥ / amātyān mantriṇo bhṛtyān samāmantryaivam ādiśat // 41	≈ L 78.17; H 432(vs.)4b.
amātyā mantriṇo bhṛtyāḥ śṛṇudhvaṃ vacanaṃ mama / sarve yūyaṃ sametyāśu gacchadhvaṃ lumbinīvanam // 42	≈ L 78.18; H 432(vs.)4c.
gatvā tatra vanodyāne śodhayitvā samantataḥ / maṇḍayadhvaṃ yathā [55a] svarge nandanam sampraśobhitam // 43	≈ L 78.19; H 432(vs.)4d.
gajānāṃ meghavarṇānāṃ ṣaḍgauradīrghadantinām / yojayadhvaṃ sahasrāṇi viṃśater mattagāminām // 44	≈ L 78.20-79.2; H 432(vs.)5.
hayānāṃ muñjakeśānāṃ gaurāṇāṃ vāyuveginām / yojayadhvaṃ sahasrāṇi viṃśater śuddhacāriṇām // 45	≈ L 79.3-6; H 432(vs.)6.
ranaśauṇḍān mahāvīrān bhaṭān sainyādhipānvitān / yojayadhvaṃ sahasrāṇāṃ viṃśatīr jayamāninaḥ // 46	≈ L 79.7-9; H 432(vs.)7a-c.
caturaṅgalaiḥ sārḍham parivṛtya samantataḥ /	

vane tatra surakṣārthaṃ māyāyāṃ sthātum arhatha // 47	≈ L 79.10; H 432(vs.)7d.
tatra yathā mayākhyātaṃ tathā sarvaṃ vidhīyatu /	
sahasā samupāgatya mamāgre vaktum arhatha // 48	≈ L 79.11-14; H 432(vs.)8.
ity ādiṣṭaṃ narendreṇa śrutvā te mantriṇo janāḥ /	
tathety abhy anumodantas tathā kartuṃ vane 'caran // 49	≈ L 79.15-16; H 434(vs.)9ab.
tatra gatvā yathādiṣṭaṃ tathā sarvaṃ vidhīyate /	
sarve mantrijanā bhṛtyā rājño 'gre samupāgatāḥ // 50	
natvā pādaḥ samālokyā purataḥ samupāśritāḥ /	
suprasannamukhāmbhojā āmantryaivaṃ nyavedayan // 51	
jaya deva yathādiṣṭaṃ tathā sarvaṃ susiddhitam /	
tad bhavān sahasā gatvā tatra saṃdraṣṭum arhati // 52	≈ L 79.17-18; H 434(vs.)9cd.
iti mantrijanaiḥ sarvair niveditaṃ niśamya saḥ /	
śuddhodanaḥ prasannāsyas tatheti samupādiśat // 53	
tataḥ sa nṛpatir bhartā pravīśyāntaḥpure mudā /	
sarvāḥ strīḥ samupāmantrya purata evam ādiśat // 54	≈ L 79.19-20; H 434(vs.)10ab.
bho striyaḥ supriyāḥ sarvāḥ śṛṇudhvaṃ vacanaṃ mama /	
svasvātmānaṃ prasādhitvā maṇḍayadhvaṃ vibhūṣaṇaiḥ // 55	≈ L 79.21-22; H 434(vs.)10cd.
sarvamanojñavādyāni saṅgītisahitāny api /	
sarvā yūyaṃ samādāya vṛajadhyaṃ lumbinīvane // 56	≈ L 80.5-6; H 434(vs.)12ab.
kurudhvaṃ sarvalokānāṃ manāṃsy ānanditāni ca /	
yad dṛṣṭvātimahotsāhaṃ spṛheyur devatā api // 57	≈ L 80.7-8; H 434(vs.)12cd.
māyayā me mahiṣyāpi saha yāne samāśritāḥ /	
susnigdhaś ca subhāvinyas tiṣṭhadhvaṃ sampramoditāḥ // 58	
anyāś ca pramadā nāryā yānāsanasamāśritāḥ /	
māyādevīm samāvāhya nayadhvaṃ lumbinī[55b]vane // 59	≈ L 80.9-10; H 434(vs.)13ab.
pratikūlam amaṅgalyaṃ vārayitavyam atrataḥ /	
bhadraśrīsumahotsāhair gantavyaṃ lumbinīvane // 60	≈ L 80.11-12; H 434(vs.)13cd.
hayagajarathaśrīmatsainyasaṅghā analpakāḥ /	
nṛpater mandiradvāre yadāgatya samāśritāḥ // 61	≈ L 80.13-14; H 434(vs.)14ab.
tadā tatra sumāṅgalyamahotsāhamahadravaḥ /	
jaladheḥ kṣubhitasyeva niścacāra vihāyasaḥ // 62	≈ ibid.
yadā māyā mahādevī satsakhībhiḥ samanvitā /	
vane gantuṃ prasannāsyā dvārāntikam upācarat // 63	≈ L 80.15-17; H 434(vs.)14c-f.
tadā tatra mahādevyā maṅgalārthaṃ pramoditaiḥ /	
ghaṇṭaśatasahasrāṇi saṃtāḍitāni tajjanaiḥ // 64	≈ ibid.

so 'pi rathavaro rājñā suvicitrābhimaṇḍitaḥ / divyaratnāsanam tatra saṁstāritaṁ mudāmaraiḥ // 65	≈ L 80.18-19; H 436(vs.)15ab.
catvāro ratnavṛkṣās ca śākhāpatraprasobhitaḥ / divyasugandhipuṣpādhyās catuḥkoṇesu ropitaḥ // 66	≈ L 80.20-21; H 436(vs.)15cd.
suratnakiṅkinījalair divyavastraiḥ suvāsitaḥ / samāchādyā surendrasya vimānam iva maṇḍitaḥ // 67	≈ L 81.1-2; H 436(vs.)16ab.
chatradhvajapatākās ca tatropari samucchritaḥ / śukahaṁsamayūrās ca tatra saṁcāritā mudā // 68	≈ ibid.
rathavaram tam ālokya devakanyaḥ pramoditaḥ / gagaṇasthāḥ samīkṣantyaḥ saṁstutvābhyanvamodayan // 69	≈ L 81.3-4; H 436(vs.)16cd.
tataḥ sā śrīmahādevī māyā śuddhendriyā mudā / rathavaram tam āruhya siṁhāsane samāśrayat // 70	≈ L 81.5; H 436(vs.)17a.
tadācalan mahī sarvā sābdhikānanaparvatā / divyāambarasupuṣpāṇi prāvarṣayan surā mudā // 71	≈ L 81.6-7; H 436(vs.)17bc.
adya hi trijagacchāstā jāyeta lumbinīvane / iti matvāmarāḥ sarve tad draṣṭum samupācaran // 72	≈ L 81.8; H 436(vs.)17d.
catvāro 'pi mahārājās tad draṣṭum samupāgatāḥ / rathavaram tam udvāhya prācārayan vane śanaiḥ // 73	≈ L 81.9; H 436(vs.)18a.
tathendro 'pi samāgatya devasaṅghasamanvitaḥ / mārgam saṁsodhitaṁ kṛtvā prācarat purato mudā // 74	≈ L 81.10; H 436(vs.)18b.
brahmāpi samupāgatya maharṣibhiḥ samanvitaḥ / vārayan durjanān sarvān prācaran muditaḥ puraḥ // 75	≈ L 81.11; H 436(vs.)18c.
evam anye 'pi lokendrās tad draṣṭum samu[56a]pāgatāḥ / prāñjalikāḥ praṇatvā tāṁ devīm dṛṣtvā mudam yayuḥ // 76	≈ L 81.12; H 436(vs.)18d.
tad dṛṣtvā sa mahīndro 'pi vismayākrāntamānasah / nūnam ayam jagannātho bhaved iti vyacintayat // 77	≈ L 81.13-14; H 436(vs.)19ab.
yato brahmāmarendro 'pi sarvalokādhipā api / kurvate 'sya mahatsevām divyapūjāmahotsavaiḥ // 78	≈ L 81.15-16; H 436(vs.)19cd.
tad ayam trijagannāthaḥ sarvalokādhipeśvaraḥ / sarvadharmādhipaḥ śāstā vināyako bhaved api // 79	≈ ibid.
nāsty asya sadṛśah kaścit tridhātubhuvaneṣv api / yad brahmeśasurendrādyah sarve lokā bhajanty api // 80	≈ L 81.17-20; H 438(vs.)20.
tad ayam tribhaveśāno devadevo maharddhimān / sarvavidyādhiraṅgendro dharmaṅrajo bhaved dhruvam // 81	≈ ibid.
brahmaśakrādayo devāḥ sarve lokadhipā api /	

nūnam asya sadābhyarcya bhajeyuḥ śaraṇāśritāḥ // 82	≈ ibid.
evaṃ sā śrīmatī māyā mahādevī sumañḍitā / ratharatnāsanāsīnā satsakhībhiḥ samanvitā // 83	≈ L 81.21-22; H 438.5-6.
caturaśītisāhasraiḥ sarvālaṅkāramaṇḍitaiḥ / vāyurayātisaṃcārihayarathaiḥ samanvitā // 84	≈ ibid.
caturaśītisāhasraiḥ sarvālaṅkārabhūṣitaiḥ / sunīlameghasaṅkāśagajarathaiḥ samanvitā // 85	≈ L 81.22-82.1; H 438.6-7.
caturaśītisāhasraiḥ śūraiḥ varāṅgarūpibhiḥ / saṃnaddhakavacaiḥ vīraiḥ parivṛtāstrapāṇibhiḥ // 86	≈ L 82.1-2; H 438.7-8.
caturaśītisāhasraiḥ padātiyoddhṛsainyakaiḥ / nānāśastradharair bhaṭṭaiḥ parivṛtā mahotsavaiḥ // 87	≈ ibid.
ṣaṣṭikanyāsahasraiś ca śākyānām abhimaṇḍitaiḥ / puraskṛtā mahotsāhair manojñendriyavigrahaiḥ // 88	≈ L 82.2; H 438.8-9.
catvāriṃśatsahasraiś ca śuddhodanasya bhūpateḥ / saṃrakṣitā jñātivargaiḥ śākyair madhyamavigrahaiḥ // 89	≈ L 82.3-4; H 438.9-10.
catuḥṣaṣṭisahasraiś ca rājñas tasya mahīpateḥ / kāntānām ramaṇīyānām śrīrūpāṇām puraskṛtā // 90	≈ L 82.4-5; H 438.10-12.
caturaśītisāhasrair devakanyābhir anvitā / nāgakanyāsahasraiś ca tathā parivṛtā mudā // 91	≈ L 82.5-6; H 438.12-13.
tathā gandharvakanyānām hayāsyānām tathā mudā / caturaśītisāhasrair kanyānām ca suradviṣām // 92	≈ L 82.7-8; H 438.13-14.
evaṃ kāntābhir anyā[56b]bhiḥ saṅgītistuticāriṇaiḥ / kurvantībhir asaṅkhyābhiḥ parivṛtā puraskṛtā // 93	≈ L 82.8-9; H 438.14-16.
evam anyaiḥ suhṛṇmitrabāndhaveṣṭamahājanaiḥ / samanvitā mahotsāhair nirjagāma purāt tataḥ // 94	≈ ibid.
tatra gandhāmbusaṃsikte divyapuṣpasamāstṛte / pattrapuṣpaphalavyāptadrumābhisampraśobhite // 95	≈ L 82.9-11; H 438.17-19.
devaiś cāpi samāgatya divyālaṅkāramaṇḍitam / divyasaaurabhyasampannam miśrakāvanam ivākṛtam // 96	≈ L 82.11-13; H 438.19-20.
taṃ drṣṭvā sā mahādevī māyā saṃharṣitāśayā / avatīrya rathāt tatra prāviśal lumbinīvane // 97	≈ L 82.14-15; H 438.21-22.
tatra sā devakanyābhiḥ sakhībhiś ca samanvitā / samīkṣya tadvanaṃ ramyaṃ mahānandaṃ samāyayau // 98	≈ L 82.15-16; H 438.22-23.
tatra caṅkramyamānā sā māyādevī pramoditā / sarvān drumān samālokya plakṣavṛkṣam upācarat // 99	≈ L 82.16-20; H 438.23-440.3.

taṃ vṛkṣapravaraṃ kāntaṃ suśākhāpatramaṇḍitaṃ / supuṣpamañjarīvyāptaṃ divyasaaurabhyagandhitam // 100	≈ L 82.16-20; H 438.23-440.3.
nānāsuraṅgavastrādisarvālāṅkāralambitam / nānāratnaprabhodbhāsaṃ kalpavṛkṣ*ātiśobhitam // 101	≈ ibid.
samabhūmitale śuddhe haritṛṇasamāstrte / pūrvamunīndramātṛṇām adhiṣṭhāne 'bhisaṃsthitam // 102	≈ L 82.20-22; H 440.3-5.
samīkṣya sā mahādevī pariśuddhaśubhāśayaiḥ / devaiḥ saṅgītisaṃvādyair vinoditā mudācarat // 103	≈ L 82.22-83.2; H 440.5-8.
tāṃ devīm samupāyātāṃ sa plakṣaḥ sahasānataḥ / sambuddhajananīm dṛṣṭvā praṇanāma prasāditaḥ // 104	≈ L 83.3-4; H 440.9-10.
taṃ dṛṣṭvā sā mahādevī prasārya dakṣiṇaṃ karam / dhṛtvā śākhāṃ kham ālokya jṛmbhamānā sthitābhavat // 105	≈ L 83.4-6; H 440.10-12.
tasmimś ca samaye tatra kāmādhātusamāśritāḥ / ṣaṣṭyapsaraḥsahasrāṇi devyāḥ samabhyupāgatāḥ // 106	≈ L 83.6-7; H 440.12-13.
samupāśritya sarvās tā divyopacāravastubhiḥ / paricaryāṃ pariskṛtya prābhajanta samāhitāḥ // 107	
tadā sa udare mātū ratnavyūhāsanāśritāḥ / vilokya samayaṃ tasthau samādhisaṃsthitāśayaḥ // 108	≈ L 83.8-9; H 440.14-15.
tataḥ puṣyarkṣayuktāyāṃ rā[57a]kāyāṃ sa samāhitāḥ / kūṭāgāramaṇivvyūhapadmāsanasamāśritāḥ // 109	
dakṣiṇapārśvato mātuh samprajānan susaṃsmṛtāḥ / niḥṣṛtya trijagallokaṃ bhāsayan samajāyata // 110	≈ L 83.9-10; H 440.15-16.
<< mātur vibhinnapārśvaṃ tad abhavad āśu nirvraṇam / svalpāpi vedanā nāsīd bāle tasmin vinirgate // >> 111	[Cf. Buddhacarita, I 9.]
<< ūror urvaḥ pṛthur hastān māndhātā śirasō yathā / mātuh kakṣāt tathā jāto bodhisattvaḥ sa nirmalaḥ // >> 112	≈ Buddhacarita, I 10.
samprajāto mahātmā sa pariśuddhendriyāśrayaḥ / dvātriṃśallakṣaṇāśītivyañjanaparimaṇḍitaḥ // 113	
nirmalapariśuddhāṅgaḥ sarvadvivṛtisundaraḥ / sarvatejo'tiriktābho babhau sambhāsayañ jagat // 114	≈ L 83.10-11; H 440.16-17.
samprajātaṃ tam ālokya brahmendrau samupāśṛtau / divyavastraiḥ samāvṛtya samāgrhya vavandatuḥ // 115	≈ L 83.12-14; H 440.18-21.
tato 'nye 'pi surāḥ sarve samprajātaṃ samīkṣya tam / divyavastraiḥ samāvṛtya pariḡrhya vavandire // 116	≈ L 83.17-18; H 442.4-5.
tadā tatra mahāpadmaṃ prādur abhūn mahīlāt /	

tatra saṃjātamātro 'sau samāśrayat samāhitāḥ // 117	≈ L 83.19-21; H 442.5-7.
nandopanandanāgendrau mudākāśasamāśritau /	
śiṭoṣṇavāridhārābhyāṃ tam asnāpayatāṃ śiśum // 118	≈ L 83.21-22; H 442.7-9.
evam anye 'pi devendrā brahmaśakrādayo 'pi ca /	
divyasugandhipānīyair asnāpayāṃs tam ādarāt // 119	≈ L 84.1-3; H 442.9-11.
divyasugandhipuṣpaiś ca prābhyavakīrya taṃ śiśum /	
praṇatvā khagatā devāḥ te sarve 'py abhinandire // 120	≈ ibid.
tadā dve cāmāre śuddhe sudhāṃśugaurasatprabhe /	
divyaratnamayaṃ chattraṃ prādur babhūva ambare // 121	≈ L 84.3; H 442.11-12.
tatra padmāsanāsīno bodhisattvaḥ sa sarvavit /	
caturdiśaṃ samālokya sarvalokān apaśyata // 122	≈ L 84.3-10; H 442.12-19.
asti me sadṛśaḥ kaścic chīlenātra samādhinā /	
prajñayā sadguṇair veti sarvatrāpi vyalokayat // 123	≈ L 84.10-11; H 442.19-20.
tato 'paśyan sa sarvatra lokeṣv ātmasamādhikam /	
samīkṣya sarvalokānāṃ caritram abhyamanyata // 124	≈ L 84.11-13; H 442.20-22.
<< mahābalaṃ śiśos tasya matvā sarve jinās tadā /	
tatra vajramayāṃ bhūmim adhyatiṣṭhan nirantaram //>> 125	≈ L 86.16-17; H 446.23-24.
tataḥ sa siṃhavan nirbhīḥ susaṃsmṛtisamāhitāḥ /	
prācīdiksammukhaḥ sapta padāni bhuvī prākramat // 126	≈ L 84.18-19; H 442.22-444.2.
yatra yatra sa ālokya padaṃ niksīpya prākramat /	
tatra tatra padanyāse prādurbhūtaṃ mahāmbujam // 127	≈ L 84.11-13; H 444.3-4.
te cāpi cāmāre chattraṃ tac cāpi tasya gacchataḥ /	
sarvatrāpy anugacchanti prācara[57b]nta vihāyasi // 128	≈ L 84.17-18; H 445 note 6.
tatra sa saṃsmṛto dṛṣṭvā sarvān buddhān anusmaran /	
sāñjaliḥ praṇatiṃ kṛtvā saṃsmṛta evam ādiśat // 129	
pūrvaṃgamo jagallope sarvakuśalacāriṇām /	
saddharmaṃ samupādiśya cārayiṣyāmi sarvataḥ // 130	≈ L 84.16-17; H 444.2-3.
tac chrutvā sugatāḥ sarve devā lokādhipā api /	
taṃ samīkṣya mahāsattvaṃ prābhyanandan prabodhitāḥ // 131	
tataḥ sa dakṣiṇām āśāṃ abhimukhaḥ samācāran /	
saptapadāni prākramya buddhān smṛtvaivam abravīt // 132	≈ L 84.19-20; H 444.4-5.
dakṣiṇīyo bhavyāhaṃ sarvatraidhātukeṣy api /	
bauddhaṃ prakāśayan dharmaṃ cārayiṣyāmi sarvataḥ // 133	≈ L 84.20-21; H 444.5.
tataḥ sa paścimāṃ kāṣṭhām abhimukhaḥ samācāran /	
saptapadāni prakrānto jinān smṛtvaivam abravīt // 134	≈ L 84.21-22; H 444.5-7.

iyam me paścimā jātir bodhim prāpya jagaddhite / duḥkhasyāntaṃ kariṣyāmi bhadracaryāṃ prakāśayan // 135	≈ L 84.22-85.2; H 444.7-8.
tataḥ sa cottarām āsāṃ abhimukhaḥ samācaran / saptapadāni prakrānto buddhān smṛtvaivam ādiśat // 136	≈ L 85.2; H 444.8-9.
anuttaro 'ham ātmajño hitvā māyāṃ jagaddhite / arhan sambodhim āsādy darśayiṣyāmi nirvṛtim // 137	≈ L 85.2-3; H 444.9-10.
tato 'dhodiśam ālokya saptapadāni prākraman / anusmṛtvā jinān sarvān vihāsann evam ādiśat // 138	≈ L 85.3; H 444.10.
jītvā māragaṇān sarvān sarveṣu narakeṣv api / duḥkhāgnīn praśamiṣyāmi dharmāmṛtaṃ pravarṣayan // 139	≈ L 85.4-6; H 444.10-12.
tata ūrdhvadiśaṃ paśyan saptapadāni prākraman / ullokya sugatān smṛtvā sāñjalir evam abravīt // 140	≈ L 85.6-7; H 444.13-14.
aham ullokanīyo 'trā sarvalokanivāsinām / bodhimārge pratiṣṭhāpya cārayeyaṃ jagac chubhe // 141	≈ L 85.7; H 444.14.
evam prabhāṣitaṃ śrutvā bodhisattvena sarvataḥ / digāśritā jināḥ sarve praśāsaṃsuḥ samīkṣya tam // 142	≈ L 85.7-14; H 444.14-21.
evam sarve mahāsattvā bodhisattvā niśamya tat / samīkṣya taṃ mahābhijñāṃ praṇatvā prābhyanandayan // 143	≈ ibid.
evam sarve 'marāś cāpi sarve [58a] lokādhipā api / munayo 'pi ca tac chrutvā samīkṣya taṃ vavandire // 144	≈ ibid.
tadācalan mahiḥ sarvā sābdhisarvaśiloccayā / aghaṭṭitāni sarvāni vādyāni sampraṇedire // 145	≈ L 85.14-16; H 444.21-23.
diśaḥ praseditare sarvāḥ puṣpavṛṣṭiḥ papāta khāt / jyotīṃṣi cāpi sarvāni śaradīva virejire // 146	≈ L 85.20-21; H 446.3-4.
sarve drumāś ca sarvartuphalapuṣpābhiśobhitāḥ / vātā vavuh sukhasparśā haimapuṣparajoharāḥ // 147	≈ L 85.16-17; H 444.23-24.
vidyunmaṇḍitameghāś ca dhīragambhīranisvanāḥ / divyasaurabhyayuktāni vavarṣur amṛtāny api // 148	≈ L 85.17-20; H 444.24-446.3.
brahmamaṅgalaghoṣāś ca śuśruvire vihāyasi / sarvā divyaprabhāś cāpi jihmībhūtā na rejire // 149	≈ L 85.21-86.1; H 446.4-5.
tasya puṇyaprabhāsprṣṭāḥ sarve sattvā vikalmaṣāḥ / mahānandasukhāpannā babhūvur dharmalālasāḥ // 150	≈ L 86.1-4; H 446.6-10.
niḥkleśamānadarperśyālobhamātsaryamānasāḥ / sarve sattvāḥ sukhāḍhyāś ca babhūvur vimalendriyāḥ // 151	≈ L 86.4-5; H 446.10-11.
nīrogā vimalātmānaḥ paripuṣṭendriyāśrayāḥ /	

śrīsampatsukhasampannāḥ sarve āsan guṇārataḥ // 152	≈ L 86.5-6; H 446.11-12.
kṣṭpipāsāḥ praśāntās ca sarveṣām api dehinām /	
madyarāgāḥ praśāntās ca sarve 'py āsan sumānasāḥ // 153	≈ L 86.6-8; H 446.12-13.
unmattaiḥ saṃsmṛtir labdhā andhair labdham sudarśanam /	
badhiraiḥ suśrutir labdhā vyaṅgaiḥ śuddhendriyāśrayam // 154	≈ L 86.8-10; H 446.13-16.
daridraiḥ pratilabdhas ca sarvadravayasamṛddhayaḥ /	
bandhyā bandhananirmuktā duṣṭās ca sādhaso 'bhavan // 155	≈ L 86.10-11; H 446.16-17.
duḥkhāni narakīyānāṃ praśāntāni samantataḥ /	
tiraścām api sarvesāṃ vyupaśāntaṃ mithobhayam // 156	≈ L 86.11-13; H 446.17-19.
pretānām api sarveṣāṃ yamalokanivāsinām /	
kṣṭpipāsāduduḥkhāni praśāntāny abhavaṃs tadā // 157	≈ L 86.13; H 446.19-20.
rogī nāsīt tadā kaścīd daridro 'pi na kaścana /	
hīnendriyo 'pi kaścīn na dīno duḥkhī na kaścana // 158	
kleśī duṣṭo 'pi kaścīn na madamānī na kaścana /	
lobheṣyāvyaikulātmā ca matsarī ca na kaścana // 159	
na ca himsārataḥ kaścīn na mithyākāmasamrataḥ /	
nādattā[58b]dānalubdho na mṛṣāvādī na kaścana // 160	
naiva paiśunyaṇvādī ca na ca bhinnapravādaḥ /	
pāruṣyaparibhāṣī ca na kaścīn krūramānasāḥ // 161	
nābhidyākaluṣātmāpi vyāpādaturmatir na ca /	
na śaṭho vañcako dhūrto mithyādrṣṭīś ca kaścana // 162	
duḥśīlo duritāraktaḥ saddharmanindako 'pi na /	
na ca durnītisaṃcārī nirdayo 'pi na kaścana // 163	
sarve 'py āsaṃs tadā sattvā nīrogāḥ puṣṭitāśrayāḥ /	
paripūrṇendriyā bhavyā niḥkleśā vimalāśayāḥ // 164	
satyadharmasamādhānā daśakuśalacāriṇaḥ /	
śrīsamṛddhāḥ pradātāraḥ suśīlā bhadrāmānasāḥ // 165	
kṣāntisauratyasampannaḥ saddharmasādhanodyamāḥ /	
susamāhitacittās ca sudhīmanto vicakṣaṇāḥ // 166	
bhadraśrīsadguṇādhārāḥ sudhīrā dharmalālasāḥ /	
śraddhābhaktisamāpannāḥ sanmitrasaṅgasamratāḥ // 167	
evaṃ sarve bhavallokā devadaityanarādayaḥ /	
tiryāṅco jantavaś cāpi caturbrahmavihāriṇaḥ // 168	
daivikaṃ bhautikaṃ nāsīd upasargabhayaṃ kvacit /	
ītayo 'pi tadā nāsan nāpi kiṃcid bhayaṃ kvacit // 169	

vetālā rākṣasās cāpi bhūtapretapiśācakāḥ /
 gandharvāḥ kinnarā yakṣā nāgās ca garudā api // 170
 << kumbhāṇḍā rākṣasās cāpi guhyakā dānavā api / >>
 tadaikasyāpi sattvasya naiva cakrur vihethanām // 171
 tatpuṇyasamprabhāsprṣṭāḥ sarvasattvā vikalmaṣāḥ /
 nirdoṣasukhasampannā mahotsāhaiḥ pracerire // 172
 ḍākinyo mātṛkās cāpi vetādā bhairavādayaḥ /
 skanda*grahagaṇās cāpi mahākālagāṇādhipāḥ /
 tatpuṇyadīdhitisprṣṭā babhūvur maitramānasāḥ // 173
 samīkṣya taṃ mahāsattvaṃ samprajātaṃ prasādītāḥ /
 sahasopetya vanditvā sadā rakṣann upāśritāḥ // 174
 sarvāḥ piśācikās cāpi rākṣasyo rākṣasā api /
 tatpuṇyaraśmibhiḥ sprṣṭā babhūvuḥ karuṇāśayāḥ // 175
 taṃ samīkṣya mahābhijñāṃ samprajātaṃ pramoditāḥ /
 sahasopetya vanditvā prābhyarakṣan sadādarāt // 176
 [59a] ekajaṭā mahāraudrī rākṣasīgaṇasaṃyutā /
 taṃ samīkṣya jagannāthaṃ samprajātaṃ praharṣitā // 177
 hārītī yakṣiṇī mātā pañcaputraśātānvitā /
 pañcaśatasutābhiś ca pañcajāmātṛbhiḥ śataiḥ // 178
 taṃ samīkṣya mahātmānaṃ samprajātaṃ pramoditā /
 sahasopetya vanditvā prābhyarakṣat sadāśritā // 179
 evaṃ yakṣādhipo vīro vajrapāṇir maharddhikaḥ /
 guhyakair yoginībhiś ca yogibhiś ca samanvitāḥ // 180
 samprajātaṃ mahāsattvaṃ taṃ ālokyābhinanditāḥ /
 sahasopetya vanditvā prābhyarakṣan sadādarāt // 181
 evaṃ maharddhikāḥ sarve maharṣayas tapasvinaḥ /
 samprajātaṃ taṃ ālokyā praṇatvā samprasedire // 182
 evaṃ sarvatra lokās ca śrutvā devair udīritam /
 tathāgatasamutpattiṃ matvānandan prabodhitāḥ // 183
 tadā sarvatra lokeṣu mahānandasukhānvitam /
 nirutpātaṃ śubhotsāhaṃ prāvartata nirantaram // 184
 tasya puṇyaprabhākāntiḥ sarvalokāntarāṇy api /
 parisphuṭāni śuddhāni śobhitāny api cākarot // 185
 tasmimś ca samaye tatra saṃgītīnṛtyacāraṇam /
 maṅgalavādyasaṃnādaḥ prāvartata divānīsam // 186

≈ L 86.19-20; H 448.2-3.

≈ L 86.20-21; H 448.3-4.

meghās ca prasṛtās tatra dhīragambhīraniḥsvanāḥ / prāvarṣayan puṣpagandhasuvastrabhūṣaṇāny api // 187	≈ L 86.21-22; H 448.4-5.
sarve sattvā mahānandasukhāpannāḥ pracerire / acintyaśrīmahotsāhaṃ prāvartata samantataḥ // 188	≈ L 86.22-87.2; H 448.5-7.
asmiñ jāte mahāsattve daśalakṣaśatāni khe / apsarasām samāśritya māyām devīm vyalokayan // 189	≈ L 91.11-13; H 456.11-13.
dr̥ṣṭvā tāṃ samupāgatya sarvās tā apsarogaṇāḥ / divyāpūjopacāraiś ca suvastrabhūṣaṇair mudā // 190	≈ ibid.
samabhyarcya praṇatvā taṃ bālakaṃ ca prasāditaḥ / kaccit te kauśalaṃ bhadra iti pṛṣṭvā samāśrayan // 191	
daśaṣaṣṭisahasrās ca devyaḥ sahāpsarogaṇaiḥ / lumbinīvana āgatya māyādevyā upācaran // 192	≈ L 91.14-16; H 456(vs.)21a-c.
tā vīkṣya muditaḥ sarvās tāṃ devīm bālakaṃ ca tam / sarvatra kauśalaṃ pṛṣṭvā samāśrityai[59b]vam abruvan // 193	≈ ibid.
mā viṣṭā prasīda tvam yat tvayā labdham uttamam / vayaṃ ca te mahādevi samupasthātum āgatāḥ // 194	≈ L 91.17; H 456(vs.)21d.
kiṃ vāpi karaṇīyaṃ te tat sarvaṃ samupādiśa / vayaṃ sarvāḥ samarthāḥ smaḥ sarvakāryābhisādhane // 195	≈ L 91.18-19; H 456(vs.)22ab.
samprajāto jagannāthas tavātmajo jagaddhite / janmajarāvīpaddhantā mahāvaidyo bhaved api // 196	≈ L 91.20-21; H 456(vs.)22cd.
saṃjāte 'smin mahāsattve yat sarve kusumadrumāḥ / praphullapuṣpitaḥ kāntāḥ phalino 'pi virejire // 197	≈ L 92.1-2; H 458(vs.)23ab.
yac ca pracalita sarvā medinī sābdhiparvatā / tan nūnan subhagaḥ śrīmān mahāsattvavaro bhavet // 198	≈ L 92.3-4; H 458(vs.)23cd.
yathāsyā prabhayā sarve lokāḥ samavabhāsitāḥ / aghaṭṭitāny api vādyāni vāditāni samantataḥ // 199	≈ L 92.5-6; H 458(vs.)24ab.
śatasahasrikā devāḥ śuddhāvāsādayo 'mbare / sthitāḥ saṃjātam enaṃ hi vīkṣya mudānamanty api // 200	≈ L 92.7-8; H 458(vs.)24cd.
tad ayaṃ sarvalokānāṃ traidhātuvāsīnām api / hitamkaro mahāsattvo dharmarājo bhaved api // 201	≈ ibid.
yac ca brahmārendro 'pi mātuḥ pārśvād viniḥṣṭam / suvāsasā samāveṣṭya parigrhṇīta ānatau // 202	≈ L 92.9-10; H 458(vs.)25ab. ≈ L 92.13; H 458(vs.)26a.
tad ayaṃ trijagannāthaḥ sarvadharmādhipaḥ prabhuḥ / sarvajño 'rhan mahābhijño munīśvaro bhaved api // 203	≈ L 92.11-12; H 458(vs.)25cd.
yac cāsya dehaajā kāntiḥ sarvatra nārakeṣv api /	

sthitānām api pāpāni śodhayaty avabhāsya ca // 204	≈ L 92.14-15; H 458(vs.)26bc.
tad ayaṃ sarvasattvānāṃ sarvadurgatitāraḥ / sārhavāho mahāvīryaparākramī bhaved api // 205	≈ ibid.
yac cainaṃ jātam ālokya nāgarājau viyadgatau / śītoṣṇāmṛtadhārābhyāṃ *saṃsnāpayata ānatau // 206	≈ L 93.21; H 462(vs.)35ab. (also cf. L 93.3; H 460(vs.)28c.)
saṃsnāpayanti devās ca viyadgatāḥ pramoditāḥ / divyapuṣpasugandhādyair amṛtair enam ādarāt // 207	≈ L 93.22; H 462(vs.)35cd. (also cf. L 93.4-5; H 460(vs.)28d.)
nāgendrās ca viyadyātā ālokyainaṃ samudbhavam / sugandhīśuddhapānīyaiḥ saṃsnāpayanti nanditāḥ // 208	≈ ibid.
tad ayaṃ tribhavatrātā pariśuddhendriyāśrayaḥ / bhadrāsīsadguṇādhāraḥ sarvalokādhipo bhaved // 209	
yac cāsmiṃ samprajāte dve cāmāre chattram ambare / utpannāny anugacchanti prakrāmanti mahī[60a]tale // 210	≈ L 94.1-2; H 462(vs.)36.
tad ayaṃ sarvabhūmīndraḥ sarvabhūpādhipesvaraḥ / cakravartī mahārājo bhavet sarvahitārthabhṛt // 211	≈ L 94.4-7; H 462(vs.)37.
yac cāyaṃ sarvalokānāṃ *jyeṣṭhaḥ svātmasamādhikaḥ / saptapadāni saṃkramya carate sarvadigmukhaḥ // 212	≈ L 93.10-11; H 460(vs.)30.
tadā hy asya padanyāse prādurbhūtaṃ mahāmbujam / tenāyaṃ trijagacchāstā sarvavidyādhipo bhavet // 213	≈ L 93.12-13; H 460(vs.)31.
yat pūrvāṃ diśaṃ saṃpaśyan sarvatraidhātukeṣv api / jyeṣṭho 'haṃ sarvanāthānām ity ayaṃ vadate mudā // 214	
dakṣiṇāṃ diśaṃ ālokya dakṣiṇīyo 'ham ity api / paścimāṃ diśaṃ ālokya mamedam janma paścimam // 215	
uttarasyāṃ samālokya vināyako 'ham ity api / ūrdhvāṃ diśaṃ samālokya cārayeyaṃ jagac chubhe // 216	
adhodiśaṃ samālokya sarvān pāpān viśodhayan / jītvā mārān samāsādyā bodhiṃ nirvṛtim āpnuyām // 217	
ity anena samālokya sarvā diśa udāhṛtam / tathāyaṃ sarvalokānāṃ jyeṣṭho dakṣo vināyakaḥ // 218	≈ L 93.16-18; H 460(vs.)33.
sarvajño bhagavāñ chāstā sarvān mārān vinirjayan / niḥkleśo 'rhan viśuddhātmā pariśuddhendriyāśayaḥ // 219	
uttamāṃ bodhim āsādyā saddharmaṃ samprakāśayan / bodhimārge pratiṣṭhāpya jagan nirvṛtim āpnuyāt // 220	

iti satyaṃ pariññāya mahādevi prasīda tat /
 mahāpuṇyānubhāvena labdhas te śrīguṇākaraḥ // 221
 ity evaṃ taiḥ suraiḥ sarvaiḥ sāpsarobhiḥ pramoditaiḥ /
 samādiṣṭaṃ samākarma sā devī prābhyanandata // 222
 tataḥ sarve 'pi te devāḥ sahāpsarogaṇaiḥ mudā /
 tāṃ devīm dārakaṃ taṃ ca natvā tato divaṃ yayuḥ // 223
 tadā brahmā samālokya kūṭāgāraṃ tadāśrayam /
 ratnavyūhaṃ samādāya brahmaloke mudācarat // 224 ≈ L 73.6-13; H 420.6-13.
 tatra taṃ sampratiṣṭhāpya ratnavyūhaṃ praśobhitam /
 divyapūjopacārāṅgaiḥ samabhyarcya sadābhajat // 225 ≈ ibid.
 evaṃ sarve mahāvijñā munayo 'pi tapasvinaḥ /
 kūṭāgāraṃ taṃ abhyarcya praṇatvā sarvadābhajan // 226 ≈ ibid.
 tathānye 'pi surendrās ca ratnavyūhaṃ tadāśrayam /
 samabhyarcya mahotsāhaiḥ prābhajan sarvadā mudā // 227 ≈ ibid.
 tadaivaṃ samprajātaṃ taṃ samīkṣya mu[60b]ditā janāḥ /
 nṛpateḥ purato gatvā pādaḥ natvaivam abruvan // 228
 jaya deva mahārāja sidhyate te samīhitam /
 yan māyāyā mahādevyāḥ satputraḥ samprajāyate // 229
 divyātisundaraḥ kāntaḥ śubhalakṣaṇamaṇḍitaiḥ /
 sarvaprabhātiriktābhāḥ suviśuddhendriyāśrayaḥ // 230
 mahāpuruṣaratno hi sarvasattvahitārthabhṛt /
 sarvalokādhipo nāthaś cakravartī bhaved api // 231
 brahmaśakrādayo devāḥ samprajātaṃ samīkṣya tam /
 suprasannāśayāḥ sarve samādāya vavandire // 232
 tathā devīgaṇāḥ sarve sahāpsarogaṇair mudā /
 samprajātaṃ taṃ ālokya samāgatāḥ prabhejire // 233
 sarve lokādhipās cāpi samprajātaṃ samīkṣya tam /
 muditāḥ samupāśṛtya rakṣantaḥ prābhajan mudā // 234
 kim evaṃ bahunoktena sarvatra bhuvaneṣv api /
 maṅgalotsāhavādyāni nadanty asmin samudbhave // 235
 tad bhavān api bhūmīndra samupāgatya sāmpratam /
 ātmajaṃ taṃ mahāsattvaṃ samprekṣya samprasīdatu // 236
 iti niveditaṃ sarvais tair janaiḥ sa nṛpādhipaḥ /
 nīśamya suprasannātmā prābhyanandat pramoditaiḥ // 237
 tac chrutvā mantriṇo 'mātyāḥ purohitādaya dvijāḥ /

bhṛtyāḥ sarve janāḥ paurāḥ prābhyanandan pramoditāḥ // 238

iti me guruṇādiṣṭaṃ mayedānīm tathocyate /

tvam api ca sadā lokān saṃśrāvayitum arhasi // 239

yo 'py etad bodhisattvasya janmavṛttisubhāṣitam /

śrutvānumodito lokāñ chrāvayann anumodayet // 240

sa viśuddhāśayaḥ śrīmān bodhisattvo vicakṣaṇaḥ /

bhadrotsāhasukhaṃ bhuktvā prānte yāyāj jinālayam // 241

iti śāstrā samādiṣṭaṃ śrutvāśoko nṛpo mudā /

tatheti pratisaṃśrutya prābhyanandat sapārśadaḥ // 242

/ iti bodhisattvajanmaparivarto nāmāṣṭamo 'dhyāyaḥ samāptaḥ /

Apparatus criticus

Abbr. A = NGMPP A 123/5 [a ms of TJAM; = BauDV 51(87); 37 chps.; Newārī-lipi, paper]

B = NGMPP B100/2 [a ms of TJAM, = BSP ca266(3-14); 25 chps.; Devanāgarī, paper.]

D = NGMPP D43/4-44/1 (rephoto = E 1321/2) [a ms of TJAM; 35 chps.; Devanāgarī, paper.]

E = NGMPP A 123/3 [a ms of TJAM, = BauDV 294(88)]; 21 chps.; Devanāgarī, paper.]

Ed. = KURODA (1958) [the editio princeps of the chapter 8 of TJAM]

K = Kyoto ms. of TJAM used by Kuroda (1958) (= GOSHIMA & NOGUCHI, 66)

H = HOKAZONO's Lalitavistara edition, 1994

L = LEFMANN's Lalitavistara edition, 1902

TJAM = Tathāgatajanmāvadānamālā (= the so-called Padya-lalitavistara)

1ab °jña upagupto] A(post corr. int. lin.) Ed.: °jña upagupta B: °jñaḥ śākyasiṃho A(ante corr.).

1c aśokaṃ] A(post corr. int. lin.) B Ed.: ānandaṃ A(ante corr.).

4c śuṅgī°] Ed: suṅgī° AB. Cf. BHSD, s.v. śuṅgībhūta.

4cd bhṛṅgaiś ca vyāptāni] Ed.: bhṛṅgai pa vyāptāni (or bhṛṅgopavyāptāni?) A: bhṛṅgopi vyāptāni B.

4d na] A: ca B Ed.

5d kuṭmalī°] AB : kundalī° Ed. Cf. BHSD, s.v. kuṭmalībhūta.

6cd °pannā na phalanti] AB: °pannās te phalanti Ed.

7b mahītalāt] A: mahitalāt B Ed.

7c nidhānānām] A: nidhārnānā B: nidhānām Ed.

7d viṃśallakṣa°] A: viṃśalakṣa° B Ed.

7f aṅkulāḥ] A: aṅkurāḥ B: aṅkurāḥ Ed. || prodgatā] AB: prodgatām Ed.

8a sugandhataila°] A: sagandhataila° Ed.(as KURODA's conj. for K): sugandhatela° K.

8ab °bhyasamvāsītās] A: °bhyasuvāsītās] B: °bhyam samvāsītās Ed.

8c sugandhi°] AB: sagandhi° Ed.

10b nadanto 'pi] A: nadako 'pi B: nedur api Ed.

10d kaṃcin] A: kaścin B: kāṃś cin Ed.

11b samāgatya] A: samāgabhya B: samāgātya Ed.

11c pādābje] AB: padāmbuje Ed.

12b samāgatāḥ] AB: samāgtāḥ Ed.

12cd rājñāḥ svāntaḥpurot°] AB: rājño 'ntaḥpura ut° Ed.

13c pūjopahārāṇi] AB: pūjopacārāṇi Ed.

14b daśākāśa°] AB: daśākāśe Ed.

14d samupatasthur] A: samupatasthar B: gagane tasthur Ed.

15c puram] AB: puraḥ Ed.

17c °patākādīn] B: °paṭākādīn Ed. : °patākānī A.

19d °ābhiprāvahaṃs tadā] ≈ °ābhiprāvahan_<<s tadā>> A: °ābhiprāvahans tadā BK: °ātiprāvahans tadā Ed.(as KURODA's conj. for K).

20b jyotīṃṣi] A: jyotiṃṣi B: jyotiṃsi Ed.

21b mahīpateḥ] A: mahipateḥ Ed.

21d °m aśobhata] A: °m aśobhataḥ B: °ṃ viśobhitam Ed.

21e nātijajvāla vahniś] A: vātijajvāla vahniś B: nābhijajvāla vahiś Ed.

21f yajñāsastrā°] ≈ yajñasastrā° A(marg.)B: yajñamantra° Ed. This pāda f is written in the margin of A (prima manu).

22c maṇisraglambamānās ca] AB: maniratnapralambās ca Ed.

22e samjātā] A: samjātāḥ B: samjājñū Ed.

22f] after 22f A(seconda manu!) adds the following pādas in the margin: sarvālankāragañjās ca samudbhūtā virājitāḥ. B and Ed. also have the same pādas.

25a °pradeśās] AB: °pradeśās Ed.

25b babhūvur] A: babhūva B: ca abhuvur Ed.

25c °vīthikā°] A: °vīthikāḥ B: °pīthikā° Ed.

25d °śṛṅgāṭa°] A: °śṛṅgoṭa° B: °śṛiṅgāṭa° Ed.

25f āsamś ca] AB: āsañ ca Ed.

26b °sūvata] Ed. (m.c.; = °suvata): °sunvata AB.

26cd] both cd are written in the margin of A(prima manu!).

26d kāścid] Ed. : kācid AB.

27ab drumāsīnāḥ sarvās] Ed. : drumāsīnā sarvās A(post corr.) : drumāsīnāsaktaś A(ante corr.) : drumānā sarvās B.

- 27c namasyantyaḥ] corr.: namasyantyaḥ A: namasyantya B: namasyantas Ed.
- 27d khe 'rdhakāyikāḥ] A Ed. (one syllable short): khe ardhakāyikāḥ B (Sandhi!).
- 28d nṛpāśrame] A: purāśrame Ed.
- 29c saṃharṣa°] A: saharṣo° Ed.
- 29d saṃsthito] A: sa sthito Ed.
- 30b vismayaharṣitāśayāḥ] B Ed.: vismayaharṣitā<<śayā>>ḥ A.
- 31a atha] AB: tataḥ Ed.
- 31b tatsannimitta°] AB: tatsanimitta° Ed.
- 31c matvā°] AB: matrā° Ed.
- 31d mahānanda°] AB: mahānaanda° Ed.
- 32d sampaśyanty e°] A: sampaśyann e° B: sampaśyaty e° Ed.
- 33d anugrahītum] AB: anugrhitum Ed.
- 34b *rantum] ex con: ramitum AB Ed. (hypermeter!).
- 34d anujñāṃ] AB: anujñāṃ Ed.
- 35b tapasvivaj] AB: tapasviva Ed.
- 35c °sādhano°] AB: °sadhāno° Ed.
- 38d rantum] Ed.: ramitum AB (hypermeter!).
- 37b praphulla°] A: praphalla° B: susthānu° Ed.
- 38ab °saṃrāvavarhi°] AB: °saṃrāvavarhi° Ed.
- 38b °vilāsanaiḥ] AB: °vilāsanah Ed.
- 38c manohare] AB: mahodare Ed.
- 39b kṛpānu[r]āgato(?ā?) mayi] A: kṛpānurāgatā mayi B: kṛpānurāgitām api Ed.
- 39d *bandhetum] ex con: bodhetum Ed.: bādhayitum A: bodhayitum B (hypermeter!).
- 40d māyāṃ paśyaṃs tathety anandayat] A: māyāṃ paśyaṃs tathebhyanandayat B: māyāni paśyan tuṣṭo 'bhyanandayat Ed.
- 41a rājā] AB: rāja Ed.
- 41c amātyān] AB: āmātyān Ed.
- 42a amātyā] AB: āmātyā Ed.
- 42d lumbinī°] A: lumbibī° B: lumbimī° Ed.
- 43a gatvā tatra] AB: tatra gatvā Ed.
- 45d viṃśateḥ] AB: viṃśatiṃ Ed.
- 46b bhaṭān] B: bhāṭān A: bhadrān Ed.
- 46c sahasrāṇāṃ] AB: sahasrāṇi Ed.
- 46d viṃśatīr jayamāninaḥ] A: viśatīr yamamāninaḥ B: viṃśatiṃ jayanāni ca Ed.
- 47a catur°] AB: catūr° Ed.

- 47d māyāyāṃ] A: māyāyāḥ B Ed.
- 48a mayākhyātāṃ] AB: mayākhyātāṃ Ed.
- 48b vidhīyatu A: vidhāyata B: vidhāyatha Ed.
- 49cd °modantas tathā kartuṃ] AB: °modantas kartuṃ Ed.
- 50b vidhīyate] A: vidhāyate B Ed.
- 50c mantrijanā] AB: mantriṇo Ed.
- 51cd °jā āmantry°] corr.: °jāḥ āmantry° AB: °jās cāmantry° Ed.
- 53b niveditaṃ] AB: nireditaṃ Ed.
- 57b ānanditāni ca] AB: ānanditāni Ed.
- 58a mahiṣyāpi] ≈ mahiṣyāpi A: mahīvyāpi A: mahṣyā Ed.
- 61b analpakāḥ] ≈ ana<<lpa(?nya?)>>kāḥ A: anekaśaḥ B Ed.
- 62b °mahadravaḥ] sic A Ed. : °sabhadravaḥ B.
- 64c ghaṇṭa°] AB: ghaṇṭā Ed.
- 65d saṃstāritaṃ] AB: saṃskṛtam Ed.
- 66a catvāro] AB: catvaro Ed.
- 69d saṃstutvā°] A: sastutvā° B: saṃstutyā° Ed.
- 75d] after 75d A(seconda manu?) adds the following stanza in the margin: śa<ñ>khaṃ dadho hṛṣīkeśo bhūteśo 'pi triśūlabhṛt / dvāristhavad daṇḍadharah purato mudito 'carat //. This stanza is lacking in B, but Ed. has the same stanza (with vv.ll.: śaṅkhaṃ dhṛtvā [...] dvāristhaś ca daṇḍadhārah).
- 77a tad dṛṣtvā sa mahīndro 'pi] A: tad dṛṣtvā sa mahendro pi B: tat prabhāvam nṛpo dṛṣtvā Ed.
- 78a yato] AB: yat tau Ed. || °marendro 'pi] AB: °marendrau ca Ed.
- 78c kurvate 'sya mahatsevāṃ] A: kurvatasya mahatsevāṃ B: sma maham sarvāṃ Ed.
- 78d pūjāmaho°] AB: pūjām maho° Ed.
- 80a sadṛśaḥ] AB: sādṛśaḥ Ed.
- 80b bhuvaneṣv] AB: bhavaneṣv Ed.
- 80c brahmeśasu°] Ed.: brahmasu° AB (one syllable short).
- 80d sarve] A: sarva B Ed.
- 82b sarve] AB: serva° Ed.
- 84c °rayātisaṃ°] A: °cayātisaṃ° B: °vegābihsam° Ed.
- 88a °sahasraiś] AB: °sāhasraiś Ed. (metre!)
- 89c jñātivargaiḥ] sic AB Ed. (ra-vipulā!)
- 89d madhyama°] A: yadhāma° B: varāṅga° Ed.
- 92b hayāsyānāṃ] A : hayā..mā B: hayasthānām Ed.
- 93c kurvantībhīr asaṃkhyābhiḥ] AB: aprameyair asaṃkhyeyaiḥ Ed.

- 93d parivr̥tā] AB: parivr̥tya Ed.
- 94b bāndhaveṣṭa°] Ed. : bāndhavaṣṭa° AB.
- 96d miśrakāvanam ivākṛtaṃ] A (hypermeter!): miśrakāvanam itākṛta B: miśrakavanam vā kritam Ed.
- 97b māyā°] AB: māya° Ed.
- 99b pramoditā] AB: pramsditā Ed.
- 99d plakṣavṛkṣam] A: pṛkṣavṛkṣam B: plakṣam Ed.
- 100b °patra°] AB: °pada° Ed.
- 100c supuṣpa°] AB: sapuṣpa° Ed.
- 101a nānāsuraṅga°] AB: nānāsusaṅga° Ed.
- 101b °kāralambitam] AB: °kārābhimaṅḍitam Ed.
- 101d °vṛkṣābhīsobhitam] sic AB Ed. Read °vṛkṣ*ābhaśobhitam or °vṛkṣ*ātīsobhitam?
- 102a śuddhe] AB: śubhe Ed.
- 102b haritṭṛṇa°] A: haritbhṛṇa° B: haritṛṇa° Ed.
- 102d adhiṣṭhāne °bhisamsthitam] AB: adhiṣṭhane abhisthitam Ed.
- 103b pariśuddhaśubhāśayaiḥ] A: pariśuddhe śubhāśayaiḥ B: pariśuddhāśayaiḥ Ed.
- 105c dhṛtvā] AB: dṛṣṭvā Ed. || kham ālokya] AB: samālokya Ed.
- 106c ṣaṣṭyapsaraḥsahasrāṇi] A (this pāda c is written in the margin): ṣaṣṭāpsaraḥsahasrāṇi B: sarvā apsarāsaḥ tasyā Ed.
- 108a tadā] Ed.: evaṃ AB.
- 109a puṣyarkṣa] AB: puṣyārḥṣa Ed.
- 109b rākāyāṃ] A: rākānyāṃ B: rātriyāṃ Ed.
- 110b susaṃsmṛtaḥ] AB: susmṛtaḥ Ed.
- 111-112] A has the stanzas 111-112 in the margin (prima manu of A!). B, D, E and Ed. have the same stanzas in body text.
- 111b tad abhavad āśu nirvraṇam] A: tavad āśu nirvraṇam B: tad abhavad nirvraṇam Ed.
- 112a uruvaḥ] Ab: auruvaḥ Ed.
- 113d vyañjana°] AB: vyañjanaiḥ Ed.
- 114a śuddhāṅgaḥ] A: śuddhāṅga Ed.
- 114c °tiriktābhō] A: °tiraktābhā Ed.
- 115b brahme°] A: brahma° B: bahrme° Ed. || samupāsṛtau] AB: samupāsṛitau Ed.
- 117b abhūn] AB: adhūn Ed.
- 117c tatra saṃjātamātro] AB: tara saṃjātamātre Ed.
- 118a °nandanāgendrau] AB: °nandau nāgendrau Ed.
- 118b mudākāśa°] AB: mudākāśam Ed.

- 118c °dhārābhyaṃ] AB: °dhārādhyam Ed.
- 120c khagatā devāḥ] AB: khegatā devās Ed.
- 120d abhinandire] AB: adhinandire Ed.
- 121b sudhāṃśugaurasatprabhe] AB: śuddhāṃśugaurasuprabhe Ed.
- 121d ambare] AB: amdare Ed.
- 123d sarvatrāpi vyalokayat] AB: sarvatra divyacakṣuṣā Ed.
- 124a tato 'paśyan sa] AB (without avagraha) : na paśyann atra Ed.
- 124b °samādhikam] A: °samānikam Ed.
- 125] this stanza is written in the margin of A(prima manu). B, D, E and Ed. have the same stanza in body text.
- 125a mahābalaṃ] AB: mahādalaṃ Ed.
- 125c vajramayāṃ] A: vajramayī B: vajranibhāṃ Ed.
- 125d adhyatiṣṭhan nirantaram] AB: adhyatiṣṭhan miantaram Ed.
- 126a siṃhavan nirbhī] AB: siṃhavijṛṃbhī Ed.
- 126c prācīdik] AB: prāgvidik Ed.
- 126d bhuvī prākraman] A: bhuvī prākramat B: dhuvī prākramat Ed.
- 128a cāmare] B Ed.: cāmale A.
- 128d anugacchanti] AB: anugacchantaḥ Ed.
- 129b buddhān] AB: duddhān Ed. || anusmaran] B Ed.: anusman A.
- 129d saṃsmīta] AB: saṃsmṛta Ed.
- 131b devā] AB: deva Ed.
- 131c samīkṣya] AB: samīhya Ed.
- 132a tataḥ] B Ed.: tato A.
- 132b abhimukhaḥ] AB: adhimukhaḥ Ed. || °caran] AB: °carat Ed.
- 132d buddhān] AB: bnddhān Ed.
- 133a bhavyāhaṃ] AB: bhuevyāhaṃ Ed.
- 133d sarvataḥ] AB: ssvataḥ Ed.
- 134a kāṣṭhām] A: kāṣṭām B Ed.
- 134b abhimukhaḥ] corr.: abhimukha AB: adhimukhaḥ Ed.
- 134c prakrānto] A: prakrāntā B: prākramya Ed.
- 134d jinān] AB: buddhān Ed. || smṛtvaivam] AB: smṛtvairam Ed.
- 135a jātir] A: yāti B: jatir Ed.
- 136a tataḥ sa cotta°] Ed.: tataś cotta° AB (metre!).
- 136b abhimukhaḥ] corr.: abhimukha AB: adhimukhaḥ Ed.
- 136c prakrānto] A: prakrāntā B: prākranato Ed.

- 137c arhan sambodhim] AB: saṃyaksambodhim Ed.
- 137d nirvṛtiṃ] A(post corr.) Ed.(as KURODA's conj. for K): nervṛtiṃ A(ante corr.): nairvṛtiṃ BK.
- 138b prākraman] A: prākran B: prākruan Ed.
- 139c duḥkhāgnīn] AB: duḥkhāgniṃ Ed.(as KURODA's corr.): duḥkhāgni K || praśamiṣyāmi] AB: prasariṣyāmi Ed.
- 140a tata ūrdhva°] A: tata rddha° B: tataś cordhvām Ed. || paśyan] B Ed.: paśya A.
- 140b prākraman] Ed.: prākṛāman AB.
- 141c °mārgē] AB: °mārgaṃ Ed.
- 142a prabhāṣitaṃ] AB: samīhitaṃ Ed.
- 142d samīkṣya tam] AB: samīngitam Ed.
- 143c samīkṣya] AB: samīhya Ed.
- 144b sarve] AB: sarva Ed.
- 144d samīkṣya] AB: samīhya Ed.
- 145b sābdhisarva°] AB: sābdhī sarva° Ed.
- 145c sarvāṇi] Ed.: om. AB.
- 146a prasedire] A: prasedireḥ B: prasāditaḥ Ed.
- 146b papāta] AB: prapāta Ed.
- 147a sarve drumāś] AB: sarvadrumāś Ed.
- 148a °maṇḍita°] AB: °mandita° Ed.
- 150c °sukhāpannā] AB: °sukhānnā Ed.
- 150d babhūvur] AB: habhuvur Ed.
- 151d babhūvur] AB: babhuvur Ed.
- 152b paripuṣṭendri°] Ed.: paripuṣyendri° AB || °āśrayāḥ] AB: °āśayāḥ Ed.
- 153d sumānasāḥ] AB: sukhāśayāḥ Ed.
- 154d āśrayam] AB: °āśrayāḥ Ed.
- 155c bandhyā] Ed.: badhyā AB || bandhana°] ≈ baṃdhana° AB: bandhyatva° Ed.
- 155d duṣṭāś] AB: dustāś Ed.
- 156a nārakīyānāṃ] corr.: narakīyānāṃ Ed.: nārakīyāṃ ca AB.
- 156d vyupaśāntaṃ mithobhayam] AB: yamalokanivāsinām Ed.
- 157c kṣutpipāsādi] AB: kṣutpipādi Ed.
- 157d praśāntāny] AB: praśāntāni Ed.
- 158a nāsī] AB: nāsti Ed.
- 158b kaścana] Ed.: kaścanaḥ A: kaścaraḥ B.
- 160c lubdho] A: lubdhā B: bubdho Ed.
- 161d mānasah] AB: mānash Ed.

162b vyāpādadurmatir na ca] corr.: vyāpādadurmatī na ca Ed. (dual!); na vyāpādadurmatih <<kudhīh>> A (hypermeter; kudhīh is written in the margin); na vyādadurmatih B.

162c śaṭho] AB: śaṭho Ed.

162d ca kaścana] AB: ca na Ed.

163a duḥśīlo] AB: duḥśilo Ed.

164a āsaṃs] ≈ āsans AB: āsan Ed.

164b °āśrayāḥ] AB: °āśayāḥ Ed.

164c °ṇendriyā] AB: °ṇendriya Ed.

165b daśakuśala°] A Ed.(as KURODA's corr.): daśakula K: daśakuśara° B.

166b °sādhanodyamāḥ] AB: °sadhānodyamāḥ Ed.

168a sarve bhavallokā] A: sarve bhavaṃllokā B: bhava bhavalokā Ed.

168b devadaityanarādayaḥ] AB: narādayaḥ Ed.

168c tiryāñco] Ed.: tiraśco AB.

169a bhautikaṃ] AB: bhāntikaṃ Ed.

169c itayo] AB: itayo Ed.

169d kiṃcid] Ed.: kiṃcit A: kiścit B.

170a vetādā] AB: vetālā Ed.

170b piśācakāḥ] AB: picācikāḥ Ed.

171ab] the pādas ab (“kumbhāṇḍā rākṣasās cāpi guhyakā dānavā api”) are written in the margin of A (prima manu). Also E and Ed. have the pādas ab in body text. But in B and D these pādas are lacking.

171d cakrur viheṭhanām] AB: cakrire hethanām Ed.

172a tatpuṇyasamprabhāspr°] B: tatpuṇyasumprabhāspr° A: tat samprabhāspr° Ed.

172d mahotsāhaiḥ] AB: mahotsahaiḥ Ed.

173a ḍākinyo] A: gakinyo B: dākinyo Ed.

173b vetādā] A: vetālā Ed.: om. B || bhairavādayaḥ] Ed.: bhairava....(two akṣaras uncertain) A: om. B.

173c grahā gaṇāś] Ed.: om. AB. || cāpi] corr.: cśpi Ed.: om. AB.

173e tatpuṇyādīdhiti°] AB: tatpuṇyādīdhiti° Ed.

173f °sprṣṭā babhūvur] AB: °sprīṣṭā babhuvur Ed. || maitra°] AB: maitrya° Ed.

174a samīkṣya] AB: samīhya Ed.

175c sprṣṭā] AB: sprīṣṭā Ed.

175d babhūvuḥ] AB: babhuvuḥ Ed.

176a samīkṣya] AB: samīhya Ed.

177b rākṣasī°] AB: rakṣasī° Ed. || °samyutā] AB: °samyuktā Ed.

- 177c jagannāthaṃ] AB: jagannathaṃ Ed.
- 178a yakṣiṇī] AB: yakṣaṇī Ed. || mātā] Ed.: mātāḥ AB.
- 179c vanditvā] AB: venditvā Ed.
- 179d sadāśritā] Ed.: sadāśritāḥ A: sadādaśat B.
- 180b vajrapāṇir] A: vajrapāṇi B: vajrapaṇir Ed.
- 181c vanditvā] AB: venditvā Ed.
- 181d °rakṣan sadādarāt] A: °rakṣa sadādarāt B: °rakṣat sadācarāt Ed.
- 182a °rddhikāḥ] AB: °rddhikaḥ Ed.
- 183a sarvatra lokāś] AB: sarvatrilokaś Ed.
- 183c samutpattiṃ] Ed.: samutpatiṃ AB.
- 183d °nandan prabodhitāḥ] AB: °nandapramoditāḥ Ed.
- 184d prāvartata] A: prāvarttate B: prāvartate Ed.
- 185c °sphuṭāni śuddhāni] B: °sphuṭāni{{vi}}śuddhāni A: °sphuṭābhiśuddhāni Ed.
- 187b °niḥsvanāḥ] AB: °nisvanāḥ Ed.
- 187c puṣpagandha°] sic AB Ed. (ra-vipulā).
- 187d bhūṣaṇāny api] AB: bhūṣāny api Ed.
- 189a asmiṅ] A: tasmiṅ B: atsmiṅ Ed.
- 189d māyāṃ devīm] A: māyādevī B: māyādevīm Ed.
- 190b sarvās tā] A: sarvās tāṃ B: sarve te Ed.
- 190c pacāraiś ca] Ed.: pacāraissa° AB.
- 190d suvastra°] AB: suvastratra° Ed.
- 191a taṃ] AB: te Ed.
- 191c kaccit] A: keccit B: kiṃ cit Ed. || bhadra] corr.: bhadre AB: bhadram Ed.
- 192b devyaḥ sahā°] A: devāḥ B: devyo mahā° Ed.
- 192c °vana āgatya] AB: °vanam āgatya Ed.
- 194b tvayā] AB: ātvayā Ed.
- 194c ca te] AB: tu te Ed.
- 194d āgatāḥ] AB: āgataḥ Ed.
- 196b tavātmajo] A: tavātmajā B: tvam ātmajo Ed.
- 196c vipaddhantā] AB: vyādhīnām Ed.
- 197c praphullapuṣpitāḥ] AB: prasphuṭapuṣpitaḥ Ed.
- 198c tan nūnan] A: tennutanaṃ B: tan mūnan Ed.
- 198d mahāsattva°] ≈ mahāsatva° AB: mahāsattra° Ed.
- 199b samavabhāsītāḥ] AB: samavabhūsitāḥ Ed.
- 199c aghaṭṭitāny api] AB: aghaṭṭitāni Ed.

- 200b °sādayo 'mbare] ≈ °sādayombare AB: °sādyo 'mbave Ed.
- 200d vīkṣya] AB: vījye Ed.
- 202b viniḥṣṛtaṃ] A: vintisṛtaṃ B: viniḥṣṛitaṃ Ed.
- 203b ādhipaḥ pra°] A: ādhipapra° B Ed.
- 203cd mahābhijño munīśvaro] AB: munīśvaro muniśvaro Ed.
- 205c mahāvīrya°] AB: mahāvīryaḥ Ed.
- 206a cainaṃ] B Ed.: caunaṃ A
- 206b viyadgatau] A: vipadgatau B: viyagatau Ed.
- 206d *saṃsnāpayata] ex conī: snāpayata AB (one syllable short): sunāpayata Ed.
- 207d enam] AB: evam Ed.
- 208ab viyadyātā ālokyai°] AB: viyadgatās cālokyai° Ed.
- 208c °śuddha°] AB: °sudha° Ed.
- 208d °snāpayanti] AB: °snāpayata Ed.
- 209c bhadrāśrī°] AB: bhadrāḥ śrī° Ed.
- 210] after 210b A(seconda manu) adds the following pādas in the margin: daśaśatasahasrāṇi pūrṇakumbhāni cāmbare /. These additional pādas are lacking in B, D, E and Ed.
- 210d prakrānti] A Ed.(as KURODA's corr.): prakrāntāmatī K: prakāntī B.
- 212b *jyeṣṭhaḥ] ex conī: draṣṭuṃ AB: draṣṭā Ed. || svātmasamādhikaḥ] Ed.: svātmasamādhikaṃ AB.
- 213d sarvavidyādhīpo] AB: sarvidyādhīpo Ed.
- 214c jyeṣṭho] AB: śreṣṭho Ed.
- 215a dakṣiṇām diśam] AB: dakṣiṇadiśam Ed.
- 216a uttarasyāṃ] AB: uttarāṃ Ed.
- 216b vināyako] A: vināyakā B: vinayako Ed.
- 217b sarvān pāpān] Ed.: sarvā pāpān AB.
- 217d āpnuyām] AB Ed.(as KURODA's corr.): āpnuyāt K.
- 218b] the pāda b (sarvā diśa udāhṛtam) is written in the margin of A (prima manu?). B, D, E and Ed. have the same pāda in body text.
- 218b udāhṛtam] AB: udāhṛitam Ed.
- 218cd] the words sarvalokānāṃ jyeṣṭho dakṣo vināyakaḥ are written in the margin of A (prima manu!). B, D, E and Ed. have the same words in body text.
- 220c pratiṣṭhāpya] AB: pratisthāpya Ed.
- 220d nirvṛtim] A: nivṛtim B: mivṛtim Ed.
- 221a pariñāya] AB: pariñāpya Ed.
- 221b °devi] A Ed.(as KURODA's corr.): °devī BK || prasīda tat] AB: prasīdata Ed.

- 221d labdhas] AB: ladhas Ed.
- 222a sarvaiḥ] AB: om. Ed.
- 223a tataḥ] Ed.: tatas AB.
- 223b sahāpsaro°] B Ed.: sāpsaro° A.
- 223c tāṃ] AB: taṃ Ed.
- 224d mudācarat] AB: samācarat Ed.
- 225a °tiṣṭhāpya] AB: °tisthāpya Ed.
- 227a surendrās] AB: sarvendrās Ed.
- 228a samprajātaṃ] AB: samprajātm Ed.
- 228c pādau] AB: pādān Ed.
- 229a mahārāja] A: mahārājā B Ed.
- 230b śubhalakṣaṇa°] AB: sarvalakṣaṇa° Ed.
- 231a °ratno] AB: °ratnaṃ Ed.
- 231b sarvasattva°] ≈ sarvasatva° AB: sarvasatta° Ed.
- 231c nāthaś] Ed.: nātho AB.
- 233b sahāpsaro°] AB: sahāpraro° Ed.
- 234c muditāḥ] AB: muditaḥ Ed. || samupāsṛtya] A: samupāsṛitya B Ed. (Cf. 115b samupāsṛtau A.)
- 235a kim evaṃ] AB: kim eva Ed.
- 235c maṅgalo°] AB: maṅgalo° Ed.
- 237a niveditaṃ] AB: nivedtaṃ Ed.
- 237ab sarvais tair janaiḥ sa] A: sarvais taṃ janaiḥ sa B: sarvair janais taiḥ sa Ed.
- 237d prābhyanandat] A: prātyanandat B: prābhyanandat Ed.
- 238a chrutvā] AB: chsutvā Ed.
- 238c bhṛtyāḥ] AB: te 'pi Ed.
- 239a me guruṇādiṣṭaṃ] A: mama purākṛtyaṃ B: me guruṇādistaṃ Ed.
- 239b mayedānīṃ] A: mayamdānīṃ B: śrutvā Ed.
- 239d arhati] AB: arhasi Ed.
- 240b °vṛttisubhāṣitam] AB: °vṛttiṃ subhāṣitam Ed.
- 240cd °numodito lokāñ chrāvayann anumodayet] A: °numodito lokāñjovayann anumodayat B: °numodya lokāṃś ca śrāvayitvānumodayet Ed.
- 241b bodhisattvo] AB Ed.(as KURODA's corr. for K): bodhisattva K.
- 242b °ānando yatir] A(prima manu)B: śrutvāśoko nṛpo A(marg.): śrutvāśoko nṛpaḥ Ed. || mudā] AB: sudhīḥ Ed.
- 242d sapārśadaḥ] AB: saparśadaḥ Ed.

(Colophon:) iti bodhisattva° A(ante corr.): iti śrīlālitavistare bodhisattva° A(post corr. marg.)B
Ed. || samāptaḥ] AB: om. Ed.

TJAM 第8章 『菩薩誕生品』和訳 (全訳)

かの大通知者・阿羅漢・大智慧者であるウパグプタは、かの大士アショーカをみつめて、次のように語りました。— [1]

それから [しばらくして] 世界を保持する者たる、かの菩薩の誕生の時が近づいた時、浄飯王の住まい・遊園・森・園林・池において、至る所で、三十二の瑞兆が次々に現れました。[2-3]

すべての園林においてあらゆる花々は蕾をもち (śuṅgībhūta)、蜜蜂たちに満たされましたが、開花することはありませんでした。[4] すべての河や湖や池においても、蓮華、紅蓮や青蓮などの花は蕾をつけて (kuṭmalībhūta) [そのまま無開花のままで] いました。[5] すべての果樹も大地から生え出て、蕾 (kṣāraka) をつけましたが、どこにも果実をつけることはありませんでした。[6] 八つの宝樹が大地から出現しました。また二億のあらゆる宝蔵が出現しました。内宮において様々な宝石による若枝が (aṅkula) 出現しました。[7] 至る所で、香しい塗油の芳香によって好い匂いをつけられた水路が、香しい冷水・温水を流しました。[8]

ライオンや虎の子が、ヒマラヤから出て来ました。嬉しげにかの都城を右邊して、坐りました。[9] 門のところにとどまり、大きな吠え声を響かせ、好きなように動きまわりましたが、誰も傷つけませんでした。[10] 五百の象の仔がヒマラヤから出て来て、浄飯王の蓮のみ足に鼻先で触りました。[11]

腰帯を (mekhalī) 締めた神々の子らが、王の親族や内宮の [女たちの] 膝に追いつきながら、来ました。[12]

虚空を飛ぶ、体の半分を出現させた龍女たちが、天の供養の食事を持って、頭を下げて、立ちました。[13] 虚空に居る数万の龍女たちは孔雀の飾りをつけ、お辞儀して、控えていました。[14]

いっぱい満ちた一万の水壺が、虚空を飛遊しました。都城を右邊 [の礼] をしつつ、廻るのが見られました。[15]

虚空の数万の天女たちが、香水を満した水差しを頭に載せて、待機しました。[16] 虚空に居る一万の天女たちが傘蓋と幢幡と旗などを持って、お辞儀して、控えました。[17] 天空に集まり来た数万のアプサラスたちはトゥーリヤ [楽器] や合奏諸楽器をもって、近くに控えました。[18]

あらゆる風が吹かず、静止しました。すべての河や泉が流れを止めました。[19] 月 [の天宮] や日の天宮、曜星や [様々な] 天体や星辰は、菩薩の誕生を見ることを欲して、動きませんでした。[20]

[月と] プシュヤ星宿が合しました。王の宮殿は宝石の網に覆われて、綺麗に整えられ、輝きました。火は祭祀と讃詠の祠堂において燃え立つことはありませんでした。[21]

すべての重閣・高樓・塔門においても、宝石の鎖が垂れ下がり、飾られて、輝きました。綿布の蔵と宝石の蔵と [種々の] 妙衣が生じました。[22]

カラス・鷲・アオサギ・梟・鳶などの罪深い鳥の、また驢馬・狼・山犬などの声が、その時に消えました。[23] よい性質の鳥や生き物たちの鳴き声が響きました。すべての場所で [人々の] 仕事は停まりました。[24]

大地のすべての地所は柔軟になり、平らになりました。道・通り・車道・三叉路などの地面は、あらゆる花々が撒かれて、平らで柔軟になりました。[25]

すべての妊婦は安楽に出産しました。[彼女たち] すべては強壯な感官 [の体] をもち、誰も病気になることはありませんでした。[26]

すべての林の樹に居るすべてのデーヴァター（精霊）たちも、菩薩を拝礼しつつ、虚空に半身を現して、立ちました。[27]

以上の、菩薩の誕生時の三十二瑞兆が王の宮殿に現れました。[28]

この [瑞兆の出現] を見て、大臣・家臣・市民と共に、かの王は歡喜と驚愕に圧倒された心で居りました。[29] あらゆる人々は、これを見て、驚きつつ歡喜した心で、「どうしてこのような驚異なる事が生じたのだろうか」と言って、右往左往しました。[30]

その時かの大妃はそれらが好い前兆であることを見て、息子の誕生を思い、大きな喜びをもって悦んで、夜の初更に、夫である淨飯王のもとに来て、合掌し拝礼し、正視しつつ次のように語りました。[31-32] 「大王様、お聞き下さい。私の願いを申し上げますので、それをあなた様は鋭敏な眼で [よく] 見られて、ご許可を賜りますように。[33] 今、園林を遊樂したいと願っております。もしあなた様に煩いになることがありますませんでしたら、お許しを私にお与え下さい。[34] まるで苦行者のように感官を統御なさっているあなた様も、正法成就の喜びを楽しまれつつ、園林にお遊びください。[35] 大王様、私は大威神力ある清浄な本性の方を懐妊しておりますが、今は園林に遊びたいと希望します。[36] 今、すべての樹々は、満開の花々に飾られて、まるで天界の園に生じる如意樹のように見えるであります。[37] 今、蜜蜂 [の唸り] やコーキラ鳥の鳴き声、また孔雀の舞の優美さによって楽しい大園林に遊びたいと存じます。[38] わが主、王よ、あなた様が情愛によって情けの心を私におもちでしたら、どうかその事の御許可をお与えくださり、私にお心をお向けください。」[39]

このようにマーヤー大妃が請願するのを聞いて、かの浄飯王はマーヤーをみつめつつ、「そのとおりにしなさい」と〔言って〕喜びました。[40]

それから王中の王であるかの浄飯王は大臣・参事官・家臣たちを招集して、次のように命じました。[41] 「大臣・参事官・家臣たちよ、私の言葉を聞きなさい。お前達は皆集まって、すぐにルンビニー林に行きなさい。[42] かの園林に行き、至る所を掃除して、天界における厳飾されたナンダナ〔園〕のように、装飾しなさい。[43] 雲の色をした、発情期の足どりをもつ六本の白い牙をもつ二万の象を準備しなさい。[44] ムンジャ草のようなたてがみをもち、真っ白で、風の速さをもち、清浄な行いをなす二万の馬を準備しなさい。[45] 將軍に率いられた、戦に熟練し、大勇猛な、勝利を誇りとする兵士たち二万人を準備しなさい。[46] 四兵種の軍とともに全方角を取り囲み、かの林でよく護るため、お前達はマーヤーのもとに立ちなさい。[47] 〔今〕私が告げたように、そこに〔行って〕すべてを実行しなさい。速やかに〔私のもとに〕来て、私の前でお前達は報告しなさい。」[48]

以上の王の命令を聞いて、彼ら大臣たちは『かしこまりました』と承諾しながら、その通りに実行するために林に赴きました。[49] そこに行つて、すべてが命じられたように実行されました。参事官たちや家臣たちは皆王のもとに集まり来ました。[50]

〔王の〕足を拝してから、正視しつつ前に出ました。〔悦びによって〕明るい蓮の容をもつ彼らは、挨拶をしてから、次のように報告しました。[51] 「陛下、万歳！お命じのとおり、すべてを遂行しました。それゆえ、陛下はすぐに来られて、かの地をご覧になって下さい。」[52]

このようにすべての大臣たちから報告を聞いたかの浄飯王は、悦んだ顔で、「そうしよう」と告げました。[53]

それからかの王は主人として嬉しげに内宮に入り、すべての女たちを呼び集めて、その前で次のように告げました。[54] 「さあ、すべての愛する女たち、私の言葉を聞きなさい。それぞれお化粧をして、自らを装飾品をもって飾りなさい。[55] お前たちは皆、歌舞音曲〔の小道具〕を伴った、あらゆる心に快い楽器を持って、ルンビニー園に出発しなさい。[56] あらゆる人々の心を歡ばせなさい。〔われらの〕とても大きな喜びを見て、神すらも羨むほどに。[57] 私の妃マーヤーと一緒に車に乗る女たちは、とても愛情深く、やさしい気持ちをいただき、心悦ぶ者としてありなさい。[58] 車の座席に坐る他の美しい女たちは、マーヤー妃を連れて、ルンビニー園に案内しなさい。[59] ここ（今）からは、不快なことや吉祥ならざることは抑止しなさい。めでたさと光輝と大歡喜を伴つて、ルンビニー園に行きなさい。」[60]

多くの馬と象と車と立派な軍隊が集まって、王宮の門のところに来たその時、そこでまるで動乱する海の〔音の〕ような、とてもめでたい大歡喜の大きな音声が空中から発せられました。[61-62]

嬉しげな容の大妃マーヤーが善き侍女たちを伴って、園林に行くために門に近づくと、その時、そこで大妃の安寧の祈願のために、歓喜したかの人々によって、数十万の鐘が打ち鳴らされました。[63-64]

その最高の車は、王によってきらびやかに飾られました。神々しい宝石の座席が、神々によって嬉しげに敷設されました。[65] 枝や葉の美しい、天の香りがする花々に満ちた四本の宝樹が、[車の] 四隅に生え育ちました。[66] [その車は] 宝石の鈴の網と、香を薫き込めた天衣をもって覆われて、インドラ神のヴィマーナ（空中浮揚車）のように飾られました。[67] その[車]には傘蓋・幢幡・旗が上に立てられ、鸚鵡やハンサ鳥や孔雀が喜んでその上を飛び回りました。[68] 神々の娘たちがその最高の車を見て歓喜し、空中に浮かんで仔細に眺めつつ、ほめそやしながら讃歎の声をあげました。[69] そして清らかな感官をもつ輝かしい大妃マーヤーは、欣然とその最高の車に乗り、獅子座に坐りました。[70]

その時、海や森や山を含むすべての大地は、震動しました。神々は嬉しげに天衣や美しい花々を雨降らしました。[71] 「今日、三界の師がルンビニー園にお生まれになるだろう」と考えて、すべての神々はそれを見るために集まってきました。[72] 四大王天がそれを見るためにやって来ました。その最高の車を持ち上げつつ、ゆっくり林へ前進させました。[73] 同様にインドラ神も神々の群を伴いやって来て、道を綺麗にして、欣然と[車の] 前方を進みました。[74] 梵天も大仙人たちを伴いやって来て、すべての悪人たちを遠ざけて、喜び先導しました。[75] 同様に他の世界の神の王たちも、それを見るために集まって来て、合掌して拝礼し、かの妃を見ながら、喜悅しました。[76]

それを見て、かの王も、驚きに心が圧倒され、「[誕生される] この方はきっと世界の庇護者になれるであろう」と考えました。[77] 「梵天やインドラ神、すべての世界の神の王たちも、彼への天の供養の大祝祭をもって大奉仕をしているので、それ故、この方は三界の庇護者、すべての世界の王たちの支配者、あらゆる法の王、師・導き手になれるであろう。[78-79] 三界の世界には彼に匹敵する者は誰もいない。梵天王やインドラ神など、すべての者たちが尊崇する故に、この方は三界の支配者、大威神力をもつ諸神中の神、すべての知識の最高の王、法王になれるに違いない。[80-81] [それ故] 梵天やインドラ神などの神々、あらゆる世界の首長たちも、絶えず彼に尊び、尊崇し、帰依するのであろう。」[82]

このようにして、かの輝かしき大妃マーヤーは、美しく飾られ、車の宝石の座に坐り、善い侍女たちに伴われ、[83] また、あらゆる装飾品に飾られた、風の速度よりも速い八万四千の馬車に伴われ、[84] あらゆる装飾品に飾られた、真っ黒な雲に似た八万四千の象車に伴われ、[85] 立派な四肢の容姿をもつ、甲冑で武装した、剣を手にもつ、猛々しい八万四千の勇者たちに取り囲まれ、[86] 歩兵・兵士・軍兵である、様々

な武具をもった八万四千の戦士たちに大きな歓喜をもって取り囲まれ、[87] 飾りを身につけ、美しい感官と容姿をもつ、六万の釈迦族の娘たちに大きな喜びをもって随行され、[88] 四万人の浄飯王の親族集団である壮年の身体をもつ釈迦族〔の男たち〕によって護られ、[89] かの王・大地の主が有する、六万四千の魅力的な輝かしい容姿をもつ美女たちによって随行され、[90] 八万四千の天女に伴われ、また〔八万四〕千の龍女に楽しげに取り囲まれ、[91] 同様に八万四千のガンダルヴァの女たち、馬頭の女たち (hayāsya)、アスラの女たちによって〔取り囲まれて〕、[92] このように、歌舞音曲や讃歌〔の詠唱〕をなし、仕える無数の他の美女たちによって取り囲まれ、随行されました。[93]

こうして、大きな歓喜を抱く、他の友や親族や敬愛される人々大勢を伴って、その都城から外へ出て行きました。[94]

香水が撒かれ、天の花々がふり撒かれ、葉・花・果実に満ちた樹々によって美しくされたその地において、神々が集まり来て、天の装身具で飾られた、天の芳香で満ちた、〔天界の〕ミシュラカー園のように造成されたその〔園〕を見て、かの大妃マーヤーは心悦ばされ、車から降りて、そのルンビニー園に入りました。[95-97]

其処で彼女は天女たちと侍女たちを伴いつつ、その美しい林を観望して、大きく歓喜するに至りました。[98] かのマーヤー妃は悦んでその地を遊歩しつつ、すべての樹々を見て、プラクシャ樹に近づきました。[99]

妙なる枝や葉に飾られ、妙なる花の房々に満ちた、天の芳香が薫る、美しいその最高の樹、一様々な妙なる色の衣などのあらゆる装飾が垂れ下がる、様々な宝石の光に輝く、如意樹に似た美しさの〔樹〕、一緑の草が覆っている清らかな平らな地面の、過去の仏たち〔を出産した〕母たちが依拠した場に位置する〔樹を〕見つめて、清らかで美しい心をもつかの大妃は、合唱し合奏する神々によって楽しまされて、嬉しげに〔そこへ〕歩きました。[100-103]

仏の母であるその妃が近づいてくるのを見て、浄信を起こしたそのプラクシャ樹はすぐさま身を屈めて、お辞儀しました。[104] それを眺めて、かの大妃は右手を伸ばし、枝を掴み、虚空を見て、欠伸びながら立ちました。[105]

その時、欲界に居るすべての六万のアプサラスたちが、かの妃のもとに近づいて来ました。彼女たちすべては〔妃の〕近くに寄って、天の供養の具をもって仕え、一心に奉事しました。[107]

その時、かの〔菩薩〕は母の胎内でラトナヴューハ (宝莊嚴) の座に居り、時〔の到来〕を観察し、心は三昧の状態にありました。[108] そして月がプシュヤ星座と合した時に、〔母胎中のラトナヴューハという〕宮殿の宝石の莊嚴をもつ蓮華座に居た彼は、心統一しつつ、正知・正念の状態で、三界を輝かせながら、母の右脇から出てきて、誕生しました。[109-110]

母の割れた〔右〕脇は、すぐさま無傷になりました。その幼子が出てくる時に〔母に〕わずかの〔苦の〕感受ありませんでした。[111] ウルヴァは腿から、プリトゥは手から、マーンダートリは頭から〔生まれた〕のと同じように、菩薩は汚れなく、母の脇の下から生まれました。[112]

生まれた偉大な彼は清浄なる感官の体を有し、三十二相八十種好に飾られていました。[113] 汚れがない清浄な四肢と、あらゆる神的存在を超えた美しさを有し、あらゆる焰の光を超えた光明を放って、世界を照らしながら、輝きました。[114]

誕生した彼を見て、梵天とインドラ神は近づき、天衣をもって包んで、抱持しつつ、敬礼しました。[115] それから他の神々も、生まれた彼を見つめながら、天衣をもって包んで、抱持し、敬礼しました。[116]

その時、その地所に大蓮華が大地から出現しました。生まれたばかりの彼は、心統一して、そこに坐りました。[117]

虚空に居るナンダとウパナンダの二竜王が欣然とその幼子を冷水と温水の流れをもって洗淨しました。[118] 同様に、他の神々の首長も、梵天やインドラ神なども、天の香水をもって、敬意をもって彼を洗淨しました。[119]

虚空にいるそれらすべての神々が、天の芳香ある花々を撒き降らしつつ、その幼子を拝礼し、挨拶しました。[120] その時、月光のように白いすばらしい輝きをもつ、清らかな二本のチャーマラ（蠅払い）と、天の宝石で出来た傘蓋が、空中に出現しました。[121]

そこで蓮華の座に坐ったかの菩薩・一切智は、四方を観察し、あらゆる生類を觀ました。[122] 「戒においても禪定においても智慧においても善い諸性質においても、私に匹敵するいかなる者も一切処に存在しない」〔と〕、彼は觀察しました。[123] そして、すべての世界に、自分と等しい者・超える者を見なかった彼は、あらゆる生類の行為を觀察して、〔それらの行為を〕厭い輕蔑しました。[124]

その子の偉大な力を考えて、その時すべての勝者（仏）たちはただちに金剛から成るその大地の地所を加持しました（奇跡的な力を加えました）。

そして獅子のように畏れ無き者である彼は、よく憶念を保って心を集中させて、東の方角を向いて、大地の上に七歩を歩きました。[126] 彼が〔東方を〕觀つつ、足を踏み下ろして〔七歩を〕歩みますと、その足を置いた場所ごとに大きな蓮が出現しました。[127] かの二本のチャーマラと傘蓋は、彼が進む時、空中を浮遊しつつ、どこにでも追隨しました。[128]

正念の状態にある彼は、その場ですべての仏たちを見て、憶念しつつ、合掌し礼拝して、微笑しつつ次のように宣言しました。[129] 「私は、生類の世界における一切の善行者たちの先導者として、正法を教示して、〔それを〕至る処で行じさせよ

う。」[130] それを聞いて、すべての善逝や神々や諸世界の支配者たちは理解して、かの大士を見つめつつ、喜びました。[131]

それから彼は南の方角に向かって進みつつ、七歩を歩んで、諸仏を憶念しつつ、次のように宣言しました。[132] 「三界すべてに尊敬される者に私はなろう。諸仏の教えを宣説しつつ、教法を一切処に流布させよう。」[133]

それから彼は西の方角に向かって進みつつ、七歩を歩んで、諸仏を憶念しつつ、次のように宣言しました。[134] 「これが私の最後の生である。生類のため、悟りを得て、善い行法を説き明かして、苦を終滅せしめよう。」[135]

それから彼は北の方角に向かって進みつつ、七歩を歩んで、諸仏を憶念しつつ、次のように宣言しました。[136] 「私は無上の賢者として、生類のため、迷妄を捨てて悟りに達して、聖者として涅槃を教示しよう。」[137]

それから下の方角を見て、七歩を歩んで、すべての仏を憶念しつつ、笑って次のように宣言しました。[138] 「すべての魔の群に打ち勝ち、一切の地獄においてすら、[私は]法の甘露を雨降らせて、苦しみの火を鎮めよう。」[139]

それから彼は上の方角を見つつ、七歩を歩んで、善逝たちを憶念しつつ、仰ぎ見て合掌し、次のように宣言しました。[140] 「私はあらゆる世界に住む者たちから仰ぎ見られる者として、生類を菩提への道に安立させて、善行を行じさせよう。」[141]

以上のように菩薩が宣言されたのを一切処で聞いて、諸方角のあらゆる仏たちは彼を見つめながら、讃歎しました。[142] 同様にあらゆる菩薩・大士たちがそれを聞いて、大通知者の彼を見つめながら、彼を拝礼して、称賛しました。[143] 同様にあらゆる神々、あらゆる護世天たち、聖者たちも、それを聞いて、彼を恭しく礼拝しました。[144]

その時海やあらゆる山々を伴って大地すべてが震動しました。楽器が弾奏されないのに音を発しました。[145] 諸方の空間は澄みわたりました。あらゆる花の雨が空から降りました。すべての星々がまるで秋の時のように輝きました。[146] すべての樹々は、あらゆる季節の果実や花々によって飾られました。雪のような花粉を払う、触感に快い風が吹きました。[147] 雷光に飾られた雲は、重い深い音を響かせました。神々しい芳香を具えた甘露が雨降りました。[148] 天空には吉祥な梵音が聞こえました。天に属するあらゆる光明はうす暗くなって、輝きませんでした。[149]

彼の[発する]福德の光明に触ったすべての有情は罪が消え、大きな喜びと安楽を得て、法を希う者たちとなりました。[150] 煩惱・高慢・嫉妬・貪欲・慳貪の心が無くなったすべての有情は、清らかな感官をもつ者として、安楽に充たされました。[151] あらゆる者が無病となり、清らかな精神をもち、強壯な感官の体を有し、繁栄達成の幸せを具えて、[心の]徳性を喜びました。[152] あらゆる生き物において飢渴が止息し、酒への欲望も消えて、すべての者が安らかな心をもちました。[153] 狂った者たち

は正気を取り戻し、盲人たちはよい視力を得ました。聾者たちは良い聴覚を得ました。身体に不具をもつ者たちは清らかな感官の体を得ました。[154] 貧しい者たちはあらゆる富と財を得ました。拘禁された者は拘束具から解放されました。墮落した者は正しい人になりました。[155] 地獄の者たちの苦しみも完全に止息しました。すべての畜生たちが相互に恐怖することも止みました。[156] その時ヤマ世界に住むすべての餓鬼たちも飢渴などの苦しみも止みました。[157] その時いかなる病者もなく、いかなる貧窮人もなく、いかなる感官の欠損者もなく、いかなる哀れな苦しむ者もいませんでした。[158] いかなる煩惱ある墮落した者も、いかなる驕慢・高慢をもつ者も、いかなる強欲や嫉妬が心に満ちた者も、いかなる慳貪なる者もいませんでした。[159]

いかなる殺生を喜ぶ者も、邪淫を楽しむ者も、偷盗を欲する者も、妄語をなす者もいませんでした。[160] いかなる両舌をする者も、分裂したことを〔無意味に〕話す者も、粗暴な言をなす者も、残忍な心をもつ者もいませんでした。[161] いかなる貪欲に心が汚れた者も、瞋恚により悪意ある者も、騙し欺く詐欺者も、邪見を抱く者もいませんでした。[162] いかなる不道德な者も、悪行に愛著する者も、正法を誹謗する者も、道理を逸脱した者も、無慈悲な者もいませんでした。[163]

その時あらゆる有情は無病で、強壮になった身体を有し、欠けることのない感官を持ち、美しく、煩惱なく、清らかな心の者となりました。[164] 真実の法に専念する者、十善業道を行う者、繁栄によって富んだ者、布施する者、道徳的な者、幸せな心をもつ者になりました。[165] 忍辱の喜びを具え、正法の達成に努力する者、よく心を集中させた聡明で明敏な者になりました。[166] すばらしい光輝と善い徳性の庫として、法を希求し、信心と熱誠を具え、善い友と交わることを喜ぶ者になりました。[167] このようにして、すべての現在いる生物である神々やアスラや人間、また動物や〔その他の〕生類は、四梵住の者（慈悲喜捨を具えた者）となりました。[168]

どこにも神々による禍や、悪霊の禍はありませんでした。その時どんな天災もなく、いかなる危難もありませんでした。[169] ヴェーターラ（屍憑鬼）も、羅刹も、悪霊も、死霊（preta）も、ピシャーチャ鬼も、ガンダルヴァも、キンナラも、夜叉も、ナーガ蛇も、ガルダ鳥も、クンバンダ羅刹も、グヒヤカ鬼も、アスラたちも、その時どんな有情にも害を与えませんでした。[171-171] その福德の光明に触れたあらゆる有情たちは、汚れなき者となり、欠点のない安楽を具え、大きな喜びをもって振舞いました。[172] ダーキニーも、〔八〕母たちも、ヴェーターダ（屍憑鬼）も、バイラヴァなども、またスカンダと曜星たち、ガナたち、マハーカーラ（大黒）のガナの首領たちも、その福德の光線に触れて、慈しみの心をもつ者となりました。[173] 〔彼らは〕かの大士が誕生したのを見て、喜悅心を起こし、ただちに近づいて敬礼し、常に守護しながら近くに居ました。[174]

すべてのピシャーチャ女や羅刹女や羅刹たちも、その福德の光線に触れて、憐れみの心をもつ者となりました。[175] [彼らは] 大通知者の彼が誕生したのを見て、歓喜し、ただちに近づいて敬礼し、常に熱心に守護しました。[176]

羅刹女たちの群を伴う、大暴悪なるエーカジャター (Ekajātā 一髻) はかの生類の守護者が誕生したのを見て、歓喜しました。[177] 五百の息子たちを伴う母である夜叉女ハーリティー (鬼子母神) は、五百の娘と五百の娘婿たちと共に、かの偉大な方が誕生したのを見て、喜び、ただちに近づいて、敬礼し、常に近くにあつて守護しました。

[178-179] 同様に夜叉の王である勇者、大神通をもつヴァジュラ・パーニ (執金剛) はグヒヤカたちとヨーギニーたちとヨーギンたちを伴って、かの大士が誕生したのを見て、歓喜し、ただちに近づいて、敬礼し、常に熱心に守護しました。[180-181] 同様に、大神通あるすべての大仙・苦行者たちも、彼が誕生したのを見て、お辞儀して、悦びました。[182]

以上のように、あらゆる場所で生き物たちは神々が報知するのを聞いて、理解を得て、如来の誕生を思つて、喜びました。[183] その時 [彼らは] あらゆる世界において、大きな喜びと安楽を具え、困難事のない、善行への絶え間ない努力を開始しました。[184]

かの [菩薩の] 福德の光線の輝きは、すべての世界の間処をも明白にし、浄らかにし、美しいものに変えました。[185]

その時、歌舞音曲を演じることや、めでたい楽器の音が昼夜起こりました。[186] 広大な雲は深い音を鳴らし、花・香粉・美衣・装身具などを雨降らしました。[187] すべての有情は大きな歓喜と安楽をもって振舞い、至る所で不可思議な光輝への大喜心を起こしました。[188]

かの大士が生まれた時、天空の一億のアプサラスたちがマーヤー妃のもとにやって来て、見つめました。[189] 彼女を見ながら、近づいて、それらすべてのアプサラスたちは欣然と、神々しい供養・奉仕の品々や、美衣や装身具を捧げつつ、お辞儀し、その幼子に対して浄信を起し、「美しいひとよ、安寧でありますでしょうか」と尋ねて、傍に来ました。[190-191]

六十万の天女はアプサラスの群と共に、ルンビニー園にやって来て、マーヤー妃に奉侍しました。[192] 彼女たちは皆、王妃とその幼子を見て歓喜し、「全く安寧でしょうか」と尋ねつつ、近づいて、次のように言いました。[193] 「何も憂えることなく、あなたは喜びなさい。なぜならあなたには最高のことが得られたのですから。大妃よ、私たちはあなたにお仕えするために来ました。[194] もしあなたのためになすべき仕事がありましたら、そのすべてをご教示下さい。わたしたち全ては、あらゆる仕事を成し遂げることに有能です。[195]

あなたのお子は世界の庇護主であり、世間に益するため、お生まれになりました。生と老と死の破壊者たる、偉大な医者になられるでしょう。[196]

この大士がお生まれになった時、すべての樹々は花が満開となって美しく、果実もつけて、輝いていますし、海や山々を含む大地すべてが震動したのですから、めでたい運命をもつ、輝かしい最高の大士であられるのに間違いありません。[197-198]

この方の光明によってすべての世界が輝かされましたし、また至る所で弾まないのに楽器が鳴りましたし、また十万の浄居天などの神々が天空にいて、生まれたこの子を見て、嬉しげに拝礼しています。[199-200] それ故、この方は、一切世界の者たち、三界に住する者たちを益する大士として、法王になるであります。[201]

また梵天とインドラ神も御生母の脇から誕生された方を拝しつつ、美衣をもって包んで、抱きましたので、それ故、この方は三界の庇護主・一切法の王・主・一切智・阿羅漢・大通知者・牟尼の王になるであります。[202-203]

またこの方の身体から発した光線が、照らしつつ地獄の一切処に居る者たちの罪悪を浄化しましたので、それ故、この方は一切の有情を一切の悪趣から救う者、大きな精進と剛勇さをもつ隊商主（導師）になられるでしょう。[204-205]

またこの方がお生まれになったのを見て、空中の二龍王が拝しつつ、甘露水の冷たい流れと暖かい流れをもって洗いましたし、[206] また空中の喜ぶ神々が、天の花や妙香などを含む甘露水をもって、恭しくこの方を洗いましたし、[207] またこの方の誕生を見て、空中の龍王たちが歓喜して、よい香りのする清浄な水をもって洗いましたので、[208] それ故、全く清浄なる感官の体をもたれるこの方は、三界の救済者となり、すばらしい光輝ある善い徳性の庫として、一切世界の王となられるでしょう。[209]

またこの方がお生まれになって、空中に二本のチャーマラと一本の傘蓋が生じて随行し、大地を進みましたので、それ故、この方はすべての大地の王、あらゆる王中の王、転輪王として、すべての人に益と利をもたらす大王となられるでしょう。[210-211]

またこの方はすべての生類の長上として、自身の心に沈潜しつつ、すべての方角に向かって、七歩を歩んで進みましたし、その時、この方が歩を置かれたところに大きな蓮が生じたので、それ故、この方は三界の師、一切の学問の王となられるでしょう。[212-213]

またこの方は、東の方角を見ながら、『三界すべてにおいて私はあらゆる守護主たちの上首である』と嬉しげに宣言されましたし、[214] 南の方角を見ながら、『尊敬される者に私はなろう』と、また西の方角を見ながら、『これが私の最後の生である』と、[215] また北の方角を見ながら、『私は指導者になろう』と、また上の方角を見ながら、『生類に善行を行じさせよう』と、[216] また下の方角を見ながら、『あらゆる罪悪を浄化し、魔群に勝利し、菩提に達し、涅槃を得よう』と、[217] このように、この方はすべての方角を眺められ、宣言されたのですから、それ故、この方はすべ

ての世界の上首であり、尊ばれる者、指導者となられるでしょう。[218] 一切智・世尊・師として、あらゆる魔に勝利し、煩惱を離れた阿羅漢として、清浄な心と、清浄な感官の体を有し、最高の菩提に達して、正法を説き明かすことで、生類を菩提への道に安立させてから、涅槃を得るでしょう。[219-220] このように真実を完全に知って、大妃よ、それを喜びなさい。偉大な福德力のおかげで、あなたには光輝ある徳性の宝蔵〔たる方〕が得られたのです。」[221]

以上のように、アプサラスたちを含めたあらゆるそれらの慶ぶ神々が教えたことを聞いて、かの王妃は喜悅しました。[222]

その後すべての神々はアプサラスの群と共に、欣然とかの王妃とかの幼子を拝礼して、その場から天界に去って行きました。[223]

その時梵天は彼の〔胎中の〕住まいであった宮殿ラトナヴューハを見て、手に取って、欣然と梵天界に行きました。[224] 〔梵天は〕其処にその美しいラトナヴューハを安置して、神々しい供養・奉仕の品々をもって恭敬して常に尊崇しました。[225] 同様にすべての大智ある聖者たち、苦行者たちも、その宮殿を恭敬して拝み、常に尊崇しました。[226] 同様に他の神々の首長たちも、彼の住まいであったラトナヴューハを恭敬して、大きな熱狂をもって、常に喜び尊崇しました。[227]

その時、このように誕生した彼を見て大喜びした家臣たちは、王の前に行き、跪拝して、次のように語りました。[228]

「万歳！閣下、大王様、あなた様に望みが成就しました。マーヤー大妃に素晴らしいお子がお生まれになったのです。[229] 神々しく麗しく美しい、めでたい相好に〔体が〕飾られた、あらゆる輝きを凌駕する輝きを放つ、最も清浄なる感官の体をもつ方は、あらゆる有情に益と利をもたらず偉人の宝として、一切世界の王、守護主である転輪王になられるでしょう。[230-231]

梵天やインドラなどの神々はすべて、お生まれになったその方を見て、悦びの心をもって抱きとり、敬礼しました。[232] 同様にあらゆる天女たちの群は、アプサラスの群と一緒に、かのお生まれになった方を見て、欣然と集まり来て、尊崇しました。[233] すべての護世王たちもまたかのお生まれになった方を見て、歓喜し、近づき来て、守護しつつ、喜んで尊崇しました。[234] どうしてかくの如き、多言を要しましょうか。その御誕生の時、あらゆる世界で、めでたい喜びの音楽が響きました。[235] それゆえ、王よ、あなた様も今や、大士たるかのご子息のもとに来られて、ご覧になり、お悦びください。」[236]

このようにそれらの家臣が報告するのを聞いて、王は明るい心で、喜悅し、同意しました。[237] その〔言葉〕を聞いて大臣たち、高官たち、司祭官などのバラモンたち、すべての家来、臣下の者たち、市民たちは喜悅し、祝いました。[238]

以上のように、私の師が私に教示された通りに、今私はお話しました。あなたも常に人々に〔この法話を〕聞かせてやってください。[239]

もしこの、菩薩の御誕生の出来事の善説 (janmavṛttisubhāṣita) を聞いて、喜んだ方が、人々にも〔それを〕聞かせて、喜ばせてあげるならば、その方は、清らかな心をもつ賢明な輝かしい菩薩として、すばらしい喜びと安樂を楽しみつつ、最後の時には勝者の住まい（極樂）に行かれるでしょう。[240-241]

このように師（ウバグプタ）が教示されたのを聞いてアショーカ王は、欣然と「わかりました」と答えて、同座の者たちと共に喜び同意しました。[242]

以上、『菩薩誕生品』（Bodhisattvajanmaparivarta）という第8章終わる。

* * * *

[附] TJAM 全37章の章名 (A 写本)

1. Tuṣitabhuvanāvātāraṇasarvalokābhisaṃbodhanābhinandana 7b
2. Mānavajanmāvātāraṇasamutsāhparivarta 20b
3. Śākyakulasamutpattiḥprasiddha 28a
4. Kauliyasamutpattimāyādevīvivāha 33b
5. Dharmālokamukhopadeśanāparivarta 38b
6. Tuṣitapracalanāparivarta 46b
7. Garbhāvākṛāntiparivarta 53b
8. Bodhisattvajanmaparivarta 60b
9. Śuddhāvāsikadevaputrādyasitarṣisaṃdarśanāparivarta 68b
10. Abhayākuleśvarīdevatāsaṃdarśanāparivarta 72a
11. Bodhisattvānnaprāśanāparivarta 74b
12. Lipiśālābhigamanāparivarta 77b
13. Grāmāntikakṛṣisaṃdarśanāparivarta 82a
14. Śilpakalāsarvavidyāsaṃdarśanayaśodharāstrīratnasamāgamāparivarta 93b
15. Antaḥpurābhiratibodhisattvaniṣkramaṇasaṃcodanāparivarta 104a
16. Svapnāparivarta 108a
17. Jīṇarogigatāsudarśanaratirāgaviḥātana 116a
18. Pravrajyābhigamanaprārthanābhisaṃbodhana 123a
19. Niryāṇānujñāsaṃprārthanāparivarta 129b
20. Antaḥpurāvalokanābhiniṣkramaṇotsāhparivarta 136a
21. Purābhiniṣkramaṇāparivarta 151b

22. Chandakanivartanasarvāntaḥpurikāśokavinodanakanthakasvargābhirohanaparivarta 165b
23. Maḥarṣitapovratasaṃdarśanaparivarta 172b
24. Bodhisattvānveṣaṇābhibodhanaparivarta 177b
25. Magadhādhīpatibimbisāraṇṇpābhisamgatiparivarta 184b
26. Duṣkaravratācaryāparivarta 193a
27. Bodhisattvavratābhipālanasujātābhojanāharaṇaparivarta 199b
28. Bodhisattvabodhimaṇḍagamanaparivarta 208a
29. Bodhimaṇḍe sarvalokapūjābhigamanamahāvvyūhaparivarta 216b
30. Māradharṣaṇaparivarta 241b
31. Sambodhanaparivarta 249a
32. Saṃstavaparivarta 257b
33. Trapuṣabhallikavaṇīksaṃghasamāgamaparivarta 277a
34. Adhyeṣaṇāparivarta 284a
35. Dharmacakrapravartanaparivarta 298a
36. Buddhajanmamahāyānasūtrabhāṣaṇaśravaṇādīpuṇyaprasāṃsāparivarta 301b
37. Aśokabodhicaryāvratadhāraṇaparivarta 303b

※本研究は科研費（24520054）の助成を受けたものである。

<キーワード> Bodhisattvāvadānakalpalatā, Subhāṣitamahāratnāvadānamālā, Avadānanaśataka, Avadānamālā, Nārapūrvika, Pretībhūtamaharddhikā, Tathāgatajanmāvadānamālā, Padyalalitavistara, Bodhisattvajanmaparivarta

(九州大学大学院教授, Ph.D.)